

# 宮崎県防災会議 地震専門部会 (令和7年度第4回)

被害想定

# 被害想定見直しの結果の概要

- 各種データの更新や計算手法の見直し等を行った結果、想定される死者数やライフライン関係の被害はやや減少する予測となったが、依然として甚大な被害が想定されることに変わりはない。

被害の種類	当初想定 (H25.10)	前回想定 (R2.3)	今回の想定 (R8.2)	<参考> 国想定 (R7.3)
人的被害	(早期避難率:20%)	(早期避難率:55.5%)	(早期避難率:59.3%)	(早期避難率:20%)
死者数	約35,000人	約15,000人	<u>約11,000人</u> (早期避難率:20%→約21,000人 早期避難率:70%→約5,400人)	(約39,000人)
負傷者数	約27,000人	約20,000人	約20,000人	(約32,000人)
建物被害(全壊棟数)	約89,000棟	約80,000棟	約82,000棟	(約83,000棟)
避難者(最大)	約399,000人	約370,000人	約434,000人	(約404,000人)
災害関連死者数			約1,700~3,500人	
ライフライン被害(地震発生直後)				
上水道(断水人口)	約1,058,000人	約1,034,000人	約954,000人	(約950,000人)
電力(停電件数)	約541,000軒	約591,000軒	約574,000軒	(約560,000軒)
通信(固定電話不通回線数)	約343,000回線	約311,000回線	約235,000回線	(約230,000回線)

1. 自然条件の更新概要
2. 社会(建物・人口)データの更新概要
3. 建物被害の想定概要
4. 人的被害の想定概要
5. ライフライン被害の想定概要
6. 生活への影響の想定概要

# 1. 自然条件の更新

## ○予測手法の整理（地震動）

更新箇所

項目		H25調査	R07調査
想定地震		2つの地震を想定 ①南海トラフ（陸側ケース） ②宮崎県独自モデル	同左
震源モデル		①内閣府「南海トラフの巨大地震モデル 検討会」による強震断層モデル ②津波浸水予測図で対象とした独自モデル	同左
地盤 モデル	深部	全国1次地下構造モデル（暫定版）を微動アレイ観測等により更新した「宮崎県モデル」	H25調査をベースとし、内閣府（2025）にて変更があった地点は更新
	浅部	J-SHISの250mメッシュ微地形区分、土地基本分類基本調査における地形分類図、空中写真を参考にした50mメッシュの浅部地盤モデル	地形分類等により前回の微地形区分を見直し、収集したボーリングデータを参考に更新
予測 手法	震源～ 工学的基盤	統計的グリーン関数法	同左
	工学的基盤 ～地表	工学的基盤震度に表層地盤の震度増分を考慮	同左

## ○予測手法の整理（液状化）

更新箇所

項目		H25調査	R07調査
想定地震		2つの地震を想定 ①南海トラフ（陸側ケース） ②宮崎県独自モデル	同左
予測手法	液状化危険度	「道路橋示方書・同解説（2002年3月発行）」による、砂質土層の液状化の判定手法	「道路橋示方書・同解説（2017年11月発行）」による、砂質土層の液状化の判定手法
	液状化発生による地盤沈下量	建築基礎構造設計指針（2001）に示されている方法	建築基礎構造設計指針（2019）に示されている方法

## ○予測手法の整理（土砂災害）

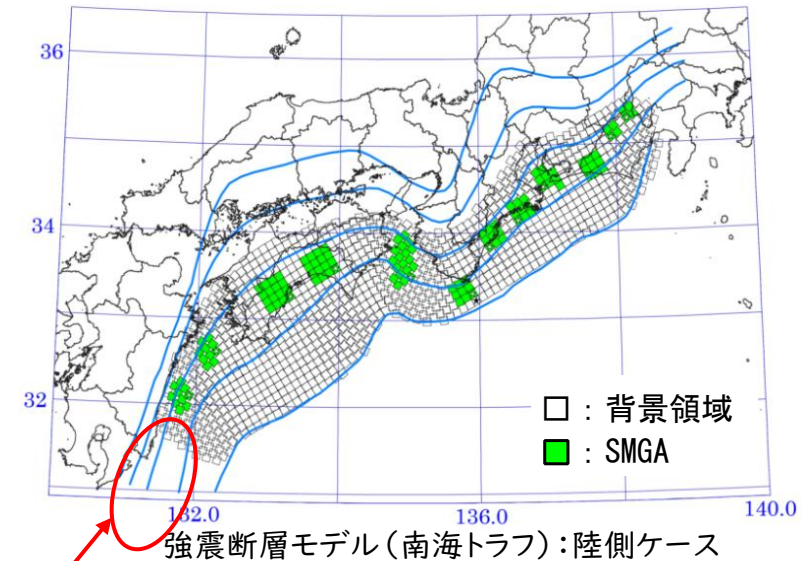
項目		H25調査	R07調査
想定地震		2つの地震を想定 ①南海トラフ（陸側ケース） ②宮崎県独自モデル	同左
予測手法		急傾斜地崩壊危険箇所の耐震性危険度ランクと、震度階より急傾斜地崩壊の地震時危険度ランクを算出	DEMデータと地震動から、斜面崩壊の危険度を判定（国土地理院地震時地盤災害推計システム（SGDAS））

## ○想定地震一覧

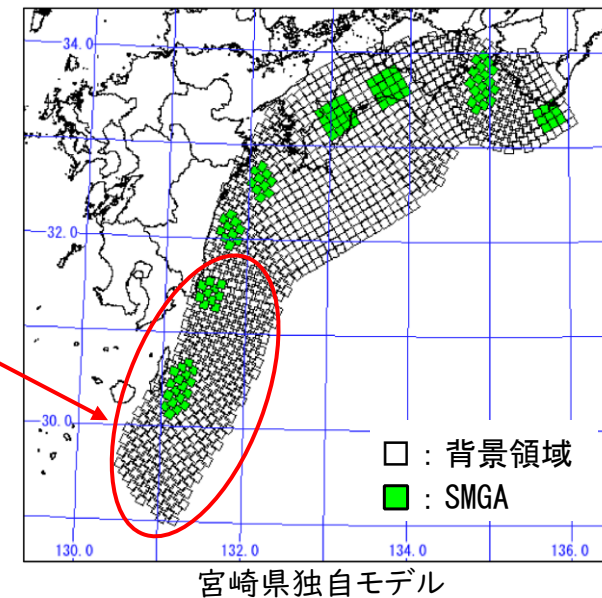
種類	名称	地震規模
海溝型	①南海トラフ	Mw9.0程度
	②宮崎県独自モデル	Mw8.9

## ○概要

- 津波浸水想定の対象波源と同様に2つの地震を想定する。
- ①は、H25調査、RI調査でも対象とした県への影響が非常に大きい、内閣府「南海トラフ巨大地震モデル・被害想定手法検討会」の強震断層モデルを用いる。(内閣府(2012)からは変更なし)
- ②は、H25調査、RI調査でも対象とした宮崎県独自モデルである。防災上の観点から、県南部沖に日向灘と同等規模のSMGAを設定している。SMGAの位置は、過去の地震時の強震動生成域と概ね同じ場所に位置する可能性が示唆されていることから、セグメントに2個配置する。もう一つのSMGAは種子島沖に設定している。

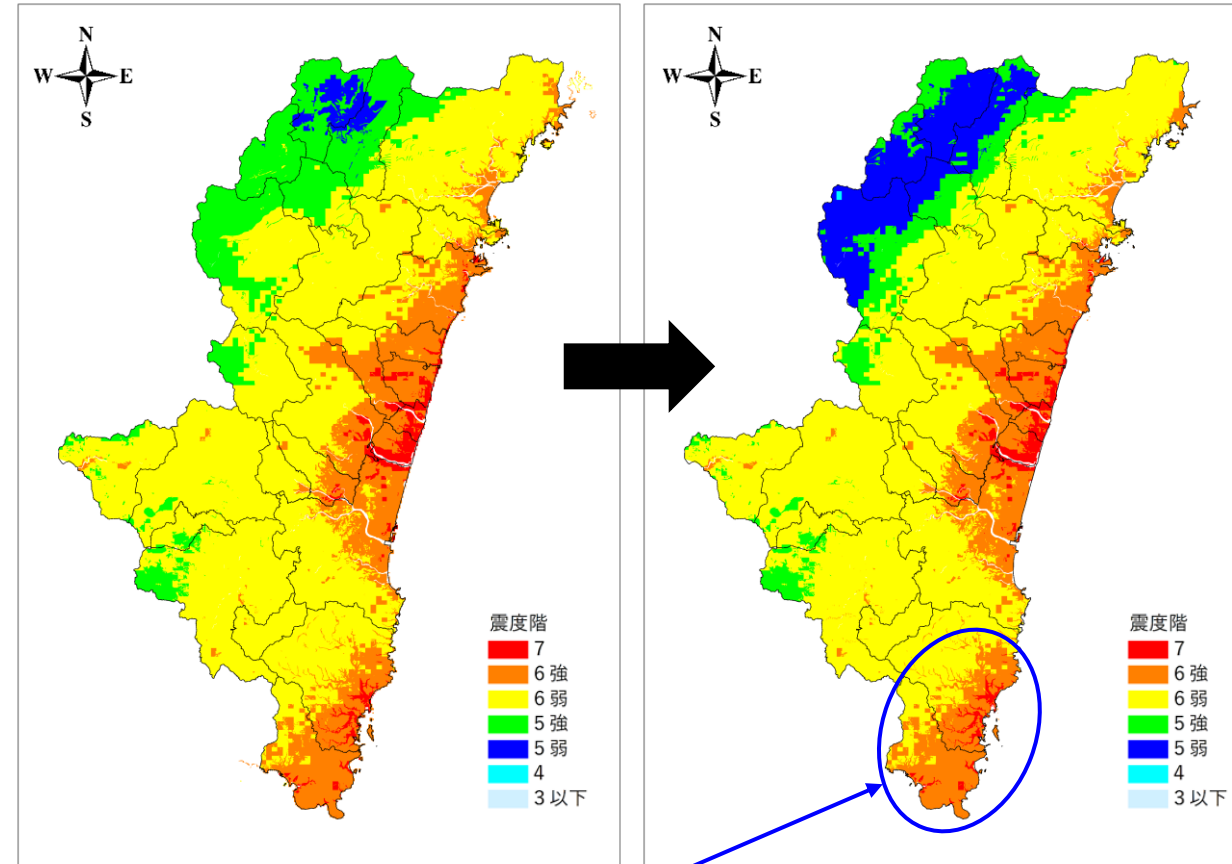
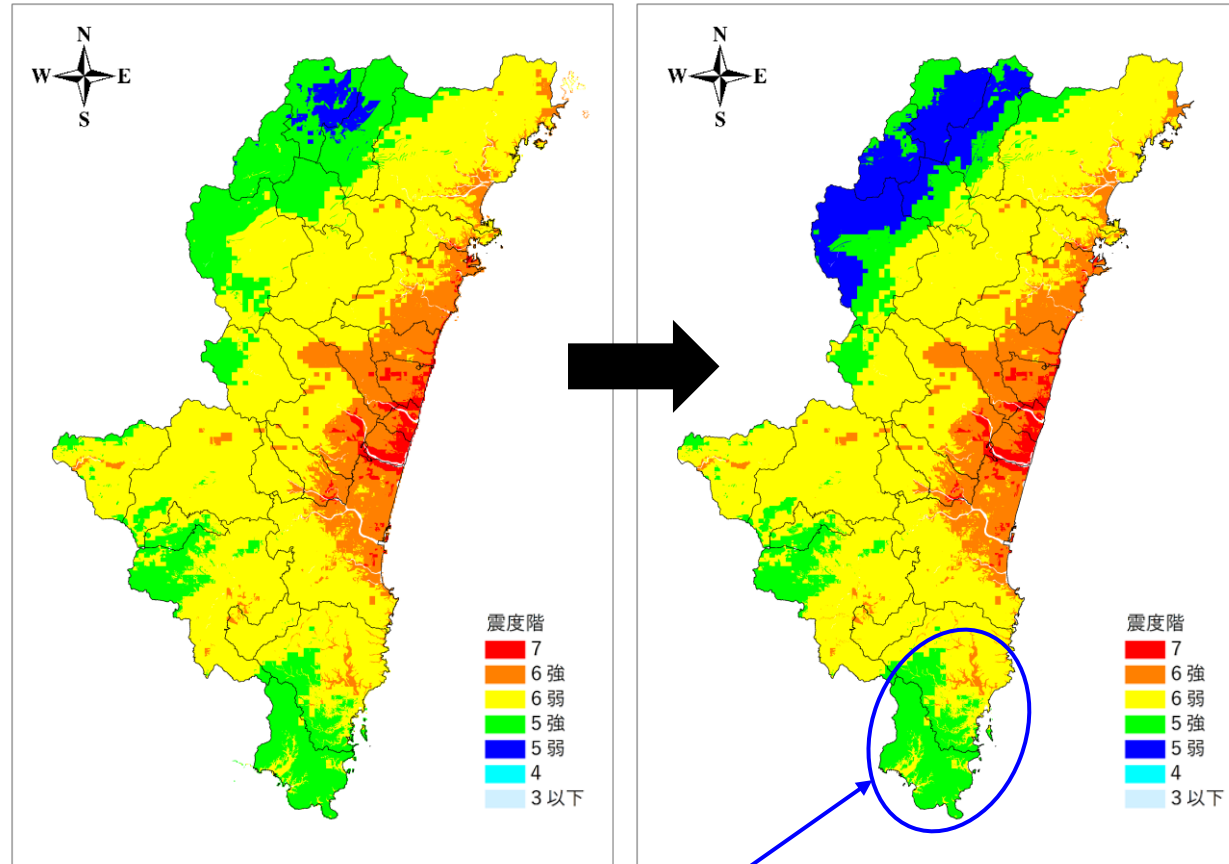


日向灘より南側まで震源域を含む



### 南海トラフ

### 宮崎県独自



H25・R01調査

R07調査

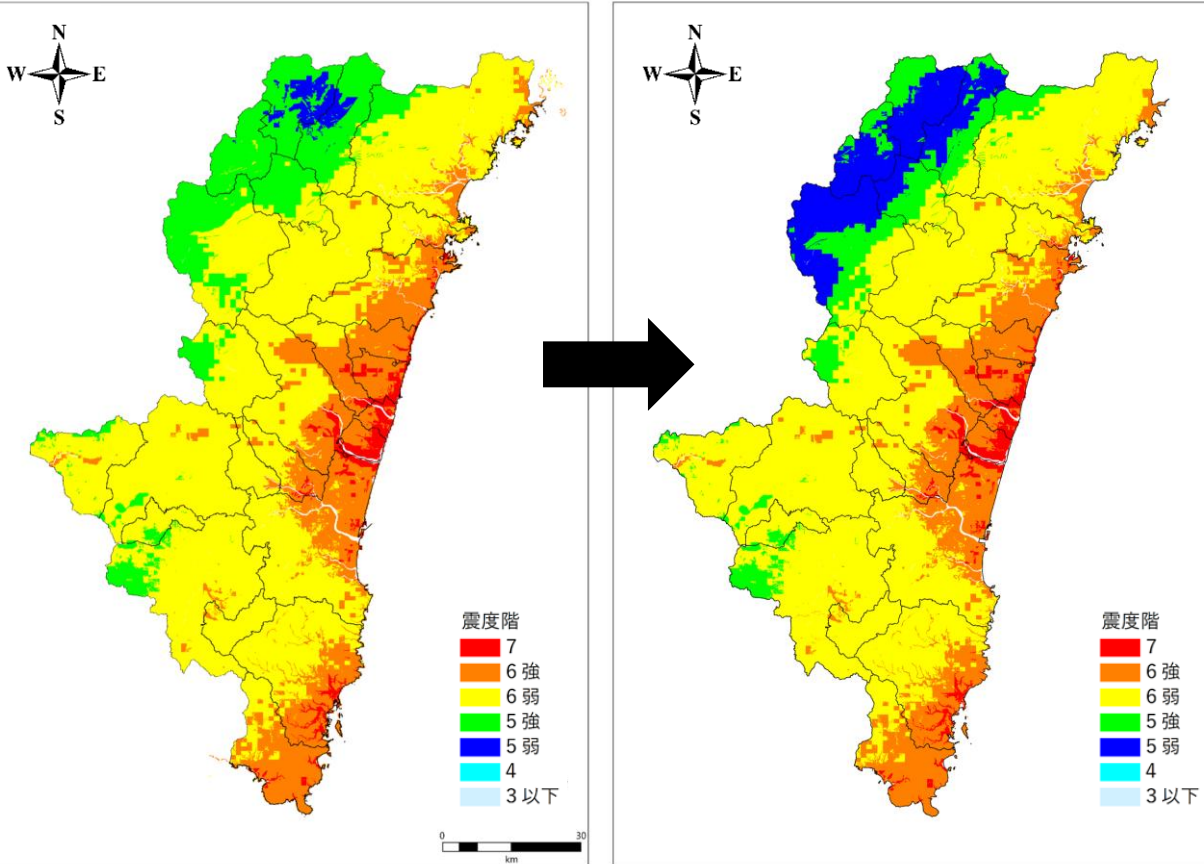
H25・R01調査

R07調査

震源モデルの違いにより、宮崎県独自モデルの方が県南部の揺れが大きくなる

# 1-1.地震動の更新

## 最大地表震度



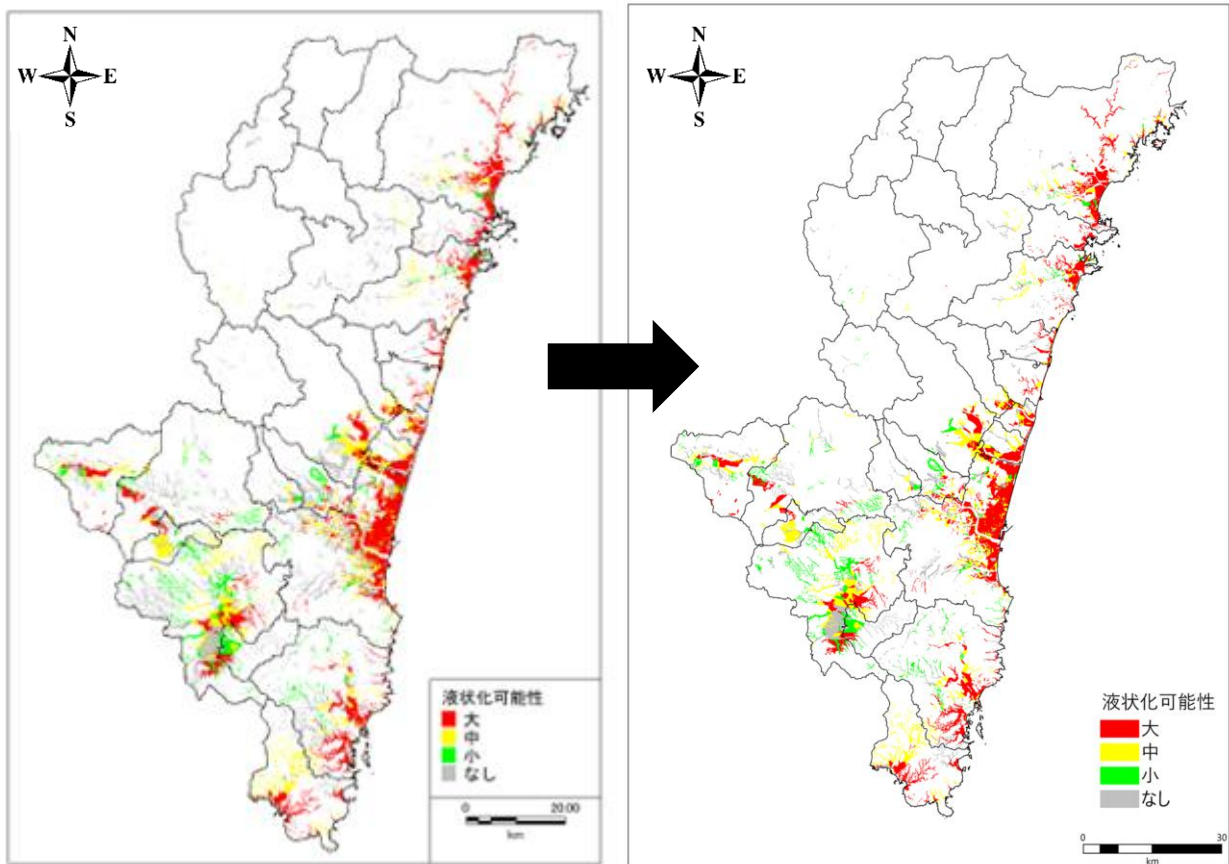
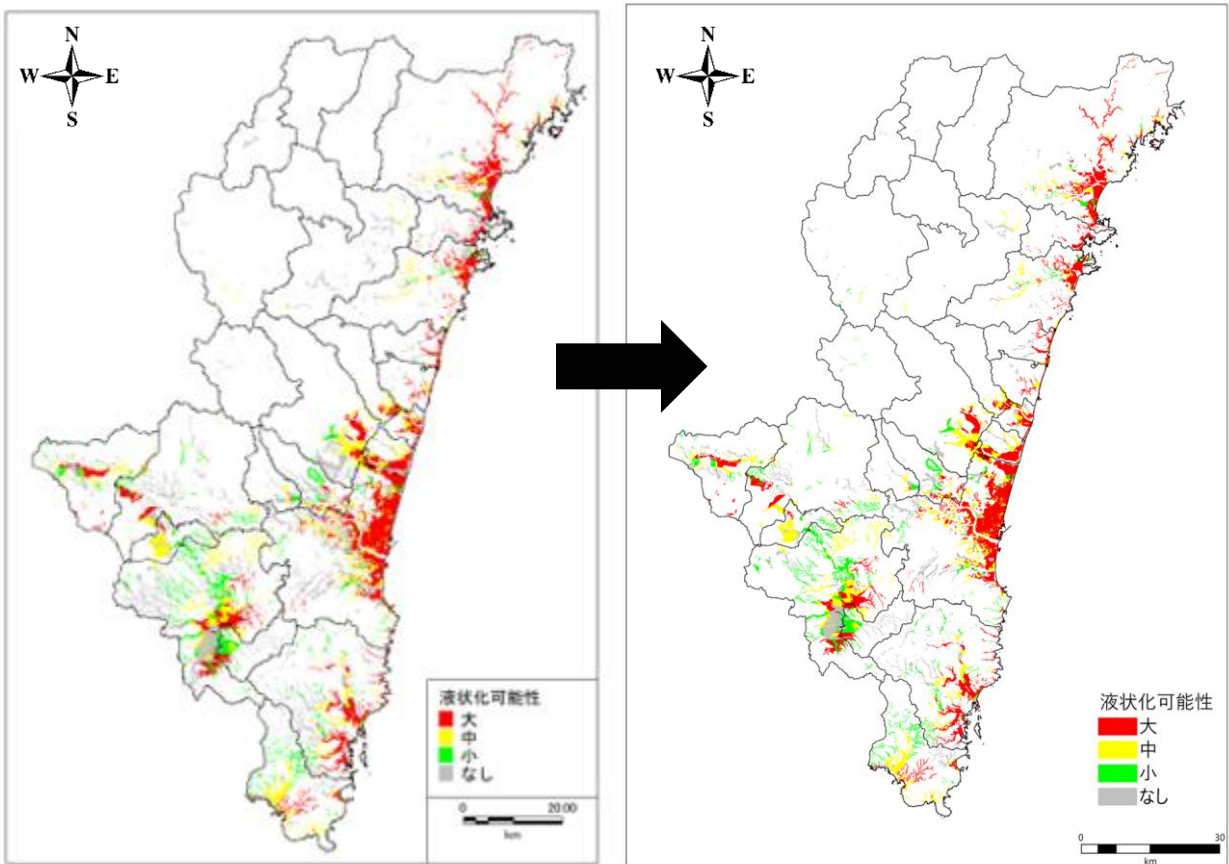
H25・R01調査

R07調査

市町村	H25・R01調査	R07調査
宮崎市	7	7
都城市	6強	6強
延岡市	7	7
日南市	7	7
小林市	6強	6強
日向市	7	7
串間市	7	7
西都市	7	7
えびの市	6強	6強
三股町	6強	6強
高原町	6弱	6弱
国富町	7	7
綾町	6強	6強
高鍋町	7	7
新富町	7	7
西米良村	6強	6強
木城町	7	7
川南町	7	7
都農町	7	7
門川町	7	7
諸塚村	6弱	6弱
椎葉村	6弱	6弱
美郷町	6強	6強
高千穂町	6弱	5強
日之影町	6弱	6弱
五ヶ瀬町	6弱	5強

南海トラフ

宮崎県独自



H25・R01調査

R07調査

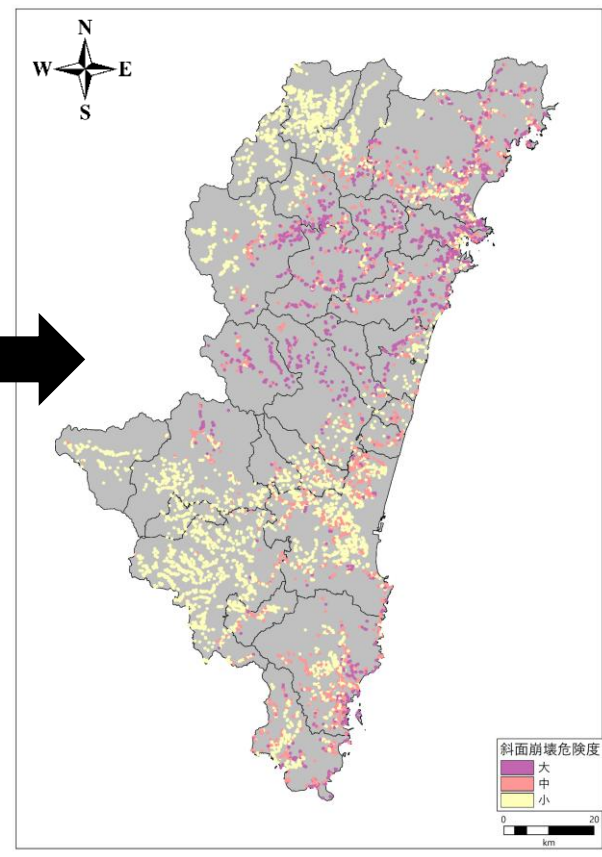
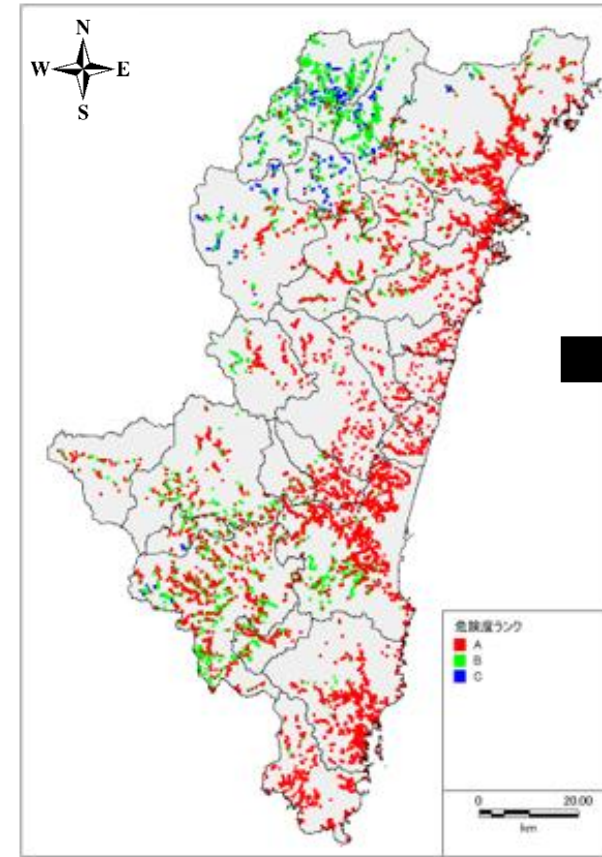
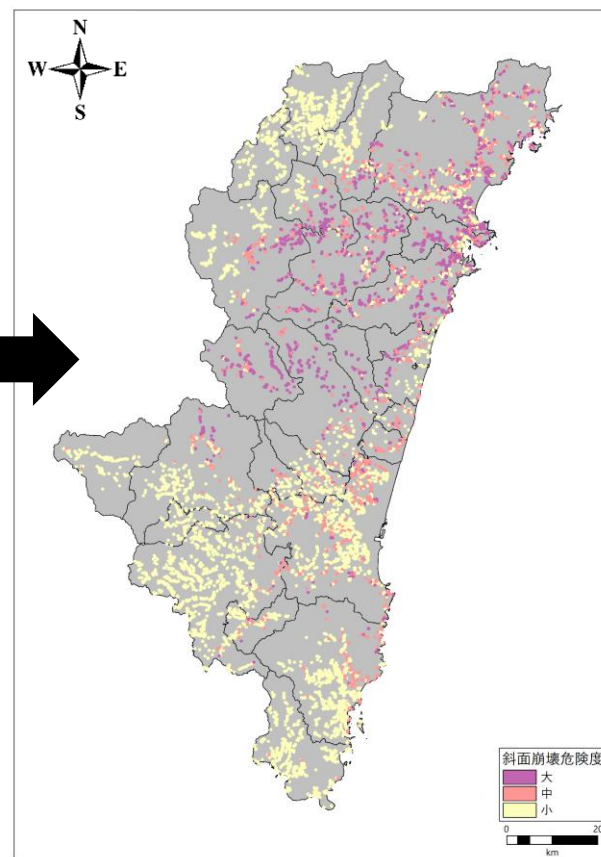
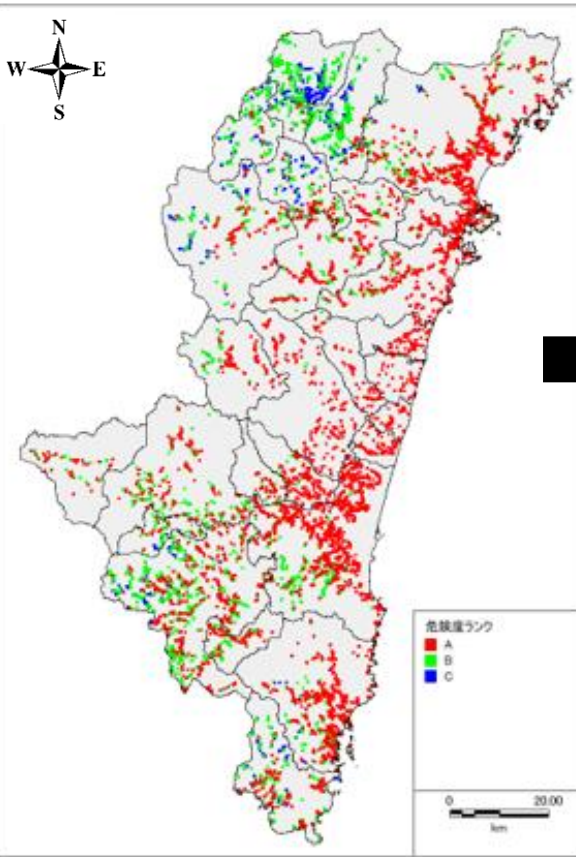
H25・R01調査

R07調査

# 1-3.土砂災害の更新

南海トラフ

宮崎県独自



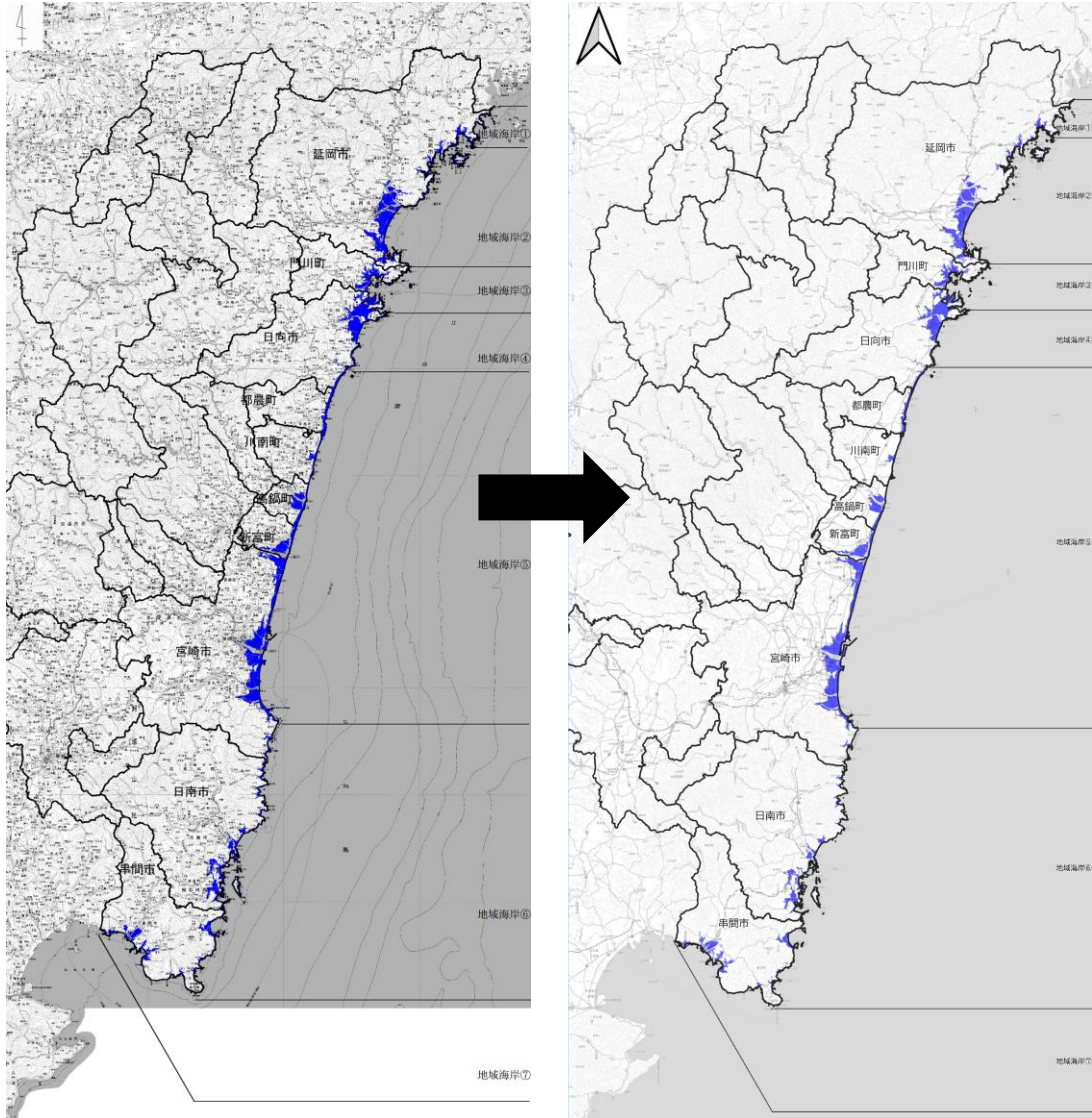
H25・R01 調査

R07 調査

H25・R01 調査

R07 調査

# 1-4.津波の更新(最大ケース)



赤:減少、青:増加

市町名	浸水面積(ヘクタール)[浸水深毎]					
	1cm以上	30cm以上	1m以上	2m以上	5m以上	10m以上
延岡市	3,110(-30)	3,100(70)	2,660(-60)	2,100(-70)	890(10)	120(-20)
門川町	670(-20)	670(-10)	600(-30)	510(-30)	170(-30)	※
日向市	2,050(-80)	2,050(-30)	1,890(-80)	1,590(-120)	640(-90)	10(-10)
都農町	340(-10)	340	300(-20)	270(-10)	150(-10)	※
川南町	210(-20)	210(-10)	190(-20)	150(-20)	60(-30)	※
高鍋町	660(-10)	660(40)	480(-20)	330(-20)	40(-20)	-
新富町	590(-20)	590(20)	380(-30)	220(-10)	20(-10)	-
宮崎市	3,940(-70)	3,920(170)	3,000(-70)	1,980(-70)	380(-50)	※
日南市	1,260(-80)	1,260(-10)	1,060(-70)	820(-70)	320(-40)	※
串間市	1,190(20)	1,190(100)	910(50)	560(30)	200(-30)	20(-10)
合計	14,020(-320)	13,990(340)	11,470(-350)	8,530(-390)	2,870(-300)	150(-40)

## 2.社会（建物・人口）データの更新

## 2.社会(建物・人口)データの更新概要

	H25調査	R01調査	R07調査
人口データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>①平成22年国勢調査</li> <li>②平成17年国勢調査と平成18年事業所リンク結果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①平成27年国勢調査</li> <li>②平成27年国勢調査と平成26年経済センサスリンク結果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①令和2年度国勢調査</li> <li>②平成27年国勢調査と平成26年経済センサスリンク結果</li> <li>③宮崎県の人口(令和7年10月1日)</li> <li>④各市町村の人口データ</li> </ul>
建物データ	<ul style="list-style-type: none"> <li>①固定資産税による建物データ(宮崎県市町村)(平成25年3月)</li> <li>②宮崎県住宅・土地統計調査(総務省統計局)(平成25年10月1日)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①固定資産概要調書(平成30年1月1日)</li> <li>②宮崎県住宅・土地統計調査(総務省統計局)(平成30年10月1日)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①固定資産税による建物データ(宮崎県市町村)(令和7年)</li> <li>②宮崎県住宅・土地統計調査(総務省統計局)(令和5年10月1日)</li> <li>③固定資産概要調書(令和7年1月1日)</li> </ul>

## 2-1.建物データの更新(市町村別の建物総数)

市町村名	H25調査			R01調査			R07調査		
	木造(棟)	非木造(棟)	合計(棟)	木造(棟)	非木造(棟)	合計(棟)	木造(棟)	非木造(棟)	合計(棟)
宮崎市	109,000	32,000	141,000	108,000	31,000	139,000	103,000	30,000	133,000
都城市	69,000	12,000	81,000	69,000	14,000	82,000	74,000	13,000	87,000
延岡市	41,000	12,000	53,000	40,000	11,000	51,000	45,000	12,000	58,000
日南市	23,000	4,600	28,000	23,000	4,600	27,000	24,000	5,000	29,000
小林市	23,000	5,800	29,000	20,000	4,600	25,000	23,000	5,700	29,000
日向市	21,000	6,100	27,000	23,000	7,000	30,000	23,000	6,200	29,000
串間市	11,000	1,800	13,000	10,000	2,100	12,000	11,000	1,900	13,000
西都市	12,000	1,700	14,000	11,000	1,800	13,000	12,000	1,700	14,000
えびの市	13,000	5,600	18,000	12,000	6,800	19,000	12,000	4,600	16,000
三股町	9,700	1,200	11,000	10,000	1,400	12,000	11,000	1,400	12,000
高原町	5,100	1,300	6,400	4,800	1,400	6,100	5,000	1,600	6,600
国富町	8,400	1,100	9,500	8,200	1,300	9,500	8,400	1,100	9,500
綾町	3,600	690	4,300	3,800	810	4,600	3,500	670	4,200
高鍋町	8,000	2,300	10,000	7,900	2,400	10,000	7,500	2,000	9,400
新富町	5,800	1,300	7,100	6,000	1,500	7,500	7,000	1,400	8,400
西米良村	810	90	900	750	110	860	790	80	860
木城町	2,500	450	3,000	2,500	510	3,000	2,500	450	3,000
川南町	8,000	2,600	11,000	7,700	2,800	10,000	8,000	2,600	11,000
都農町	4,400	820	5,200	4,200	980	5,200	4,900	1,000	5,900
門川町	7,300	1,100	8,300	7,200	1,100	8,300	7,500	1,100	8,600
諸塚村	770	90	860	720	100	820	710	60	780
椎葉村	1,700	120	1,800	1,500	140	1,600	1,500	110	1,600
美郷町	3,600	230	3,800	3,300	250	3,500	3,400	230	3,700
高千穂町	4,100	910	5,000	3,800	950	4,700	4,300	910	5,200
日之影町	2,800	170	3,000	2,600	180	2,800	2,200	160	2,400
五ヶ瀬町	1,800	240	2,100	1,700	250	2,000	1,800	220	2,000
総計	401,000	96,000	497,000	393,000	99,000	492,000	407,000	96,000	503,000

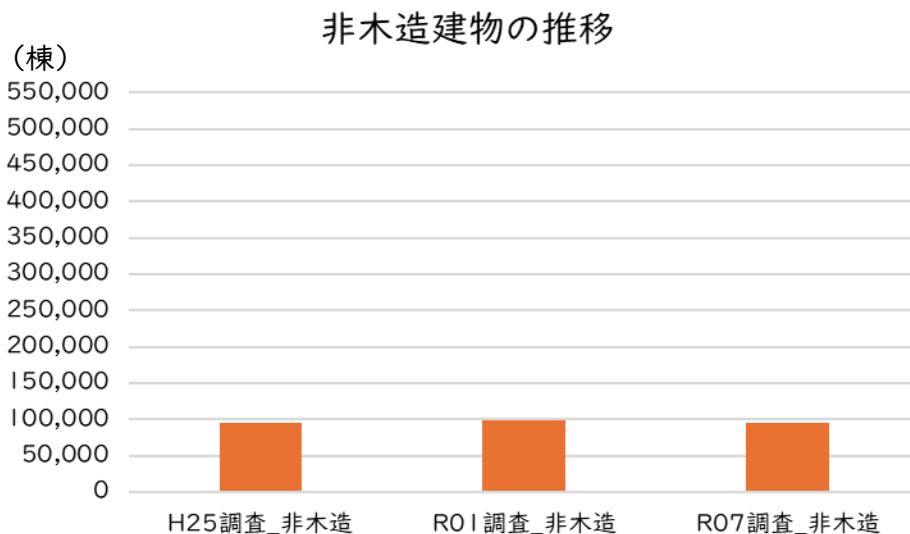
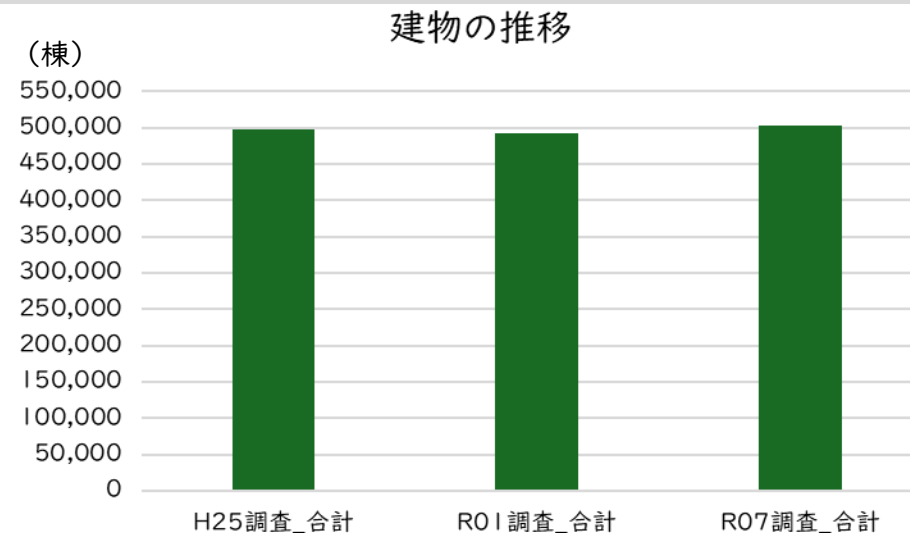
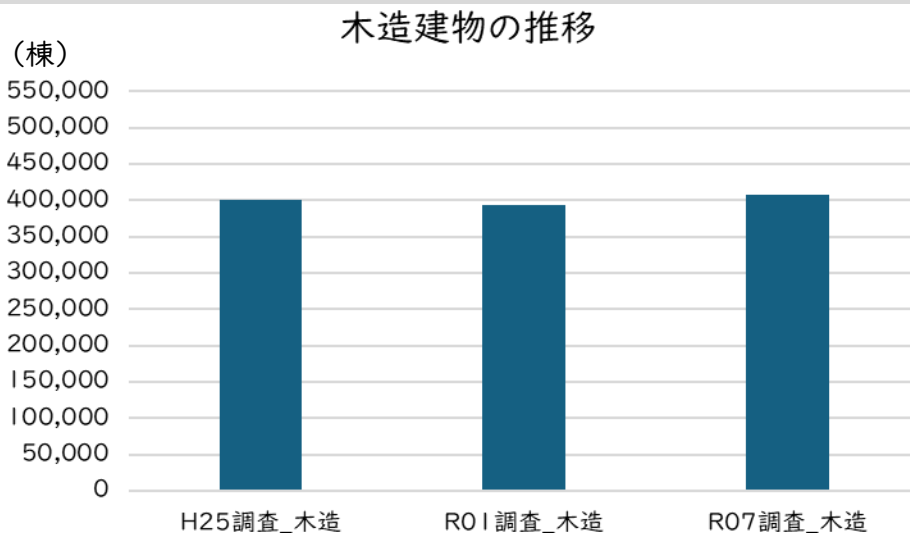
■ H25調査:固定資産税(H25)による建物データを用いて作成

■ R01調査:H25調査の結果から住宅土地統計調査を用いて補正

■ R07調査:固定資産税(R7)による建物データを用いて作成⇒H25、R01調査から微増

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

## 2-1.建物データの更新（建物総数の推移）



- 建物棟数は約492,000棟（R01調査）から約503,000棟（R07調査）へと約10,000棟増加した。

## 2-2.人口データの更新（市町村別の夜間・昼間人口）

市町村名	H25調査		R01調査		R07調査	
	夜間人口(人)	昼間人口(人)	夜間人口(人)	昼間人口(人)	夜間人口(人)	昼間人口(人)
宮崎市	401,000	396,000	401,000	404,000	391,000	396,000
都城市	170,000	171,000	165,000	171,000	157,000	158,000
延岡市	131,000	132,000	125,000	123,000	109,000	111,000
日南市	58,000	59,000	54,000	53,000	46,000	46,000
小林市	48,000	49,000	47,000	47,000	40,000	40,000
日向市	63,000	63,000	62,000	62,000	56,000	55,000
串間市	20,000	21,000	19,000	18,000	15,000	14,000
西都市	33,000	31,000	31,000	30,000	27,000	26,000
えびの市	22,000	23,000	20,000	20,000	16,000	16,000
三股町	25,000	21,000	26,000	21,000	27,000	27,000
高原町	10,000	9,600	9,300	8,100	7,800	7,200
国富町	21,000	20,000	20,000	19,000	17,000	17,000
綾町	7,200	6,500	7,300	6,500	6,500	5,900
高鍋町	22,000	23,000	21,000	21,000	19,000	18,000
新富町	18,000	17,000	17,000	16,000	16,000	15,000
西米良村	1,200	1,400	1,100	1,400	890	950
木城町	5,200	4,800	5,100	5,400	4,500	4,000
川南町	17,000	16,000	16,000	15,000	14,000	14,000
都農町	11,000	10,000	10,000	9,300	9,400	8,900
門川町	19,000	17,000	18,000	16,000	17,000	15,000
諸塚村	1,900	2,200	1,700	1,800	1,300	1,300
椎葉村	3,100	3,400	2,800	2,900	2,200	2,200
美郷町	6,200	6,600	5,500	5,700	4,100	4,100
高千穂町	14,000	15,000	13,000	13,000	10,000	10,000
日之影町	4,500	4,900	3,900	3,900	3,100	3,000
五ヶ瀬町	4,400	4,400	3,900	3,600	3,000	2,800
合計	1,135,000	1,127,000	1,104,000	1,098,000	1,019,000	1,018,000

■ R07調査：R2国勢調査データをもとに、現状の宮崎県の人口データ及び各市町村の人口データで補正して作成 ※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

■ 夜間・昼間人口ともに減少している

## 2-3.想定するシーン(季節・時刻)

- ROI 調査及び内閣府想定と同様に、県民の生活行動を顕著に反映し、被害が甚大になると想定される時間帯について、3種類設定する。
  - 風速も、ROI 調査及び内閣府想定と同様に強風時(8m/s)を設定する。

時間帯	設定理由
冬深夜	<ul style="list-style-type: none"><li>• 多くが自宅で就寝中に被災するため、家屋倒壊による死者が発生する危険性が高く、また津波からの避難が遅れることにもなる。</li><li>• オフィスや繁華街の滞留者や、鉄道・道路利用者が少ない。</li></ul> <p>*屋内滞留人口は、深夜～早朝の時間帯でほぼ一定である。</p>
夏12時	<ul style="list-style-type: none"><li>• オフィス、繁華街等に多数の滞留者が集中しており、自宅外で被災するケースが多い。</li><li>• 木造建物内滞留人口は1日の中で少ない時間帯であり、老朽木造住宅の倒壊による死者数は冬深夜と比較して少ない。</li></ul> <p>*木造建物内滞留人口は、昼10時～15時でほぼ一定である。</p> <p>*海水浴客をはじめとする観光客が多く沿岸部等にいる。</p>
冬18時	<ul style="list-style-type: none"><li>• 住宅、飲食店などで火気使用が最も多い時間帯で、出火件数が最も多くなる。</li><li>• オフィスや繁華街周辺のほか、ターミナル駅にも滞留者が多数存在する。</li><li>• 鉄道、道路もほぼ帰宅ラッシュに近い状況でもあり、交通被害による人的被害や交通機能支障による影響が大きい。</li></ul>

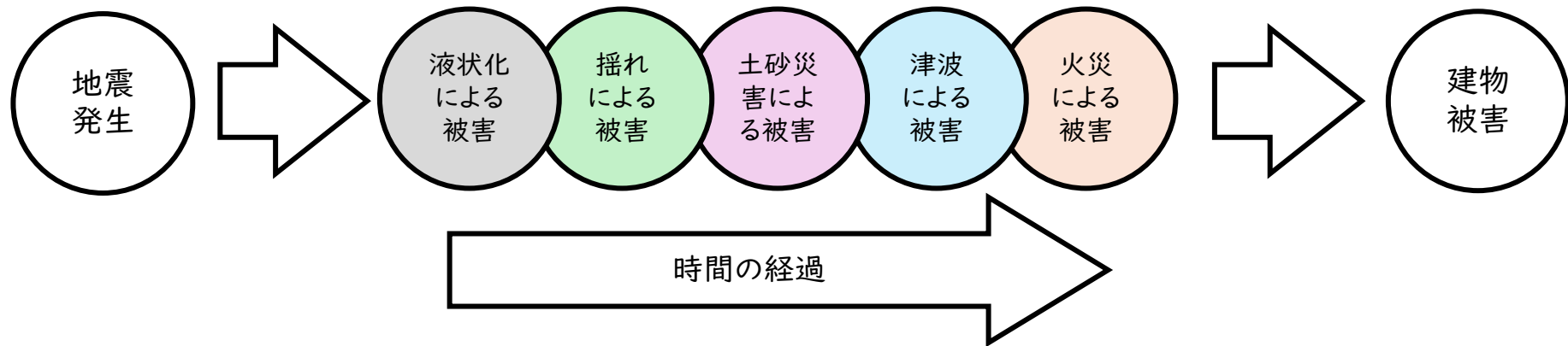
### 3. 建物被害の想定概要

### 3.建物被害の想定概要

項目	予測手法	主要データ
揺れ	固定資産データより建物データ現況を把握し、揺れと建物被害の関係より、被害棟数を想定	建物棟数(約492,000棟⇒約503,000棟) 耐震化率
液状化	固定資産データより建物データ現況を把握し、液状化による沈下量と建物被害の関係より、被害棟数を想定	建物棟数、構造年次
土砂災害	固定資産データより建物データ現況を把握し、SGDASの手法により推計した発生可能性と崩壊確率、全壊率、土砂災害警戒区域等に係る整備率の関係より、被害棟数を想定	土砂災害警戒区域等に係る整備率 (29.9%⇒30.5%)
津波	固定資産データより建物データ現況を把握し、浸水深と建物被害の関係より、被害棟数を想定	建物棟数、耐震化率
地震火災	固定資産データより建物データ現況を把握し、建物一棟毎のGISデータからクラスタを作成し、想定した出火件数から建物の燃え広がりを想定し、焼失棟数を想定	建物棟数、耐震化率、消防力(消防ポンプ自動車数、小型動力ポンプ数及び消防水利数)、感震ブレーカー設置率(全国的に見ても低いためROI調査と同じ0%)
ブロック塀等の転倒	固定資産データより建物データ現況を把握し、塀の設置率を考慮することで対象とするブロック塀の数を把握し、揺れと転倒率の関係から塀の被害数を想定	ブロック塀数 大分県(2008)方式を採用
自動販売機の転倒	統計資料より県内の自動販売機数を把握し、対策率を加味して、揺れと転倒率の関係から塀の被害数を想定	自動販売機数
屋外落下物	想定した揺れによる建物被害より対象とする建物棟数を把握し、揺れと落下率の関係から屋外落下物数を想定	建物棟数

## 3-1.建物被害の重複処理

- 建物被害の想定は大きく5つの要因別に想定しているが、複数の要因で重複して被害を起こす可能性がある。  
例) 揺れによって全壊した後に津波で流失。
- 被害要因の重複を避けるため、「液状化→揺れ→土砂災害→津波→火災焼失」の順番で被害の要因を割り当てるものとする。
- これらの重複処理は、前回調査や内閣府と同等の処理手法である。



# 3-2.液状化による建物被害

被害量(棟)、赤:減少、青:増加

宮崎県想定	南海トラフ		宮崎県独自	
	全壊(棟)	半壊(棟)	全壊(棟)	半壊(棟)
H25調査	約7,100	約28,000	約7,100	約28,000
R01調査	約5,600	約28,000	約5,600	約28,000
R07調査	約6,700	約32,000	約6,700	約32,000
差(増減)	約1,100	約4,000	約1,100	約4,000

<参考>

内閣府想定	南海トラフ		宮崎県想定との比較	
	全壊(棟)	半壊(棟)	全壊(棟)	半壊(棟)
内閣府(2012)	約4,000		約3,100	
内閣府(2019)	約3,700		約1,900	
内閣府(2025)	約3,200	約20,000	約3,500	約12,000
差(増減)	約500			

<要因>

- ① 建物棟数の増加

地盤沈下量

構造別・建築年次別建物数

木造2区分、非木造5区分

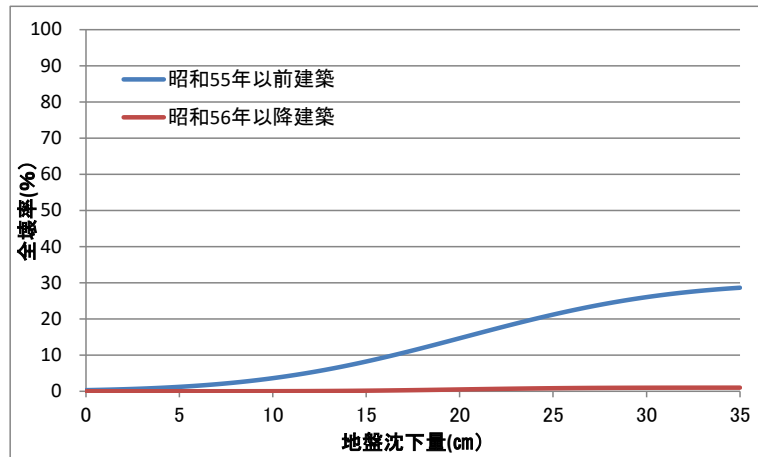
全壊率テーブル  
(地盤沈下量と全壊率の関係)

木造2区分、非木造5区分

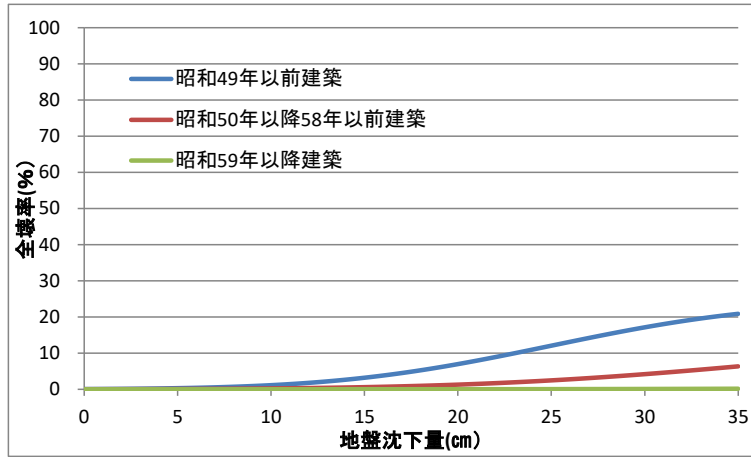
全壊棟数

# 3-2.液状化による建物被害

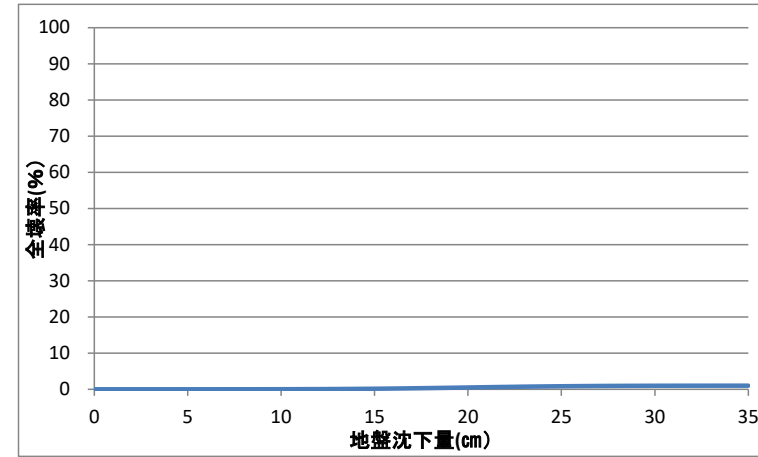
## ○地盤沈下量に対する建物全半壊率(内閣府2025)



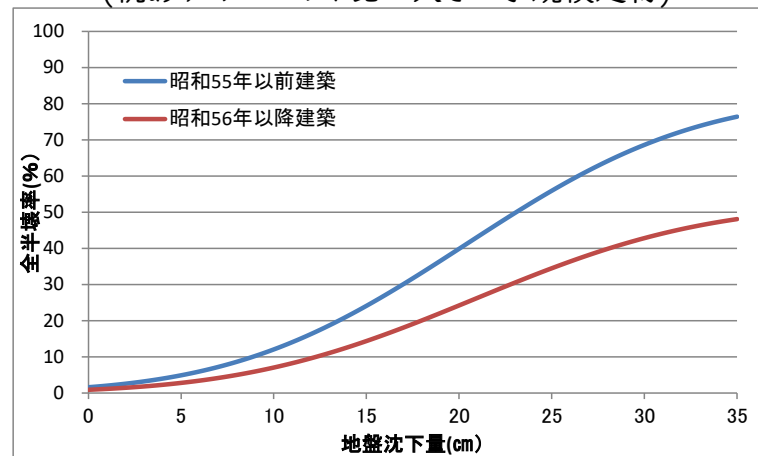
木造建物の全壊率  
(杭あり:アスペクト比の大きい小規模建物)



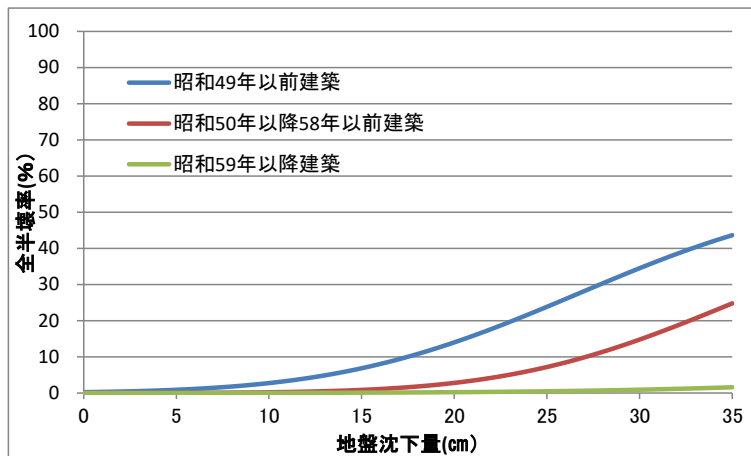
非木造建物の全壊率  
(杭あり:アスペクト比の大きい小規模建物)



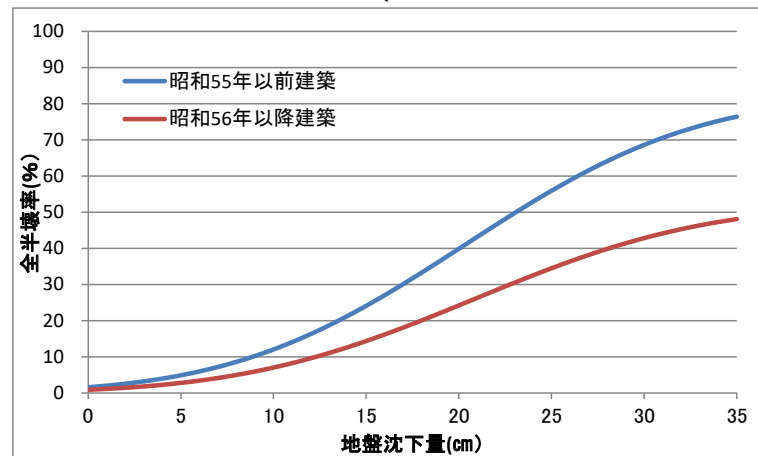
非木造建物の全壊率  
(杭なし)



木造建物の全半壊率  
(杭あり:アスペクト比の大きい小規模建物)

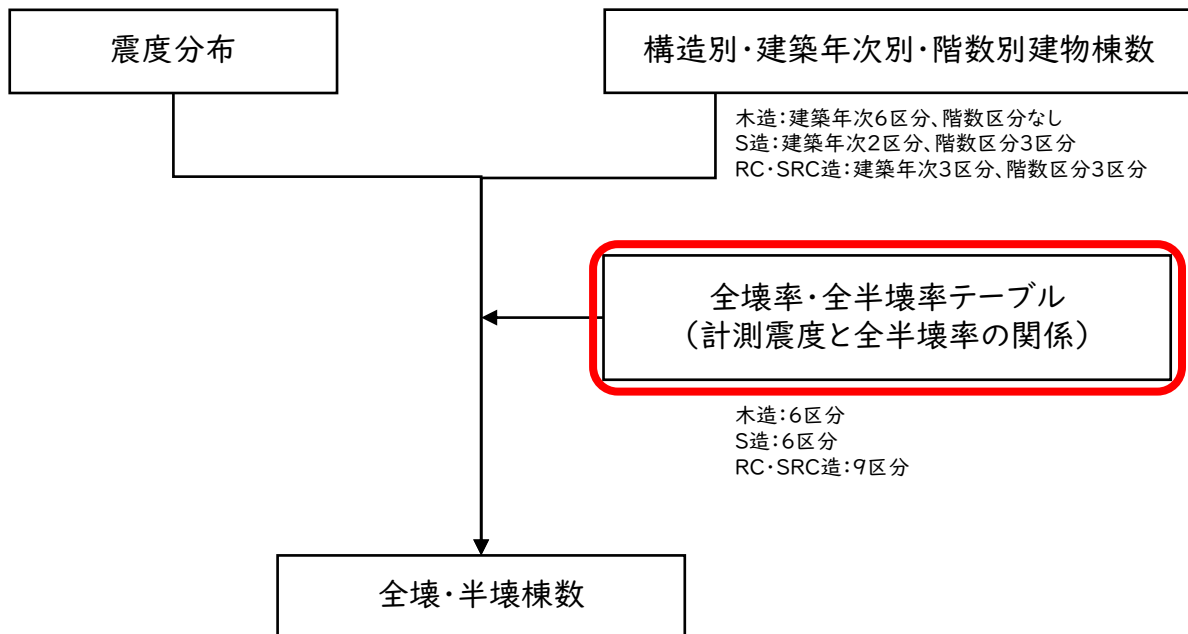


非木造建物の全半壊率  
(杭あり:アスペクト比の大きい小規模建物)



非木造建物の全半壊率  
(杭なし)

# 3-3.揺れによる建物被害



被害量(棟)、赤:減少、青:増加

宮崎県想定	南海トラフ		宮崎県独自	
	全壊(棟)	半壊(棟)	全壊(棟)	半壊(棟)
H25調査	約50,000	約76,000	約58,000	約81,000
R01調査	約41,000	約65,000	約48,000	約69,000
R07調査	約40,000	約64,000	約48,000	約68,000
差(増減)	約1,000	約1,000	約0	約1,000

<参考>

内閣府想定	南海トラフ		宮崎県想定との比較	
	全壊(棟)	半壊(棟)	全壊(棟)	半壊(棟)
内閣府(2012)	約39,000		約11,000	
内閣府(2019)	約31,000		約10,000	
内閣府(2025)	約35,000	約65,000	約5,000	約1,000
差(増減)	約4,000			

<要因>

- ① 旧耐震建物の減少

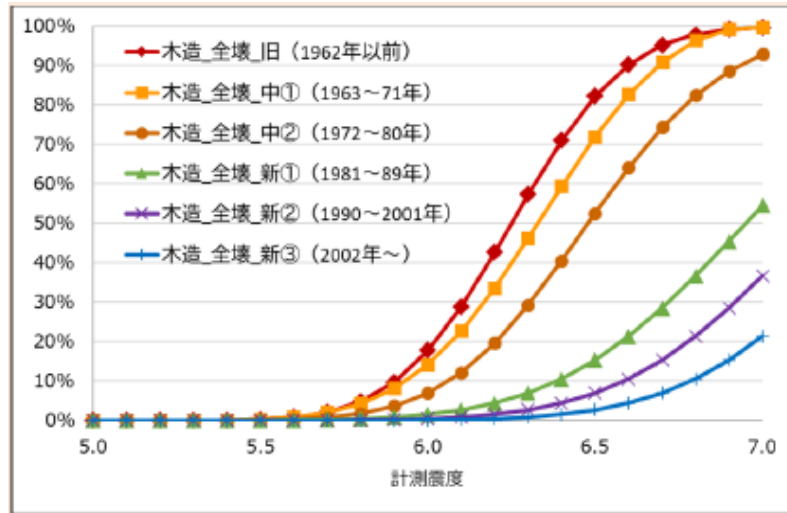
# 3-3.揺れによる建物被害

## ○建物の被害率曲線

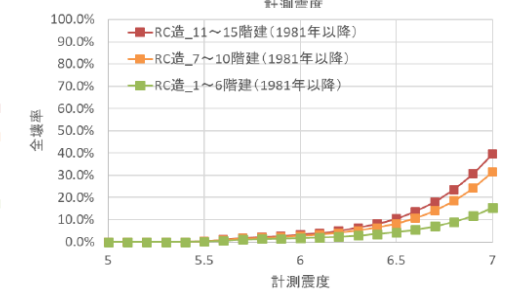
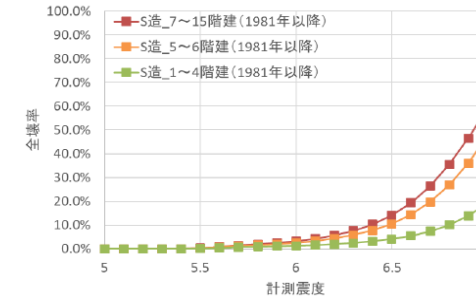
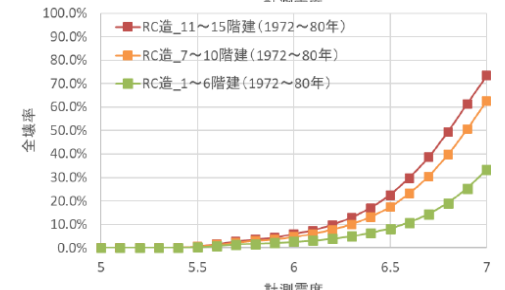
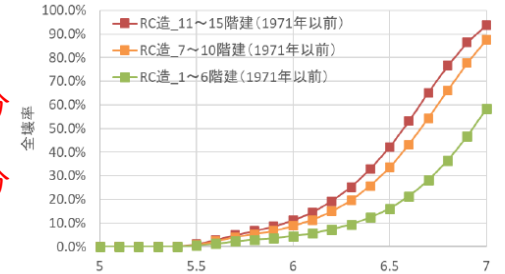
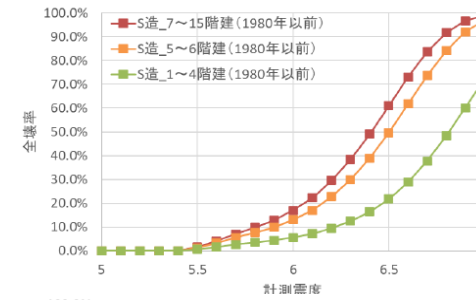
### ■ 建物の被害率曲線の設定

- 木造建物の被害率曲線は前回調査と同様。
- 非木造建物は、構造区分がS造、RC・SRC造の2つに区分された。
- S造は年次区分を旧・中築年、新築年の2区分、階数区分を①1～4階、②5～6階、③7～15階の3区分とする。
- RC・SRC造は年次区分を旧築年、中築年、新築年の3区分、階数区分を①1～6階、②7階～10階、③11～15階の3区分とする。

木造:変更なし



RC・SRC造  
階層3区分×年代3区分=9区分  
S造  
階層3区分×年代2区分=6区分



S造

RC・SRC造

図 非木造の全壊率曲線(今回)

出典)被害想定手法の概要(令和7年3月)

# 3-4.土砂災害による建物被害



被害量(棟)、赤:減少、青:増加

宮崎県想定	南海トラフ		宮崎県独自	
	全壊(棟)	半壊(棟)	全壊(棟)	半壊(棟)
H25調査	約400	約900	約400	約900
R01調査	約400	約900	約400	約900
R07調査	約210	約410	約260	約520
差(増減)	約190	約490	約140	約380

<参考>

内閣府想定	南海トラフ		宮崎県想定との比較	
	全壊(棟)	半壊(棟)	全壊(棟)	半壊(棟)
内閣府(2012)	約400		約0	
内閣府(2019)	約400		約0	
内閣府(2025)	約400	約800	約190	約390
差(増減)	約0			

<要因>

- ① 対象とするハザードを急傾斜地崩壊危険箇所から土砂災害警戒区域に見直したことによるもの

# 3-5.津波による建物被害

被害量(棟)、赤:減少、青:増加

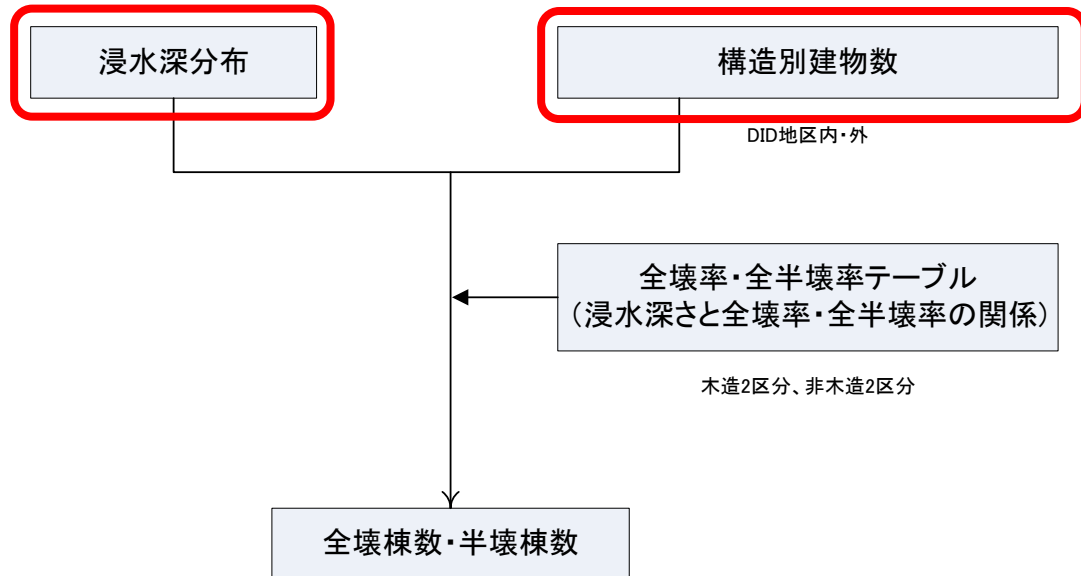
宮崎県想定	南海トラフ		宮崎県独自	
	全壊(棟)	半壊(棟)	全壊(棟)	半壊(棟)
H25調査	約29,000	約19,000	約19,000	約19,000
R01調査	約30,000	約20,000	約21,000	約20,000
R07調査	約32,000	約21,000	約22,000	約21,000
差(増減)	約2,000	約1,000	約1,000	約1,000

<参考>

内閣府想定	南海トラフ		宮崎県想定との比較	
	全壊(棟)	半壊(棟)	全壊(棟)	半壊(棟)
内閣府(2012)	約25,000		約4,000	
内閣府(2019)	約26,000		約4,000	
内閣府(2025)	約27,000	約17,000	約5,000	約4,000
差(増減)	約1,000			

<要因>

- ① 津波浸水面積は減少しているものの、建物棟数の増加に伴い、被害棟数は増加



# 3-5.津波による建物被害

## ○津波による市町村別建物被害

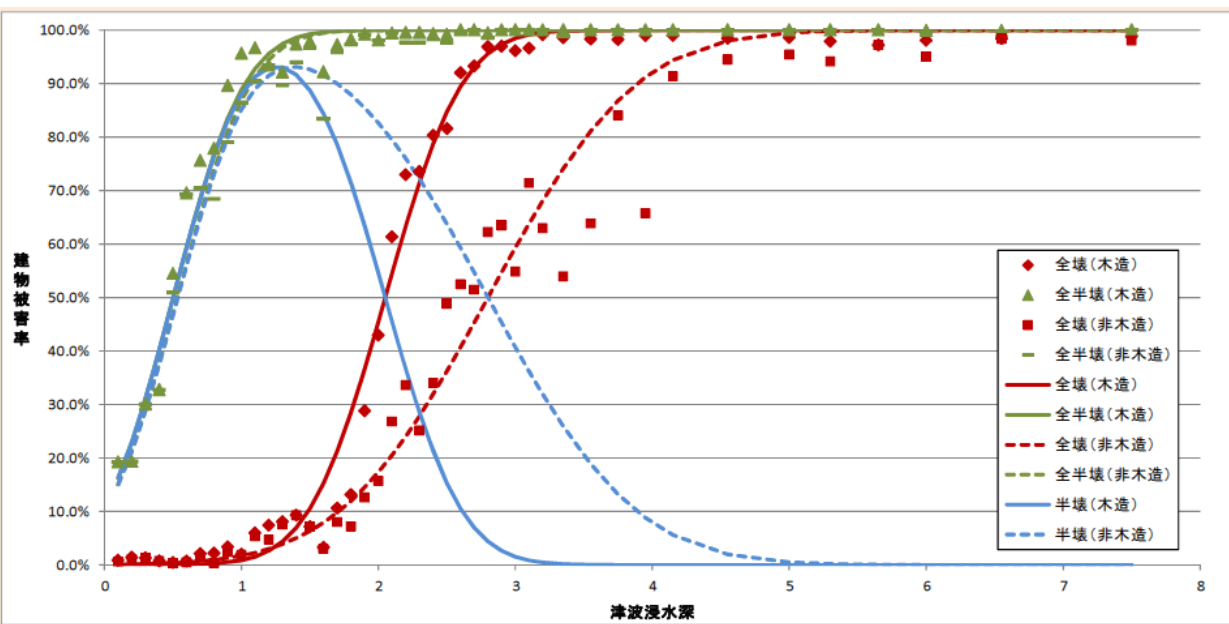
※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

被害量(棟)、赤:減少、青:増加

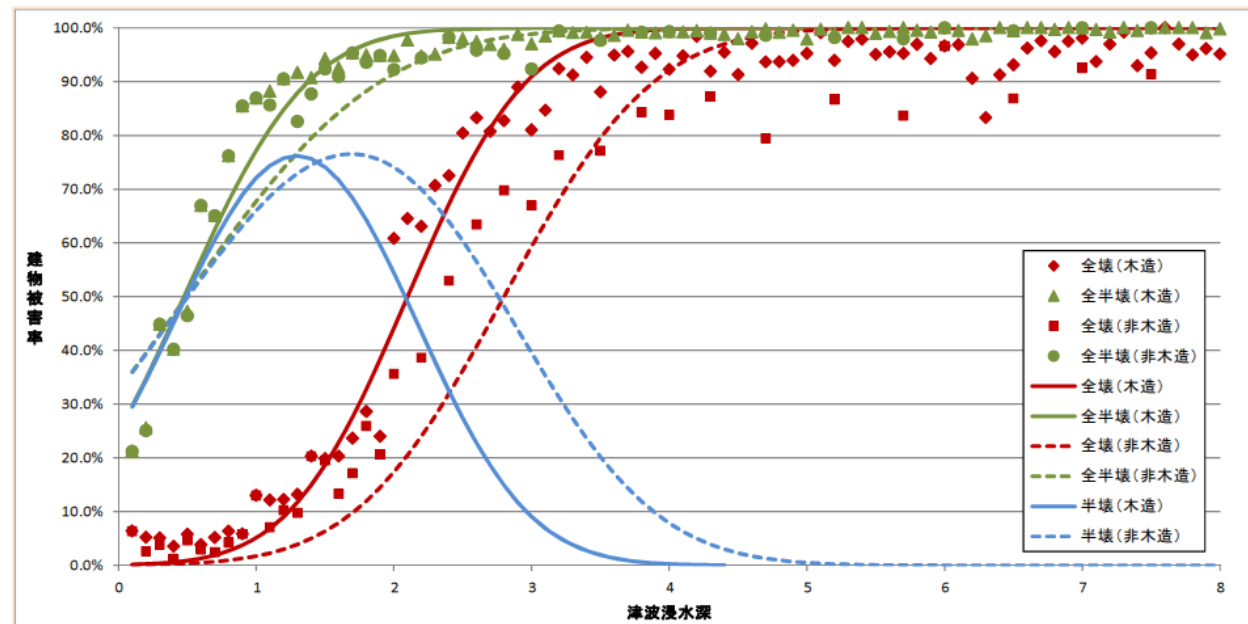
市町村名	南海トラフ						宮崎県独自					
	H25調査		R01調査		R07調査		H25調査		R01調査		R07調査	
	全壊(棟)	半壊(棟)	全壊(棟)	半壊(棟)	全壊(棟)	半壊(棟)	全壊(棟)	半壊(棟)	全壊(棟)	半壊(棟)	全壊(棟)	半壊(棟)
宮崎市	5,000	5,900	5,200	6,000	5,500	6,400	3,500	6,000	3,700	6,100	4,200	6,400
都城市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
延岡市	9,500	6,100	9,300	6,000	11,000	6,700	5,800	5,200	5,700	5,200	6,700	5,700
日南市	2,800	1,800	2,700	1,700	2,800	1,900	2,200	1,600	2,300	1,500	2,400	1,500
小林市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日向市	7,400	3,000	9,000	3,500	8,600	3,400	5,200	3,700	6,300	4,300	6,200	4,000
串間市	140	600	80	320	170	580	370	610	250	630	350	830
西都市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
えびの市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三股町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高原町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国富町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
綾町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高鍋町	420	1,200	450	1,200	460	1,200	170	730	180	740	190	830
新富町	60	270	70	290	70	280	30	150	30	160	20	170
西米良村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
川南町	150	70	170	70	150	60	140	60	150	60	140	50
都農町	110	70	120	60	150	60	100	40	120	40	150	50
門川町	3,200	600	3,400	630	3,400	680	2,000	1,000	2,100	1,100	2,100	1,100
諸塚村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
椎葉村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美郷町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	29,000	20,000	30,000	20,000	32,000	21,000	19,000	19,000	21,000	20,000	22,000	21,000

# 3-5.津波による建物被害

## ○津波による建物被害率曲線

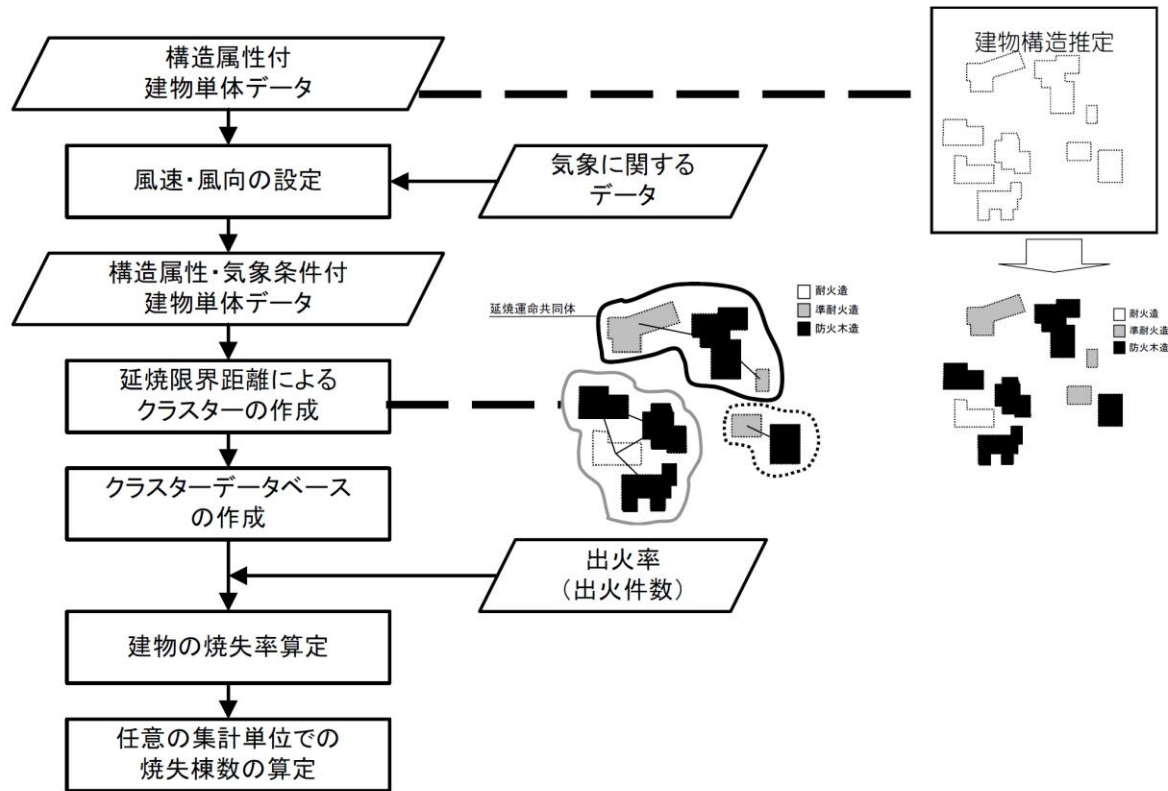


津波浸水深ごとの建物被害率(人口集中地区)



津波浸水深ごとの建物被害率(人口集中地区以外)

# 3-6.地震火災による建物被害



宮崎県想定	季節 時候	南海トラフ	宮崎県独自
		焼失(棟)	焼失(棟)
H25調査	冬深夜	約1,100	約1,200
	夏12時	約1,400	約1,400
	冬18時	約3,100	約3,300
RO1調査 (感震ブレーカー無)	冬深夜	約1,000	約1,200
	夏12時	約1,200	約1,400
	冬18時	約3,000	約3,400
RO7調査 (感震ブレーカー無)	冬深夜	約1,100	約1,200
	夏12時	約1,100	約1,200
	冬18時	約3,100	約3,300
差(増減) (感震ブレーカー無)	冬深夜	約100	約0
	夏12時	約100	約200
	冬18時	約100	約100

<参考>

内閣府想定	季節 時候	南海トラフ
		焼失(棟)
内閣府(2012)	冬18時	約14,000
内閣府(2019)	冬18時	約14,000
内閣府(2025)	冬18時	約17,000
差(増減)	冬18時	約3,000

# 3-7. 建物被害まとめ

宮崎県	想定地震	季節 時間	液状化		揺れ		土砂災害		津波		火災	合計	
			全壊(棟)	半壊(棟)	全壊(棟)	半壊(棟)	全壊(棟)	半壊(棟)	全壊(棟)	半壊(棟)	焼失(棟)	全壊・焼失(棟)	半壊(棟)
H25 調査	南海トラフ	冬深夜	7,100	28,000	50,000	76,000	400	900	29,000	19,000	1,100	87,000	124,000
		夏12時									1,400	88,000	
		冬18時									3,100	89,000	
	宮崎県独自	冬深夜	7,100	28,000	58,000	81,000	400	900	19,000	19,000	1,200	86,000	129,000
		夏12時									1,400	86,000	
		冬18時									3,300	88,000	
R01 調査	南海トラフ	冬深夜	5,600	28,000	41,000	65,000	400	900	30,000	20,000	1,000	78,000	113,000
		夏12時									1,200	79,000	
		冬18時									3,000	80,000	
	宮崎県独自	冬深夜	5,600	28,000	48,000	69,000	400	900	21,000	20,000	1,200	76,000	118,000
		夏12時									1,400	76,000	
		冬18時									3,400	78,000	
R07 調査	南海トラフ	冬深夜	6,700	32,000	40,000	64,000	210	410	32,000	21,000	1,100	80,000	118,000
		夏12時									1,100	80,000	
		冬18時									3,100	82,000	
	宮崎県独自	冬深夜	6,700	32,000	48,000	68,000	260	520	22,000	21,000	1,200	78,000	122,000
		夏12時									1,200	78,000	
		冬18時									3,300	80,000	

※R01調査と比較(増減)

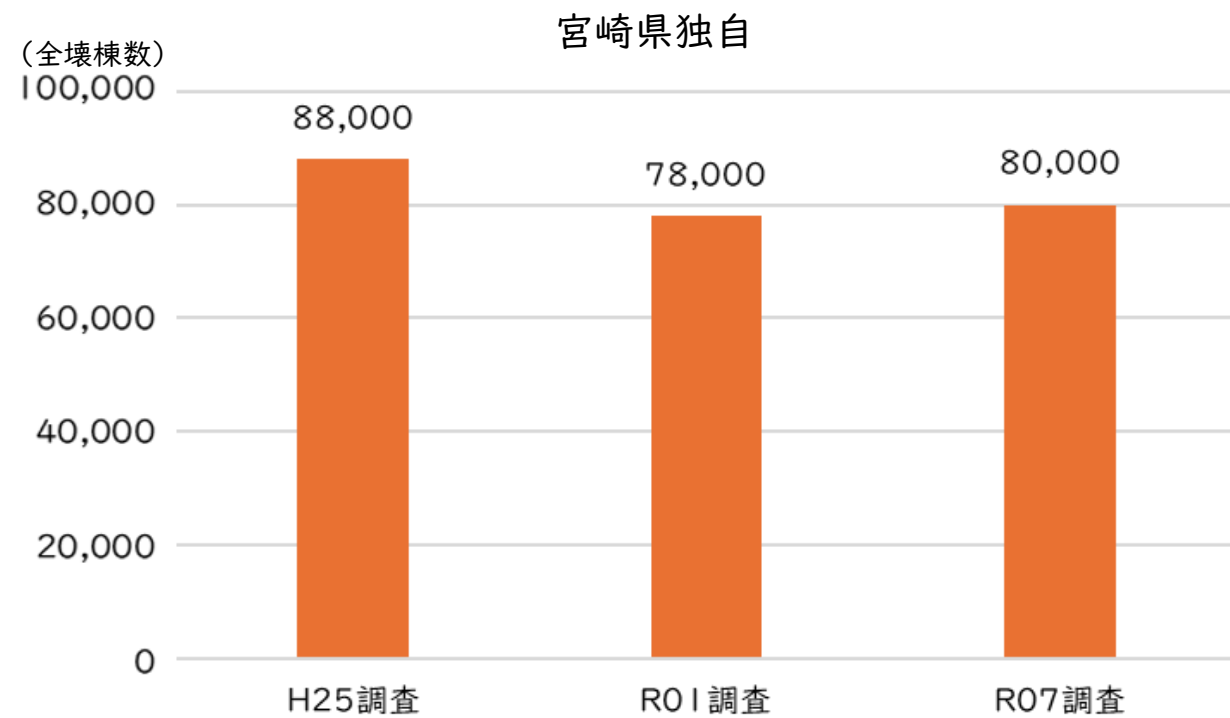
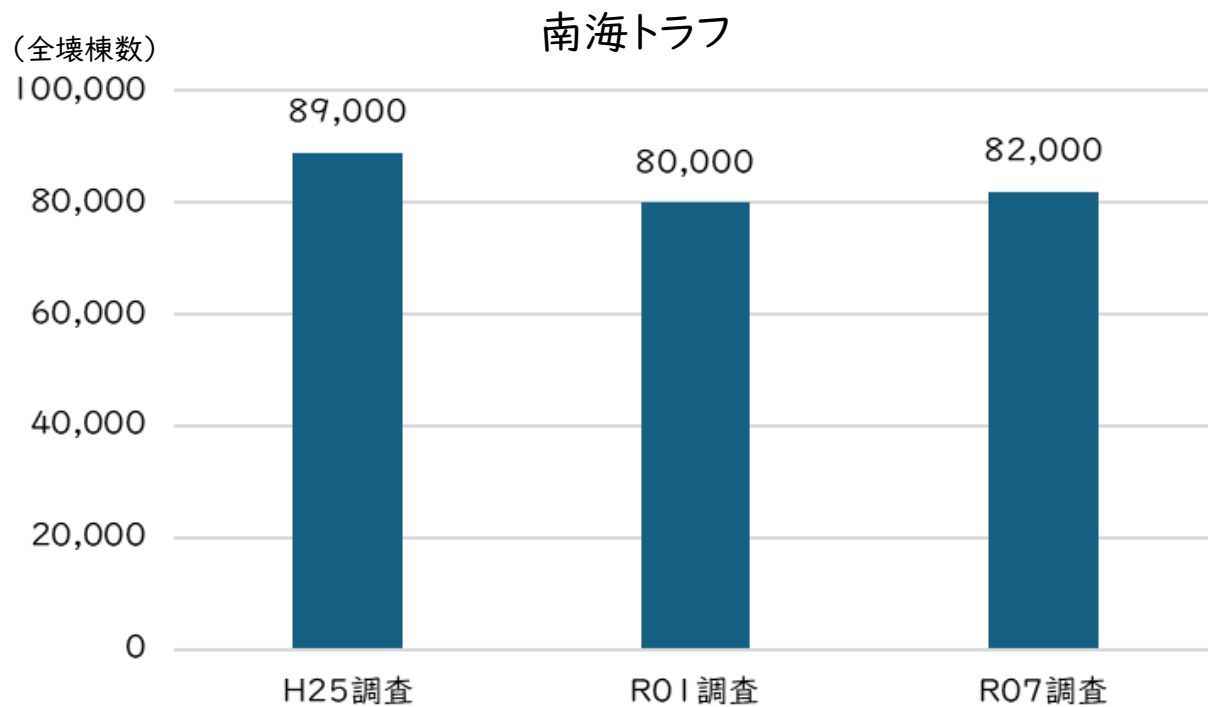
※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

内閣府	想定地震	季節 時間	液状化		揺れ		土砂災害		津波		火災	合計	
			全壊(棟)	半壊(棟)	全壊(棟)	半壊(棟)	全壊(棟)	半壊(棟)	全壊(棟)	半壊(棟)	焼失(棟)	全壊・焼失(棟)	半壊(棟)
内閣府 (2012)	南海トラフ	冬18時	4,000		39,000		400		25,000		14,000	83,000	
内閣府 (2019)	南海トラフ	冬18時	3,700		31,000		400		26,000		14,000	75,000	
内閣府 (2025)	南海トラフ	冬18時	3,200	14,000	35,000	65,000	400	800	27,000	17,000	17,000	83,000	96,000

※:2019調査と比較(増減)

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

## 3-7. 建物被害まとめ



# 3-7. 建物被害まとめ（市町村別被害数一覧）

○市町村別建物被害数～南海トラフ（冬18時）～

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

市町村	液状化		揺れ		土砂災害		津波		火災	合計	
	全壊(棟)	半壊(棟)	全壊(棟)	半壊(棟)	全壊(棟)	半壊(棟)	全壊(棟)	半壊(棟)	焼失(棟)	全壊・焼失(棟)	半壊(棟)
宮崎市	2,100	11,000	13,000	20,000	30	60	5,500	6,400	1,900	23,000	37,000
都城市	330	1,900	830	6,000	-	-	-	-	30	1,200	7,800
延岡市	1,700	7,100	5,600	9,600	90	170	11,000	6,700	660	19,000	24,000
日南市	800	3,200	850	3,300	10	20	2,800	1,900	80	4,500	8,300
小林市	210	850	160	1,600	-	-	-	-	10	370	2,500
日向市	490	2,700	4,100	4,900	20	50	8,600	3,400	80	13,000	11,000
串間市	70	270	40	560	-	-	170	580	10	290	1,400
西都市	230	1,100	2,900	2,900	-	10	-	-	40	3,200	4,000
えびの市	160	770	340	1,600	-	-	-	-	10	500	2,400
三股町	40	380	160	940	-	-	-	-	10	210	1,300
高原町	20	80	10	240	-	-	-	-	-	30	320
国富町	20	60	1,200	2,000	-	-	-	-	80	1,300	2,100
綾町	10	40	240	580	-	-	-	-	-	250	620
高鍋町	110	580	2,400	1,800	-	-	460	1,200	70	3,000	3,600
新富町	30	240	2,200	1,700	-	10	70	280	40	2,400	2,200
西米良村	-	-	-	60	-	10	-	-	-	10	70
木城町	30	140	1,000	600	-	10	-	-	20	1,100	740
川南町	10	30	3,200	2,400	-	-	150	60	30	3,400	2,400
都農町	10	70	1,100	1,200	-	-	150	60	10	1,300	1,300
門川町	360	1,700	920	1,400	10	20	3,400	680	20	4,700	3,700
諸塚村	-	-	-	50	-	10	-	-	-	10	60
椎葉村	-	-	-	30	-	10	-	-	-	10	40
美郷町	-	10	80	590	10	30	-	-	-	100	620
高千穂町	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	10
日之影町	-	-	-	50	-	-	-	-	-	-	50
五ヶ瀬町	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	10
合計	6,700	32,000	40,000	64,000	210	410	32,000	21,000	3,100	82,000	118,000

# 3-7. 建物被害まとめ（市町村別におけるROI調査との比較）

○市町村別建物被害数～南海トラフ（冬18時）～

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

※:ROI調査と比較(増減)

市町村	建物棟数		液状化(全壊棟数)		揺れ(全壊棟数)		土砂災害(全壊棟数)		津波(全壊棟数)		火災(焼失棟数)		合計(全壊・焼失棟数)	
	ROI	R07	ROI	R07	ROI	R07	ROI	R07	ROI	R07	ROI	R07	ROI	R07
宮崎市	141,000	133,000	1,800	2,100	15,000	13,000	70	30	5,200	5,500	2,100	1,900	24,000	23,000
都城市	81,000	87,000	260	330	770	830	30	-	-	-	30	30	1,100	1,200
延岡市	53,000	58,000	1,400	1,700	5,600	5,600	130	90	9,300	11,000	420	660	17,000	19,000
日南市	28,000	29,000	660	800	770	850	60	10	2,700	2,800	20	80	4,200	4,500
小林市	29,000	29,000	100	210	100	160	10	-	-	-	-	10	210	370
日向市	27,000	29,000	430	490	4,200	4,100	30	20	9,000	8,600	80	80	14,000	13,000
串間市	13,000	13,000	50	70	40	40	10	-	80	170	-	10	180	290
西都市	14,000	14,000	190	230	2,800	2,900	10	-	-	-	50	40	3,000	3,200
えびの市	18,000	16,000	130	160	280	340	-	-	-	-	10	10	420	500
三股町	11,000	12,000	30	40	150	160	10	-	-	-	10	10	190	210
高原町	6,400	6,600	10	20	10	10	-	-	-	-	-	-	20	30
国富町	9,500	9,500	10	20	970	1,200	10	-	-	-	20	80	1,000	1,300
綾町	4,300	4,200	-	10	250	240	-	-	-	-	10	-	260	250
高鍋町	10,000	9,400	100	110	2,800	2,400	-	-	450	460	90	70	3,400	3,000
新富町	7,100	8,400	20	30	1,900	2,200	10	-	70	70	20	40	2,000	2,400
西米良村	900	860	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	10
木城町	3,000	3,000	20	30	820	1,000	-	-	-	-	10	20	860	1,100
川南町	11,000	11,000	-	10	2,700	3,200	-	-	170	150	20	30	2,900	3,400
都農町	5,200	5,900	10	10	1,000	1,100	-	-	120	150	20	10	1,200	1,300
門川町	8,300	8,600	350	360	960	920	20	10	3,400	3,400	20	20	4,700	4,700
諸塚村	860	780	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	10
椎葉村	1,800	1,600	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	10	10
美郷町	3,800	3,700	-	-	70	80	20	10	-	-	-	-	90	100
高千穂町	5,000	5,200	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	3,000	2,400	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	2,100	2,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	497,000	503,000	5,600	6,700	41,000	40,000	430	210	30,000	32,000	3,000	3,100	80,000	82,000

# 3-7. 建物被害まとめ（市町村別被害数一覧）

○市町村別建物被害数～宮崎県独自（冬18時）～ ※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

市町村	液状化		揺れ		土砂災害		津波		火災	合計	
	全壊(棟)	半壊(棟)	全壊(棟)	半壊(棟)	全壊(棟)	半壊(棟)	全壊(棟)	半壊(棟)	焼失(棟)	全壊・焼失(棟)	半壊(棟)
宮崎市	2,100	11,000	12,000	19,000	30	60	4,200	6,400	2,000	21,000	37,000
都城市	320	1,900	890	6,400	-	-	-	-	30	1,200	8,300
延岡市	1,700	7,100	5,200	9,500	90	170	6,700	5,700	750	14,000	22,000
日南市	810	3,200	7,000	5,600	40	90	2,400	1,500	110	10,000	10,000
小林市	210	850	160	1,600	-	-	-	-	10	380	2,500
日向市	480	2,700	4,100	4,900	20	50	6,200	4,000	100	11,000	12,000
串間市	70	270	2,200	2,900	10	30	350	830	30	2,700	4,000
西都市	230	1,100	2,800	2,900	-	10	-	-	40	3,100	4,000
えびの市	160	770	300	1,500	-	-	-	-	-	470	2,300
三股町	40	380	130	880	-	-	-	-	10	190	1,300
高原町	20	80	20	310	-	-	-	-	-	40	390
国富町	20	60	1,100	2,000	-	-	-	-	80	1,200	2,100
綾町	10	40	240	570	-	-	-	-	-	250	620
高鍋町	110	580	2,400	1,800	-	-	190	830	70	2,800	3,200
新富町	30	240	2,300	1,700	-	10	20	170	40	2,300	2,100
西米良村	-	-	-	50	-	10	-	-	-	10	70
木城町	30	140	1,100	600	-	10	-	-	20	1,100	740
川南町	10	30	3,100	2,400	-	-	140	40	30	3,300	2,500
都農町	10	70	1,100	1,200	-	-	150	50	10	1,300	1,300
門川町	360	1,700	980	1,400	10	20	2,100	1,100	30	3,500	4,200
諸塚村	-	-	-	50	-	10	-	-	-	10	60
椎葉村	-	-	-	30	-	10	-	-	-	10	40
美郷町	-	10	80	570	10	30	-	-	-	90	610
高千穂町	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	10
日之影町	-	-	-	40	-	-	-	-	-	-	50
五ヶ瀬町	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	10
合計	6,700	32,000	48,000	68,000	260	520	22,000	21,000	3,300	80,000	122,000

# 3-7. 建物被害まとめ（市町村別におけるROI調査との比較）

○市町村別建物被害数～宮崎県独自（冬18時）～ ※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

※:ROI調査と比較(増減)

市町村	建物棟数		液状化(全壊棟数)		揺れ(全壊棟数)		土砂災害(全壊棟数)		津波(全壊棟数)		火災(焼失棟数)		合計(全壊・焼失棟数)	
	R01	R07	R01	R07	R01	R07	R01	R07	R01	R07	R01	R07	R01	R07
宮崎市	141,000	133,000	1,800	2,100	14,000	12,000	70	30	3,700	4,200	2,300	2,000	22,000	21,000
都城市	81,000	87,000	260	320	810	890	30	-	-	-	40	30	1,100	1,200
延岡市	53,000	58,000	1,400	1,700	5,200	5,200	130	90	5,700	6,700	500	750	13,000	14,000
日南市	28,000	29,000	660	810	6,700	7,000	60	40	2,300	2,400	110	110	9,800	10,000
小林市	29,000	29,000	100	210	90	160	10	-	-	-	-	10	200	380
日向市	27,000	29,000	420	480	4,200	4,100	30	20	6,300	6,200	120	100	11,000	11,000
串間市	13,000	13,000	50	70	2,100	2,200	20	10	250	350	50	30	2,500	2,700
西都市	14,000	14,000	190	230	2,700	2,800	10	-	-	-	40	40	2,900	3,100
えびの市	18,000	16,000	130	160	250	300	-	-	-	-	10	-	390	470
三股町	11,000	12,000	30	40	120	130	10	-	-	-	10	10	170	190
高原町	6,400	6,600	10	20	10	20	-	-	-	-	-	-	30	40
国富町	9,500	9,500	10	20	940	1,100	10	-	-	-	30	80	990	1,200
綾町	4,300	4,200	-	10	240	240	-	-	-	-	10	-	260	250
高鍋町	10,000	9,400	100	110	2,800	2,400	-	-	180	190	80	70	3,100	2,800
新富町	7,100	8,400	20	30	2,000	2,300	10	-	30	20	20	40	2,000	2,300
西米良村	900	860	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	10
木城町	3,000	3,000	20	30	860	1,100	-	-	-	-	10	20	890	1,100
川南町	11,000	11,000	-	10	2,600	3,100	-	-	150	140	20	30	2,800	3,300
都農町	5,200	5,900	10	10	1,000	1,100	-	-	120	150	30	10	1,200	1,300
門川町	8,300	8,600	350	360	1,000	980	20	10	2,100	2,100	30	30	3,500	3,500
諸塚村	860	780	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	10
椎葉村	1,800	1,600	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	10
美郷町	3,800	3,700	-	-	70	80	10	10	-	-	-	-	80	90
高千穂町	5,000	5,200	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	3,000	2,400	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	2,100	2,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	497,000	503,000	5,600	6,700	48,000	48,000	450	260	21,000	22,000	3,400	3,300	78,000	80,000

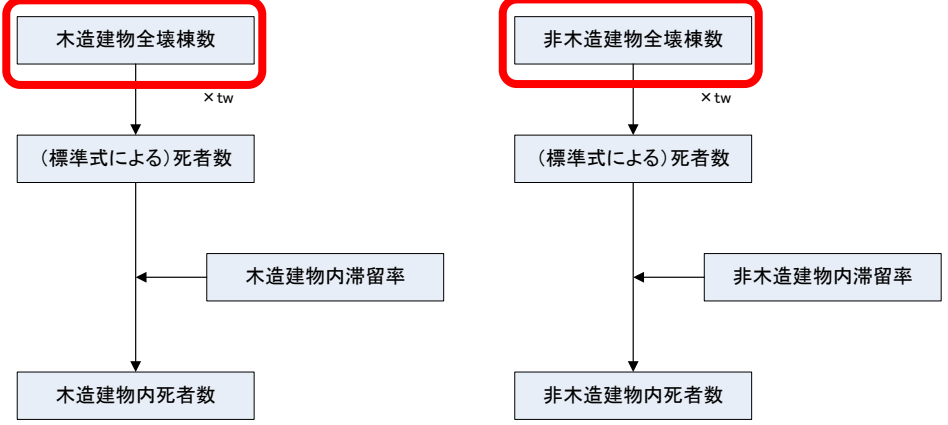
## 4. 人的被害の想定概要

## 4.人的被害の想定概要

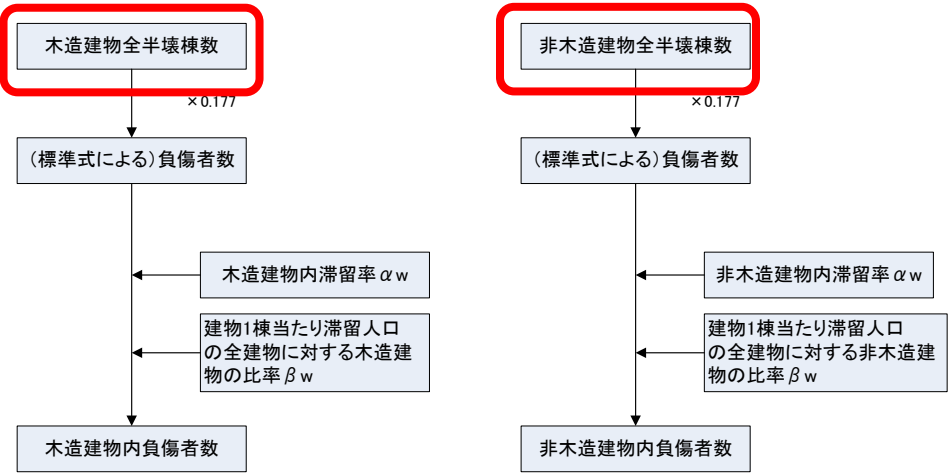
項目	予測手法	必要データ
建物倒壊	想定した揺れによる建物被害と死傷者数の関係に、国勢調査より人口を把握した滞留率などを加味して補正することで、死傷者数を想定する。	建物棟数、耐震化率 人口(1,104,000⇒1,019,000)
土砂災害	想定した土砂災害による建物被害と死傷率の関係に、国勢調査より人口を把握した滞留率などを加味して補正することで、死傷者数を想定する。	木造建物内滞留人口比率
津波	国勢調査と波の到達時間より巻き込まれる人口を把握し、浸水深と死傷者率の関係より、死傷者数を想定する。その際、避難意識や、各種要因による補正などを行う。	建物棟数、耐震化率、人口、避難行動要支援者、早期避難率、海水浴客数、避難速度、津波避難施設 1298箇所(約176万人)⇒1329箇所(約178万人)
火災	想定した火災による建物被害と3要因(①炎上出火家屋からの逃げ遅れ、②倒壊による家屋内の救出困難者の発生とその後の焼失、③延焼拡大時の逃げまどい)ごとの死傷者数の関係から市町村毎に死傷者数を想定する。	建物棟数、耐震化率、消防力
ブロック塀等の転倒	想定した塀の倒壊数と死傷者率の関係から死傷者数を想定する。その際、国勢調査から把握した屋外人口密度より補正する。	ブロック塀数、地域性を考慮した関係式の採用(大分県(2008))
自動販売機の転倒	想定した自動販売機の被害数と死傷者率の関係から死傷者数を想定する。その際、国勢調査から把握した屋外人口密度より補正する。	自動販売機数
屋外落下物	想定した落下が想定される建物数と死傷者率の関係から死傷者数を想定する。その際、国勢調査から把握した屋外人口密度より補正する。	屋外落下物数
屋内収容物移動・転倒、屋内落下物	想定した建物被害と国勢調査から把握した屋内人口から、揺れと家具類の転倒による死傷者率を加味して、死傷者数を想定する。	屋内収容物数

# 4-1.建物倒壊による死傷者数

## 死者数



## 負傷者数



季節時候:冬深夜、被害量(人)、赤:減少、青:増加

宮崎県想定	南海トラフ		宮崎県独自	
	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)
H25調査	約3,700	約20,000	約4,200	約21,000
R01調査	約3,000	約17,000	約3,500	約18,000
R07調査	約2,600	約17,000	約3,100	約18,000
差(増減)	約400	約0	約400	約0

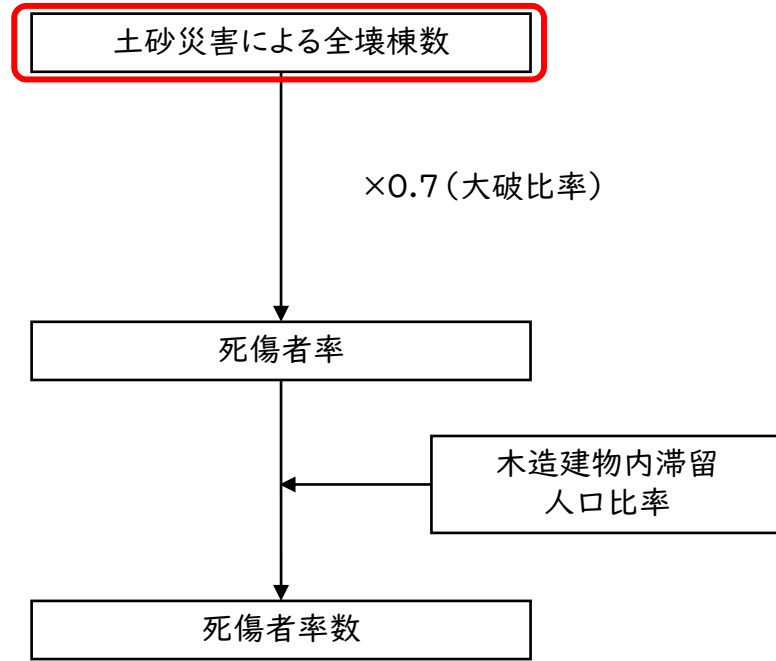
<参考>

内閣府想定	南海トラフ		宮崎県想定との比較	
	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)
内閣府(2012)	約2,400		約1,300	
内閣府(2019)	約1,900	約17,000	約1,100	約0
内閣府(2025)	約2,000	約29,000	約600	約12,000
差(増減)	約100	約12,000		

<要因>

- ① 人口の減少
- ② 揺れによる建物被害の減少

# 4-2.土砂災害による死傷者数



季節時候:冬深夜、被害量(人)、赤:減少、青:増加

宮崎県想定	南海トラフ		宮崎県独自	
	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)
H25調査	約50	約60	約50	約60
R01調査	約50	約60	約50	約60
R07調査	約50	約60	約50	約70
差(増減)	約0	約0	約0	約10

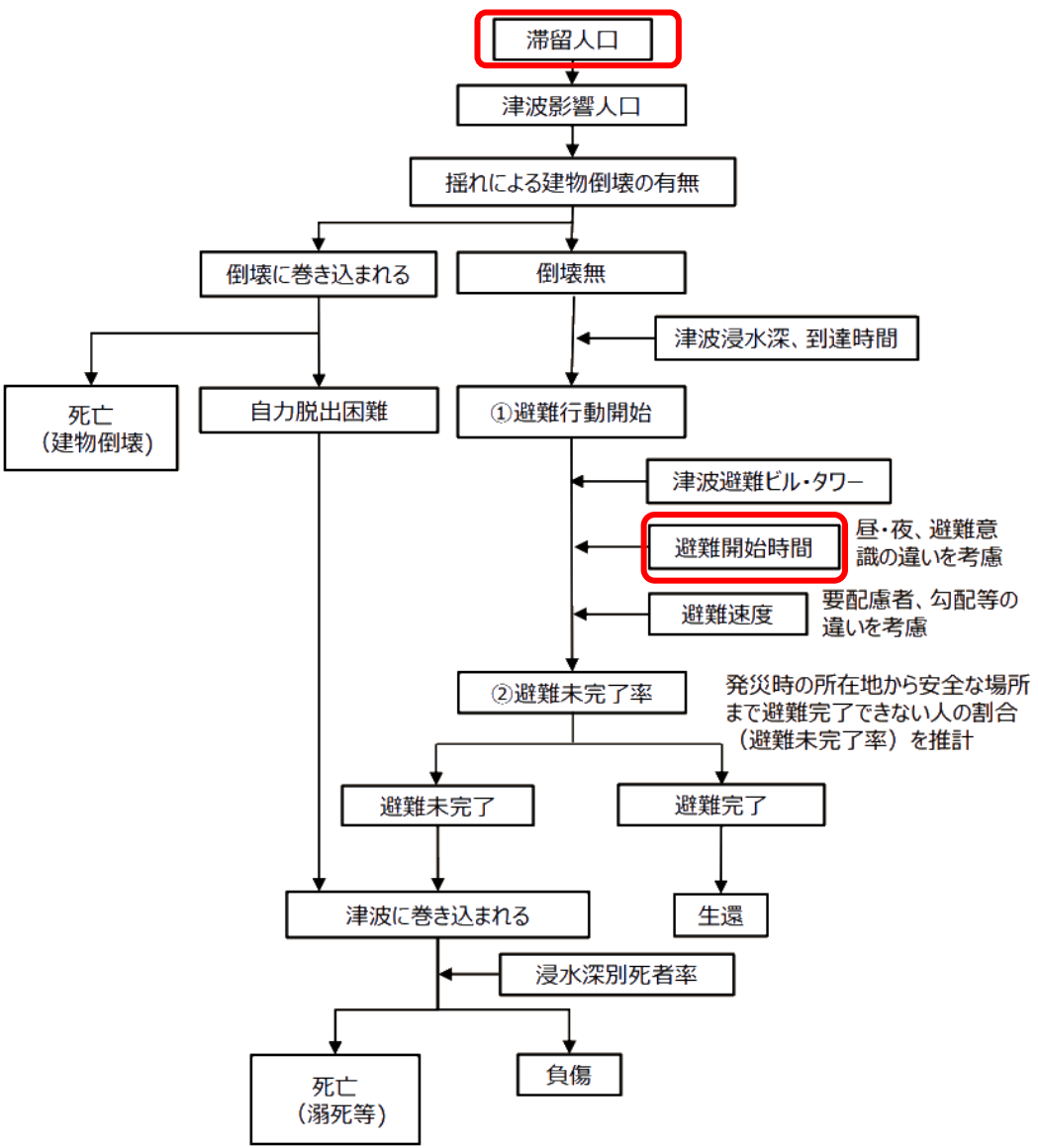
<参考>

内閣府想定	南海トラフ		宮崎県想定との比較	
	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)
内閣府(2012)	約20		約30	
内閣府(2019)	約40	約50	約10	約10
内閣府(2025)	約40	約20	約10	約40
差(増減)	約0	約30		

<要因>

- ① 対象とするハザードを急傾斜地崩壊危険箇所から土砂災害警戒区域に見直したことによるもの

# 4-3.津波による死傷者数



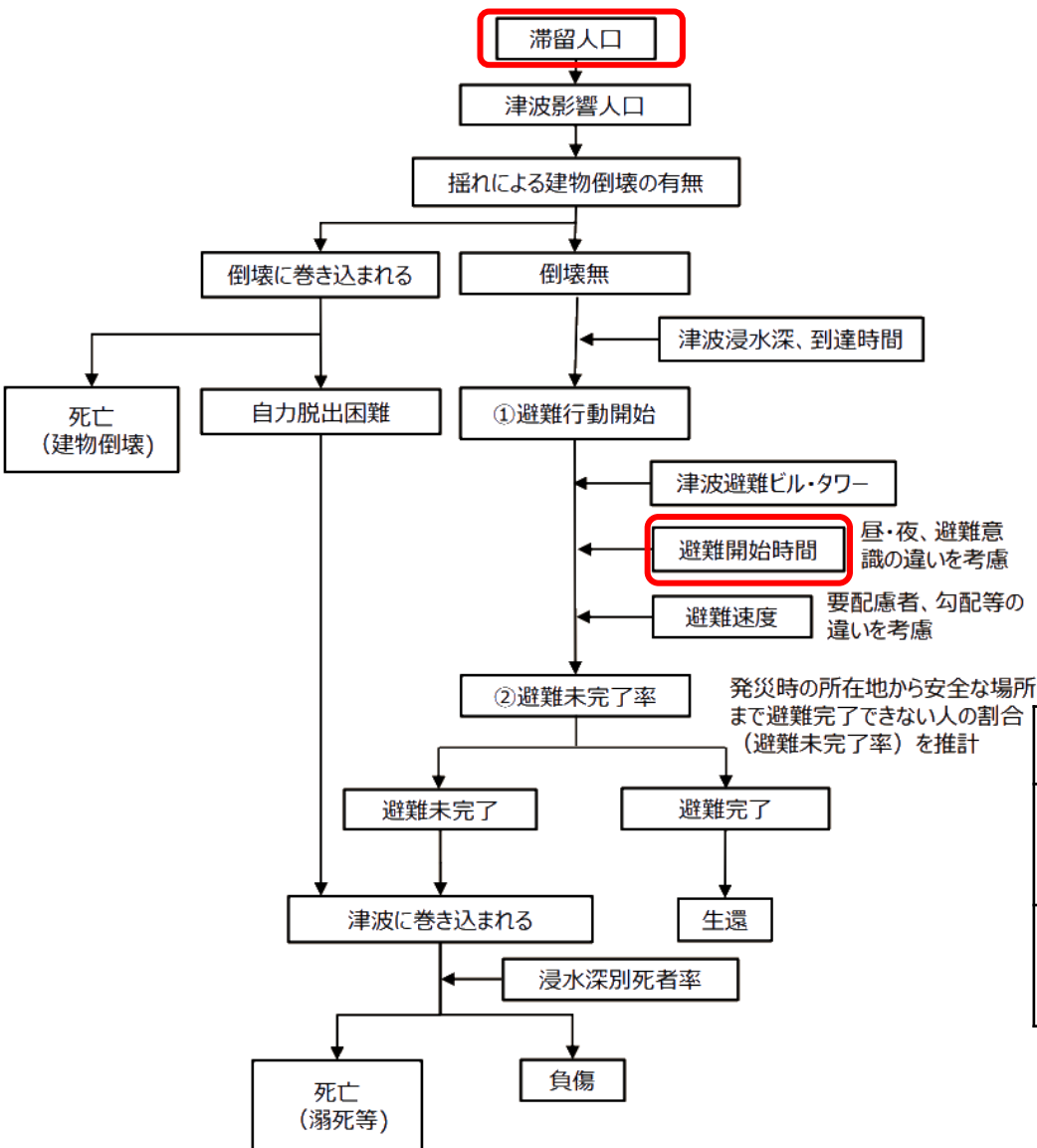
## ○避難行動(避難の有無、避難開始時期)の設定

	避難行動別の比率			
	避難する		切迫避難 あるいは避難しない	
	すぐに避難する (直接避難)	避難するが すぐには避難しない (用事後避難)		
国想定採用(H25調査) (早期避難者比率が低い場合)	20.0%	50.0%	30.0%	
国想定採用 (早期避難者比率が高く、避難の呼びかけ等が効果的に行われた場合)	70.0%	30.0%	0.0%	
令和6年度 県民意識調査結果	昼間	57.8%	35.8%	6.4%
	夜間	59.3%	11.8%	28.9%
※参考※ ROI調査時(意識調査に基づく)		55.5%	15.7%	28.8%

- 避難開始時間(昼間発災時)  
 直接避難者 : 発災5分後  
 用事後避難者 : 発災15分後  
 切迫避難者 : 当該メッシュに津波が到達後  
 夜間(深夜)は上記+5分

- 避難速度  
 平均時速2.65km/h⇒変更(次頁)  
 夜間(深夜)は上記の80%

# 3-3.津波による死傷者数



## ○避難速度の設定

- いずれのケースにおいても、夜間(暗い場合)の避難速度については、足元が見えにくい等の理由から昼間の8割に設定
- 内閣府H25の被害想定では一律2.65km/hであるが、R7の被害想定では避難者の属性と地形に応じて異なる避難速度を設定

H25	全体
昼間	2.65km/h (0.74m/s)
夜間	2.12km/h (0.59m/s)

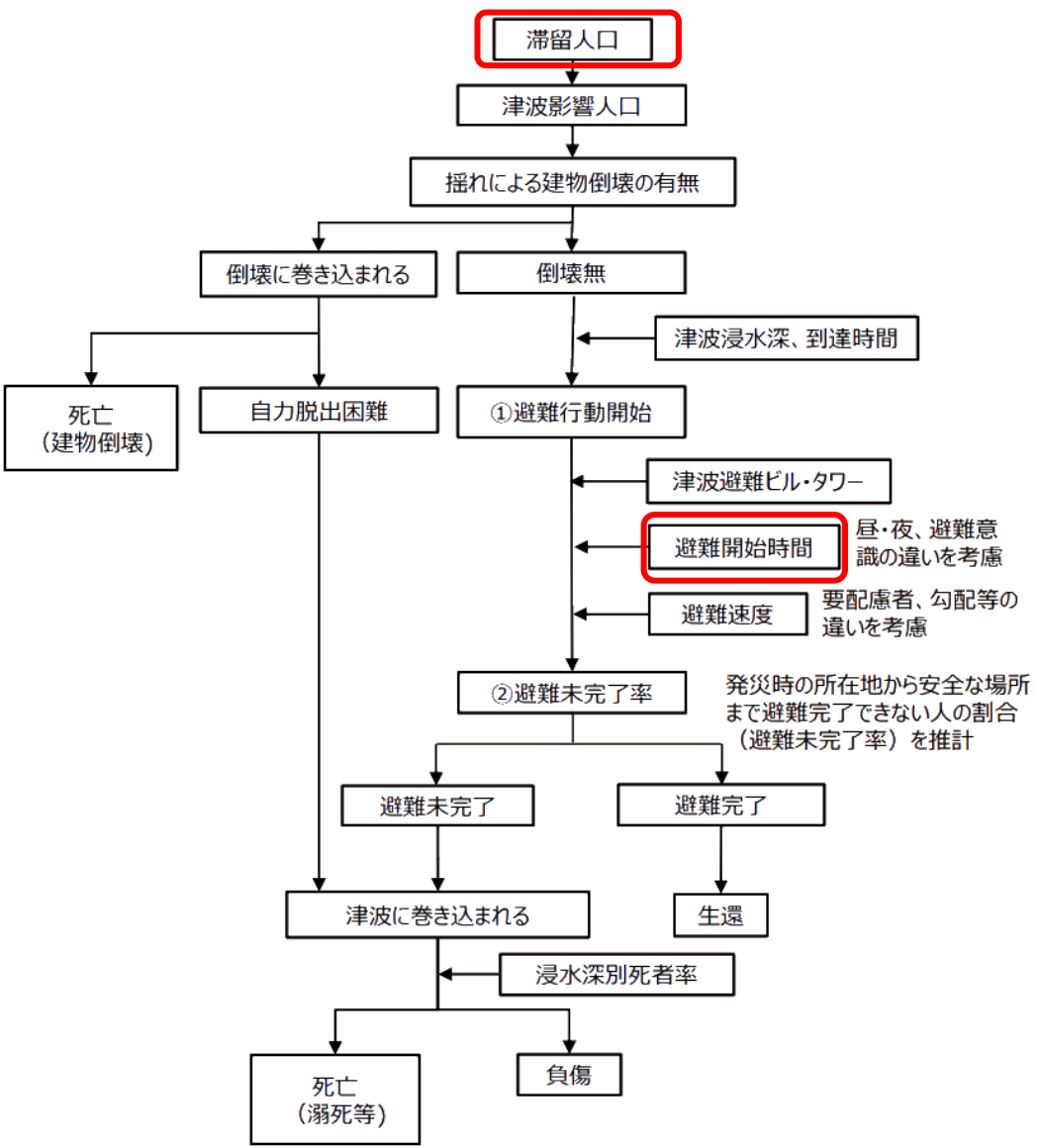


R7被害想定		健常者	避難行動要支援者同行
昼間	平野部	2.72km/h (0.76m/s)	1.89km/h (0.53m/s)
	傾斜部	1.73km/h (0.48m/s)	1.20km/h (0.42m/s)
夜間	平野部	2.18km/h (0.61m/s)	1.51km/h (0.42m/s)
	傾斜部	1.38km/h (0.38m/s)	0.96km/h (0.27m/s)

※平野部=勾配5%未満、傾斜部=勾配5%以上  
 ※要支援者1人につき、2人の健常者が同行

# 4-3.津波による死傷者数

季節時候：冬深夜、被害量(人)、赤：減少、青：増加



宮崎県想定 (直接、用事後、切迫)	南海トラフ		宮崎県独自	
	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)
H25調査(20、50、30)	約31,000	約4,500	約24,000	約5,000
R01調査 (55.5、15.7、25.8)	約12,000	約1,300	約10,000	約1,500
R07調査 (59.3、11.8、28.9)	約8,400	約910	約7,600	約1,200
R07調査(20、50、30)	約18,000	約1,500	約14,000	約1,700
R07調査(70、30、0)	約2,700	約150	約2,800	約140
差(増減)	約3,600	約390	約2,400	約300

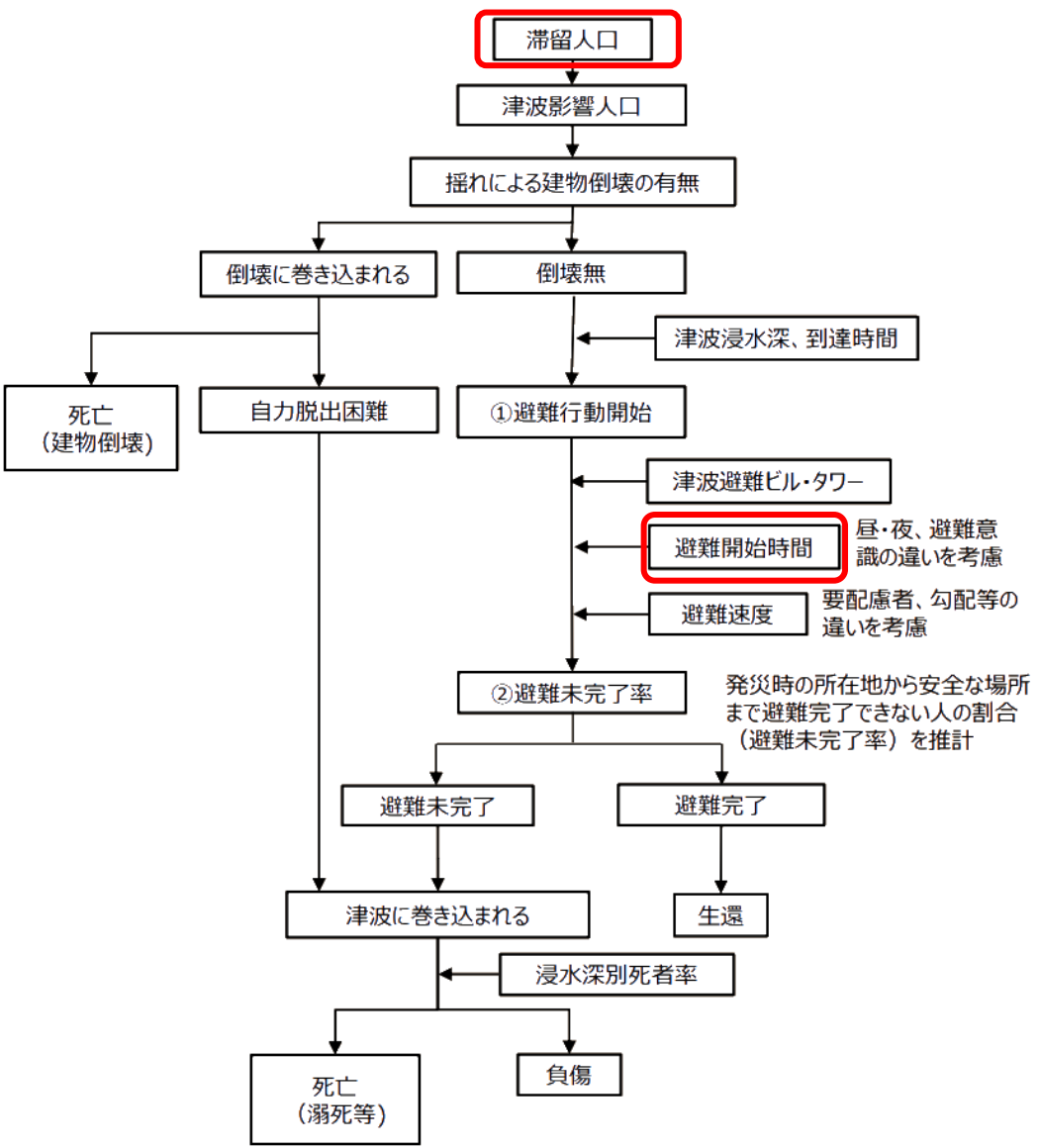
<参考> ※死者には自力脱出困難者を含む

内閣府想定 (直接20、用事後50、切迫30)	南海トラフ		宮崎県想定との比較	
	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)
内閣府(2012)	約39,000		約8,000	
内閣府(2019)	約23,000	約1,400	約11,000	約100
内閣府(2025)	約37,000	約2,900	約29,000	約2,000
差(増減)	約14,000	約1,500		

<要因>  
 ① 避難速度の低下や高齢者等の避難時要支援者の増加はあるものの、早期避難率の向上や人口減少、津波避難施設の整備等に伴い、人的被害は減少

# 4-3.津波による死傷者数

季節時候:夏12時、被害量(人)、赤:減少、青:増加



宮崎県想定 (直接、用事後、切迫)	南海トラフ		宮崎県独自	
	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)
H25調査(20、50、30)	約24,000	約3,400	約24,000	約5,000
R01調査 (55.5、15.7、25.8)	約7,800	約1,000	約7,600	約1,100
R07調査 (57.8、35.8、6.4)	約2,700	約200	約2,700	約280
R07調査(20、50、30)	約8,400	約830	約8,000	約1,300
R07調査(70、30、0)	約1,800	約70	約1,700	約60
差(増減)	約5,100	約800	約4,900	約830

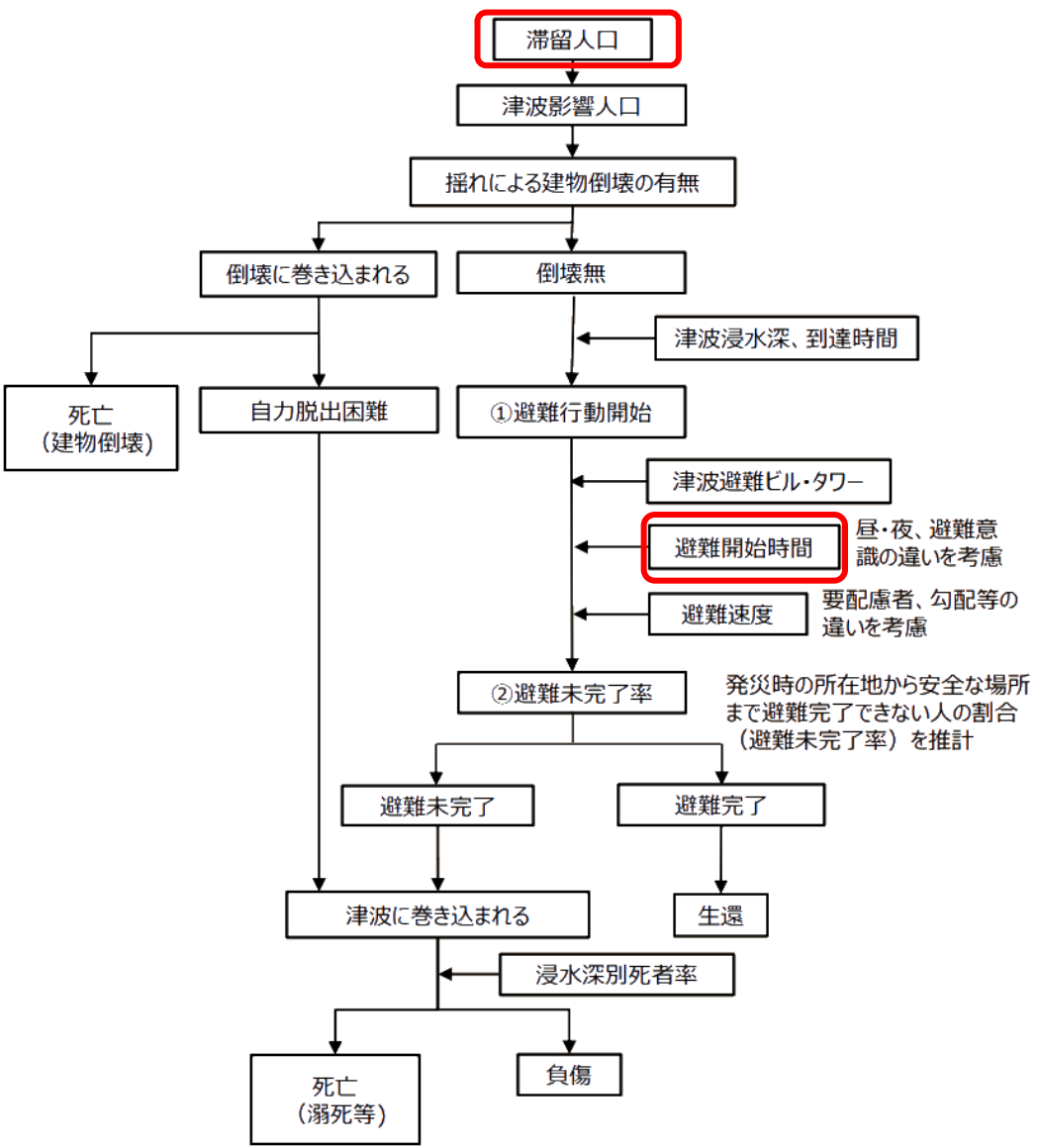
※死者には自力脱出困難者を含む

### <要因>

- ① 避難速度の低下や高齢者等の避難時要支援者の増加はあるものの、早期避難率の向上や人口減少、津波避難施設の整備等に伴い、人的被害は減少

# 4-3.津波による死傷者数

季節時候:冬18時、被害量(人)、赤:減少、青:増加



宮崎県想定 (直接、用事後、切迫)	南海トラフ		宮崎県独自	
	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)
H25調査(20、50、30)	約23,000	約3,100	約17,000	約3,400
R01調査 (55.5、15.7、25.8)	約6,900	約990	約6,900	約1,100
R07調査 (59.3、11.8、28.9)	約7,500	約660	約7,900	約1,100
R07調査(20、50、30)	約9,300	約790	約8,800	約1,200
R07調査(70、30、0)	約3,200	約60	約3,200	約50
差(増減)	約600	約330	約1,000	約0

※死者には自力脱出困難者を含む

### <要因>

- ① 早期避難率の向上や人口減少、津波避難施設の整備等に伴い、人的被害の増加は抑制できているものの、切迫避難率の増加、避難速度の低下、高齢者等避難時要支援者の増加や沿岸部への滞留に伴い、人的被害はやや微増

# 4-4.火災による死傷者数

1. 炎上出火家屋からの逃げ遅れ、
  2. 倒壊による家屋内の救出困難者の発生とその後の焼失、
  3. 延焼拡大時の逃げまどい
- の3つの場合に生じる考え方に沿って市町村毎に想定。

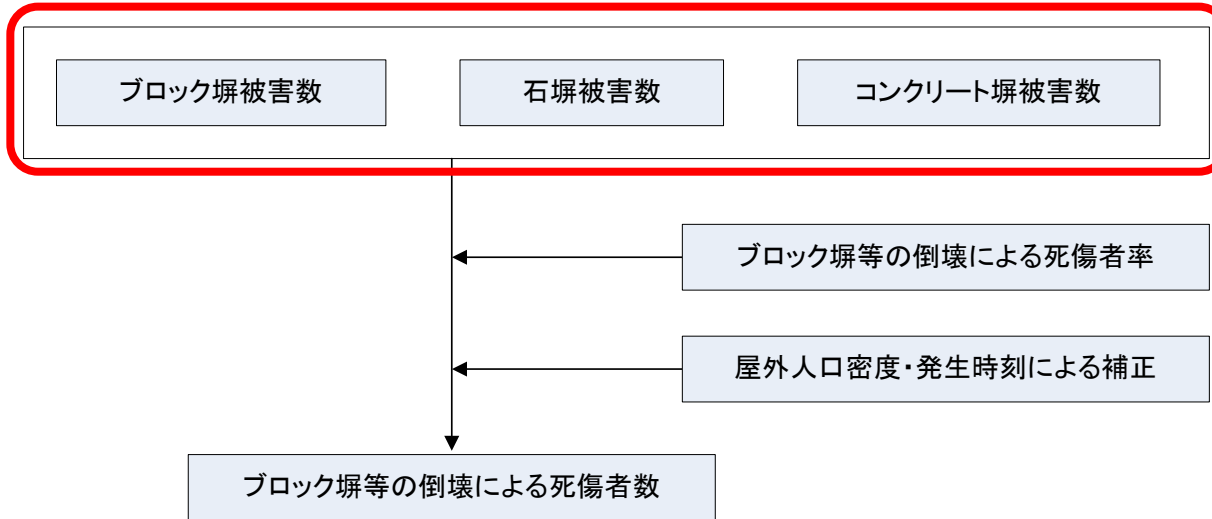
宮崎県想定	季節 時候	南海トラフ		宮崎県独自	
		死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
H25調査	冬深夜	約90	約110	約110	約120
	夏12時	約50	約120	約60	約130
	冬18時	約170	約270	約200	約300
R01調査 (感震ブレーカー無)	冬深夜	約50	約80	約70	約110
	夏12時	約30	約100	約40	約120
	冬18時	約110	約250	約140	約290
R07調査 (感震ブレーカー無)	冬深夜	約50	約90	約50	約100
	夏12時	約40	約100	約40	約100
	冬18時	約110	約250	約120	約260
差(増減) (感震ブレーカー無)	冬深夜	約0	約10	約20	約10
	夏12時	約10	約0	約0	約20
	冬18時	約0	約0	約20	約30

<参考>

内閣府想定	季節 時候	南海トラフ		宮崎県想定との比較	
		死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
内閣府(2012)	冬18時	約100		約70	
内閣府(2019)	冬18時	約60	約200	約50	約50
内閣府(2025)	冬18時	約200	約200	約90	約50
差(増減)	冬18時	約140	約0		

# 4-5.ブロック塀等による死傷者数

季節時候：冬深夜、被害量(人)、赤：減少、青：増加



宮崎県想定	南海トラフ		宮崎県独自	
	死者 (人)	負傷者 (人)	死者 (人)	負傷者 (人)
H25調査	約0	約0	約0	約0
R01調査	約0	約0	約0	約0
R07調査	約0	約0	約0	約0
差(増減)	約0	約0	約0	約0

塀の数：木造棟数と各塀数との関係

対象	塀の数
H25調査	$0.16 \times (\text{木造住宅棟数})$
大分県(2008)	$0.54 \times (\text{木造住宅棟数})$

倒壊対象となる塀の割合：各塀の危険度調査結果

塀の種類	外見調査の結果特に改善 が必要ない塀の比率(A)	倒壊対象となる割合 ( $1-0.5A$ )
H25調査	0.5	0.750
大分県(2008)	0.0	1.000

# 4-6. 人的被害まとめ(南海トラフ)

被害量(人)、家具による死傷者数は建物倒壊の死傷者の内数(人)

宮崎県	避難意識	季節 時間	建物倒壊				土砂災害		津波		火災		ブロック塀他		合計	
			死者	(家具)	負傷者	(家具)	死者	負傷者	死者	負傷者	死者	負傷者	死者	負傷者	死者	負傷者
H25 調査	20/50/30	冬深夜	3,700	190	20,000	2,600	50	60	31,000	4,500	90	110	0	0	35,000	24,000
		夏12時	2,200	90	15,000	1,600	20	20	24,000	3,400	50	120	0	150	26,000	19,000
		冬18時	3,000	120	15,000	1,800	30	40	23,000	3,100	170	270	10	310	26,000	19,000
R01 調査	県民意識	冬深夜	3,000	160	17,000	2,200	50	60	12,000	1,300	50	80	0	0	15,000	18,000
		夏12時	1,800	70	13,000	1,400	20	20	7,800	1,000	30	100	10	360	9,700	15,000
		冬18時	2,500	100	13,000	1,500	30	40	6,900	990	110	250	30	880	9,500	16,000
R07 調査	県民意識	20/50/30 冬深夜	2,600	60	17,000	1,700	50	60	8,400	910	50	90	0	0	11,000	18,000
			70/30/0							18,000	1,500					21,000
	20/50/30 夏12時	2,700							2,700	150					5,400	17,000
		70/30/0							2,700	200					3,800	15,000
	県民意識	20/50/30 夏12時	1,100	30	15,000	1,100	40	50	2,700	200	40	100	10	350	9,600	16,000
			70/30/0							1,800	70					3,000
	20/50/30 冬18時	7,500							7,500	660					9,400	15,000
		70/30/0	1,700	40	13,000	1,200	50	60	9,300	790	110	250	20	860	11,000	15,000
								3,200	60					5,100	14,000	

※:R01調査と比較(増減)

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

内閣府	想定地震	季節 時間	建物倒壊				土砂災害		津波		火災		ブロック塀他		合計	
			死者	(家具)	負傷者	(家具)	死者	負傷者	死者	負傷者	死者	負傷者	死者	負傷者	死者	負傷者
内閣府 2012	南海トラフ	冬深夜	2,400	200	-	-	20	-	39,000	-	100	-	-	-	42,000	-
内閣府 2019	南海トラフ	冬深夜	1,900	100	17,000	2,900	40	50	23,000	1,400	60	200	-	10	25,000	19,000
内閣府 2025	南海トラフ	冬深夜	2,000	200	29,000	2,200	40	20	37,000	2,900	200	200	-	100	39,000	32,000

※:2019調査と比較(増減)

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

# 4-6. 人的被害まとめ(宮崎県独自)

被害量(人)、家具による死傷者数は建物倒壊の死傷者の内数(人)

宮崎県	避難意識	季節 時間	建物倒壊				土砂災害		津波		火災		ブロック塀他		合計				
			死者	(家具)	負傷者	(家具)	死者	負傷者	死者	負傷者	死者	負傷者	死者	負傷者	死者	負傷者			
H25 調査	20/50/30	冬深夜	4,200	210	21,000	2,900	50	60	24,000	5,000	110	120	0	0	28,000	27,000			
		夏12時	2,400	100	17,000	1,700	20	30	18,000	3,500	60	130	0	150	21,000	20,000			
		冬18時	3,400	130	17,000	1,900	40	40	17,000	3,400	200	300	10	310	21,000	21,000			
R01 調査	県民意識	冬深夜	3,500	180	18,000	2,500	50	60	10,000	1,500	70	110	0	0	14,000	20,000			
		夏12時	2,000	80	14,000	1,500	20	20	7,600	1,100	40	120	10	360	9,700	16,000			
		冬18時	2,800	110	15,000	1,700	30	40	6,900	1,100	140	290	30	900	9,900	17,000			
R07 調査	県民意識	20/50/30	冬深夜	3,100	60	18,000	1,700	50	70	7,600	1,200	50	100	0	0	11,000	20,000		
										14,000	1,700					17,000	20,000		
	70/30/0	冬深夜	3,100	60	18,000	1,700	50	70	2,800	140	40	100	10	420	0	0	6,100	18,000	
									2,700	280							4,100	17,000	
	県民意識	20/50/30	夏12時	1,300	30	16,000	1,100	40	50	2,700	280	40	100	10	420	0	0	4,100	17,000
										8,000	1,300							9,400	18,000
	70/30/0	夏12時	1,300	30	16,000	1,100	40	50	1,700	60	40	100	10	420	0	0	3,100	17,000	
									7,900	1,100							10,000	17,000	
県民意識	20/50/30	冬18時	2,000	40	14,000	1,200	60	70	7,900	1,100	60	70	120	260	20	840	10,000	17,000	
									8,800	1,200							11,000	16,000	
70/30/0	冬18時	2,000	40	14,000	1,200	60	70	3,200	50	60	70	120	260	20	840	5,400	15,000		
								8,800	1,200							11,000	16,000		

※:R01調査と比較(増減)

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

内閣府	想定地震	季節 時間	建物倒壊				土砂災害		津波		火災		ブロック塀他		合計	
			死者	(家具)	負傷者	(家具)	死者	負傷者	死者	負傷者	死者	負傷者	死者	負傷者	死者	負傷者
内閣府 2012	南海トラフ	冬深夜	2,400	200	-	-	20	-	39,000	-	100	-	-	-	42,000	-
内閣府 2019	南海トラフ	冬深夜	1,900	100	17,000	2,900	40	50	23,000	1,400	60	200	-	10	25,000	19,000
内閣府 2025	南海トラフ	冬深夜	2,000	200	29,000	2,200	40	20	37,000	2,900	200	200	-	100	39,000	32,000

※:2019調査と比較(増減)

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

# 4-6. 人的被害まとめ

被害量(人)、家具による死傷者数は建物倒壊の死傷者の内数(人)

宮崎県	想定地震	季節 時間	建物倒壊				土砂災害		津波		火災		ブロック塀他		合計	
			死者	(家具)	負傷者	(家具)	死者	負傷者	死者	負傷者	死者	負傷者	死者	負傷者	死者	負傷者
H25 調査	南海トラフ	冬深夜	3,700	190	20,000	2,600	50	60	31,000	4,500	90	110	0	0	35,000	24,000
		夏12時	2,200	90	15,000	1,600	20	20	24,000	3,400	50	120	0	150	26,000	19,000
		冬18時	3,000	120	15,000	1,800	30	40	23,000	3,100	170	270	10	310	26,000	19,000
	宮崎県独自	冬深夜	4,200	210	21,000	2,900	50	60	24,000	5,000	110	120	0	0	28,000	27,000
		夏12時	2,400	100	17,000	1,700	20	30	18,000	3,500	60	130	0	150	21,000	20,000
		冬18時	3,400	130	17,000	1,900	40	40	17,000	3,400	200	300	10	310	21,000	21,000
R01 調査	南海トラフ	冬深夜	3,000	160	17,000	2,200	50	60	12,000	1,300	50	80	0	0	15,000	18,000
		夏12時	1,800	70	13,000	1,400	20	20	7,800	1,000	30	100	10	360	9,700	15,000
		冬18時	2,500	100	13,000	1,500	30	40	6,900	990	110	250	30	880	9,500	16,000
	宮崎県独自	冬深夜	3,500	180	18,000	2,500	50	60	10,000	1,500	70	110	0	0	14,000	20,000
		夏12時	2,000	80	14,000	1,500	20	20	7,600	1,100	40	120	10	360	9,700	16,000
		冬18時	2,800	110	15,000	1,700	30	40	6,900	1,100	140	290	30	900	9,900	17,000
R07 調査	南海トラフ	冬深夜	2,600	60	17,000	1,700	50	60	8,400	910	50	90	0	0	11,000	18,000
		夏12時	1,100	30	15,000	1,100	40	50	2,700	200	40	100	10	350	3,800	15,000
		冬18時	1,700	40	13,000	1,200	50	60	7,500	660	110	250	20	860	9,400	15,000
	宮崎県独自	冬深夜	3,100	60	18,000	1,700	50	70	7,600	1,200	50	100	0	0	11,000	20,000
		夏12時	1,300	30	16,000	1,100	40	50	2,700	280	40	100	10	420	4,100	17,000
		冬18時	2,000	40	14,000	1,200	60	70	7,900	1,100	120	260	20	840	10,000	17,000

※:R01調査と比較(増減)

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

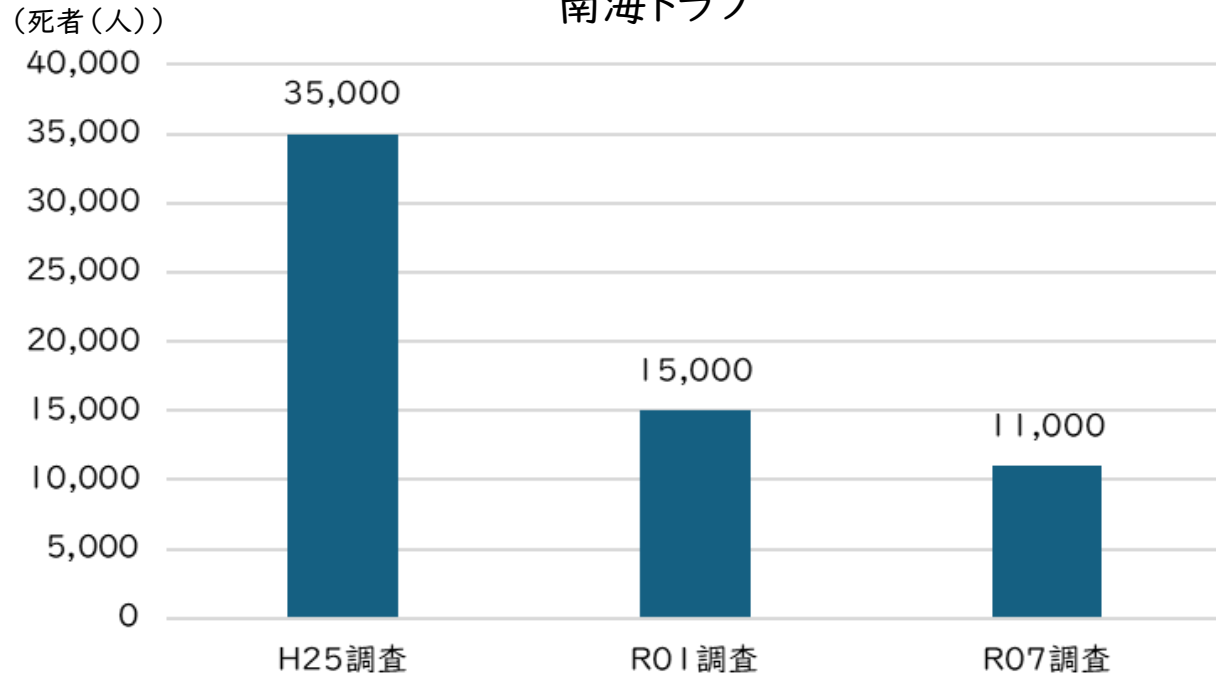
内閣府	想定地震	季節 時間	建物倒壊				土砂災害		津波		火災		ブロック塀他		合計	
			死者	(家具)	負傷者	(家具)	死者	負傷者	死者	負傷者	死者	負傷者	死者	負傷者	死者	負傷者
内閣府 2012	南海トラフ	冬深夜	2,400	200	/	/	20	/	39,000	/	100	/	-	/	42,000	/
内閣府 2019	南海トラフ	冬深夜	1,900	100	17,000	2,900	40	50	23,000	1,400	60	200	-	10	25,000	19,000
内閣府 2025	南海トラフ	冬深夜	2,000	200	29,000	2,200	40	20	37,000	2,900	200	200	-	100	39,000	32,000

※:2019調査と比較(増減)

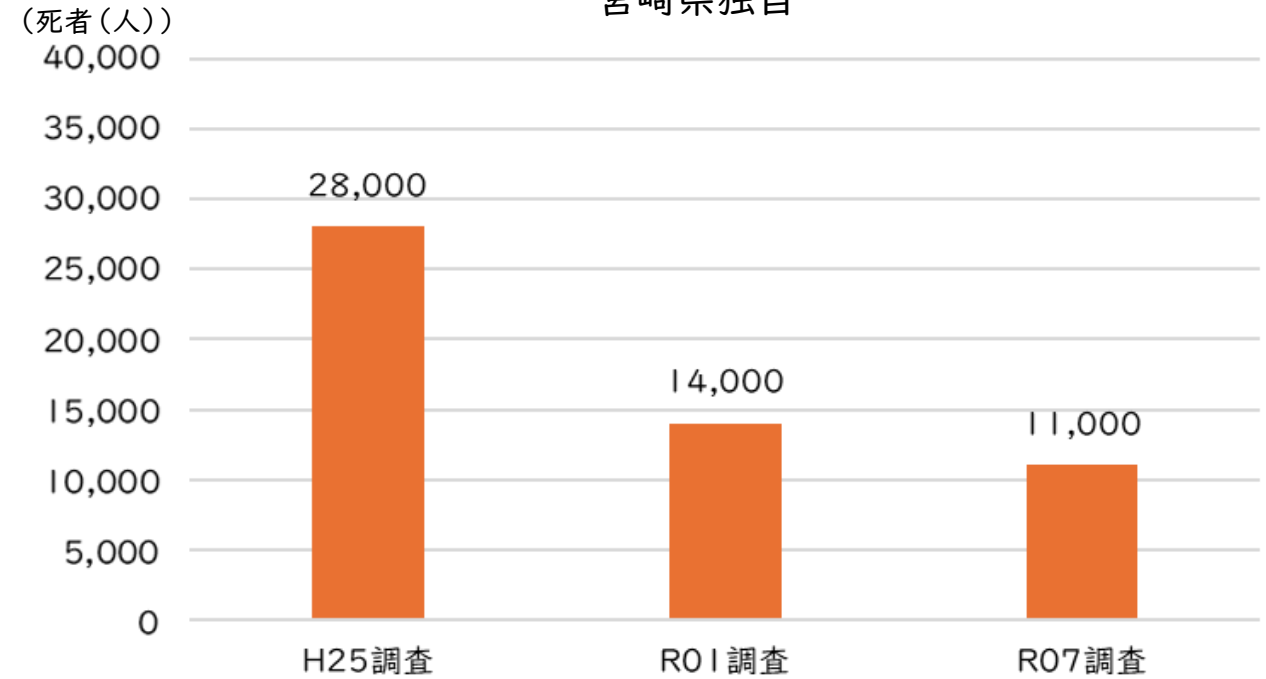
※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

# 4-6. 人的被害まとめ

## 南海トラフ



## 宮崎県独自



# 4-6. 人的被害まとめ(市町村別被害一覧)

## ○市町村別人的被害数～南海トラフ(冬深夜)～

市町村	建物倒壊		急傾斜崩壊		津波		火災		ブロック塀等		合計	
	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)
宮崎市	840	5,500	10	10	900	150	30	60	-	-	1,800	5,700
都城市	50	1,000	-	-	-	-	-	-	-	-	50	1,000
延岡市	370	2,600	20	20	2,100	170	10	10	-	-	2,500	2,800
日南市	50	660	-	-	660	130	-	-	-	-	720	800
小林市	10	270	-	-	-	-	-	-	-	-	10	280
日向市	270	1,400	10	10	2,700	190	-	-	-	-	3,000	1,600
串間市	-	100	-	-	80	100	-	-	-	-	80	200
西都市	200	840	-	-	-	-	-	-	-	-	200	840
えびの市	20	320	-	-	-	-	-	-	-	-	20	320
三股町	10	170	-	-	-	-	-	-	-	-	10	170
高原町	-	40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40
国富町	80	420	-	-	-	-	-	-	-	-	80	420
綾町	20	120	-	-	-	-	-	-	-	-	20	120
高鍋町	160	670	-	-	230	40	-	-	-	-	380	710
新富町	150	580	-	-	100	30	-	-	-	-	250	620
西米良村	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
木城町	70	240	-	-	-	-	-	-	-	-	70	240
川南町	210	860	-	-	350	20	-	-	-	-	560	880
都農町	70	340	-	-	170	20	-	-	-	-	250	360
門川町	60	380	-	-	1,100	60	-	-	-	-	1,200	450
諸塚村	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
椎葉村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美郷町	10	80	-	-	-	-	-	-	-	-	10	80
高千穂町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
五ヶ瀬町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	2,600	17,000	50	60	8,400	910	50	90	-	-	11,000	18,000

# 4-6. 人的被害まとめ（市町村別におけるROI調査との比較）

○市町村別人的被害数～南海トラフ（冬深夜）～

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

※被害量(人)、赤:減少、青:増加

市町村	人口		建物倒壊(死者)		急傾斜崩壊(死者)		津波(死者)		火災(死者)		ブロック塀等(死者)		合計(死者)	
	R01	R07	R01	R07	R01	R07	R01	R07	R01	R07	R01	R07	R01	R07
宮崎市	401,000	391,000	1,200	840	10	10	920	900	30	30	-	-	2,100	1,800
都城市	165,000	157,000	50	50	-	-	-	-	-	-	-	-	60	50
延岡市	125,000	109,000	410	370	10	20	2,900	2,100	10	10	-	-	3,300	2,500
日南市	54,000	46,000	50	50	10	-	960	660	-	-	-	-	1,000	710
小林市	47,000	40,000	10	10	-	-	-	-	-	-	-	-	10	10
日向市	62,000	56,000	310	270	-	10	5,600	2,700	-	-	-	-	5,900	3,000
串間市	19,000	15,000	-	-	-	-	70	80	-	-	-	-	70	80
西都市	31,000	27,000	200	200	-	-	-	-	-	-	-	-	200	200
えびの市	20,000	16,000	20	20	-	-	-	-	-	-	-	-	20	20
三股町	26,000	27,000	10	10	-	-	-	-	-	-	-	-	10	10
高原町	9,300	7,800	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国富町	20,000	17,000	70	80	-	-	-	-	-	-	-	-	70	80
綾町	7,300	6,500	20	20	-	-	-	-	-	-	-	-	20	20
高鍋町	21,000	19,000	190	160	-	-	200	230	-	-	-	-	400	380
新富町	17,000	16,000	140	150	-	-	110	100	-	-	-	-	250	250
西米良村	1,100	890	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	5,100	4,500	60	70	-	-	-	-	-	-	-	-	60	70
川南町	16,000	14,000	180	210	-	-	340	350	-	-	-	-	520	560
都農町	10,000	9,400	70	70	-	-	180	170	-	-	-	-	250	250
門川町	18,000	17,000	70	60	-	-	940	1,100	-	-	-	-	1,000	1,200
諸塚村	1,700	1,300	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
椎葉村	2,800	2,200	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美郷町	5,500	4,100	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	10	10
高千穂町	13,000	10,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	3,900	3,100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	3,900	3,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	1,104,000	1,019,000	3,000	2,600	50	50	12,000	8,400	50	50	-	-	15,000	11,000

# 4-6. 人的被害まとめ(市町村別被害一覧)

○市町村別人的被害数～宮崎県独自(冬深夜)～ ※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

市町村	建物倒壊		急傾斜崩壊		津波		火災		ブロック塀等		合計	
	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)	死者(人)	負傷者(人)
宮崎市	800	5,300	10	10	960	180	20	60	-	-	1,800	5,600
都城市	50	1,100	-	-			-	-	-	-	50	1,100
延岡市	340	2,500	20	30	1,700	240	10	10	-	-	2,100	2,800
日南市	480	2,000	10	10	1,500	160	10	10	-	-	2,000	2,200
小林市	10	280	-	-			-	-	-	-	10	280
日向市	260	1,400	10	10	1,500	220	-	-	-	-	1,800	1,700
串間市	150	700	-	-	460	200	-	-	-	-	610	900
西都市	190	830	-	-			-	-	-	-	190	830
えびの市	20	300	-	-			-	-	-	-	20	300
三股町	10	150	-	-			-	-	-	-	10	150
高原町	-	50	-	-			-	-	-	-	-	50
国富町	80	410	-	-			-	-	-	-	80	410
綾町	20	120	-	-			-	-	-	-	20	120
高鍋町	150	670	-	-	130	30	-	-	-	-	280	700
新富町	150	590	-	-	60	20	-	-	-	-	200	620
西米良村	-	10	-	-			-	-	-	-	-	10
木城町	70	240	-	-			-	-	-	-	70	240
川南町	200	850	-	-	320	20	-	-	-	-	530	870
都農町	70	330	-	-	190	10	-	-	-	-	260	340
門川町	70	390	-	-	750	80	-	-	-	-	820	480
諸塚村	-	10	-	-			-	-	-	-	-	10
椎葉村	-	-	-	-			-	-	-	-	-	-
美郷町	10	80	-	-			-	-	-	-	10	80
高千穂町	-	-	-	-			-	-	-	-	-	-
日之影町	-	10	-	-			-	-	-	-	-	10
五ヶ瀬町	-	-	-	-			-	-	-	-	-	-
合計	3,100	18,000	50	70	7,600	1,200	50	100	-	-	11,000	20,000

# 4-6. 人的被害まとめ（市町村別におけるROI調査との比較）

○市町村別人的被害数～宮崎県独自（冬深夜）～

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

※被害量(人)、赤:減少、青:増加

市町村	人口		建物倒壊(死者)		急傾斜崩壊(死者)		津波(死者)		火災(死者)		ブロック塀等(死者)		合計(死者)	
	R01	R07	R01	R07	R01	R07	R01	R07	R01	R07	R01	R07	R01	R07
宮崎市	401,000	391,000	1,100	800	10	10	860	960	30	20	-	-	2,000	1,800
都城市	165,000	157,000	60	50	-	-	-	-	-	-	-	-	60	50
延岡市	125,000	109,000	390	340	10	20	2,000	1,700	10	10	-	-	2,400	2,100
日南市	54,000	46,000	470	480	10	10	2,100	1,500	20	10	-	-	2,600	2,000
小林市	47,000	40,000	10	10	-	-	-	-	-	-	-	-	10	10
日向市	62,000	56,000	310	260	-	10	3,500	1,500	-	-	-	-	3,800	1,800
串間市	19,000	15,000	140	150	-	-	360	460	-	-	-	-	510	610
西都市	31,000	27,000	190	190	-	-	-	-	-	-	-	-	190	190
えびの市	20,000	16,000	20	20	-	-	-	-	-	-	-	-	20	20
三股町	26,000	27,000	10	10	-	-	-	-	-	-	-	-	10	10
高原町	9,300	7,800	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国富町	20,000	17,000	60	80	-	-	-	-	-	-	-	-	70	80
綾町	7,300	6,500	20	20	-	-	-	-	-	-	-	-	20	20
高鍋町	21,000	19,000	190	150	-	-	110	130	-	-	-	-	310	280
新富町	17,000	16,000	140	150	-	-	50	60	-	-	-	-	200	200
西米良村	1,100	890	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
木城町	5,100	4,500	60	70	-	-	-	-	-	-	-	-	60	70
川南町	16,000	14,000	170	200	-	-	350	320	-	-	-	-	520	530
都農町	10,000	9,400	70	70	-	-	180	190	-	-	-	-	250	260
門川町	18,000	17,000	70	70	-	-	910	750	-	-	-	-	990	820
諸塚村	1,700	1,300	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
椎葉村	2,800	2,200	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
美郷町	5,500	4,100	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	10	10
高千穂町	13,000	10,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日之影町	3,900	3,100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五ヶ瀬町	3,900	3,000	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	1,104,000	1,019,000	3,500	3,100	50	50	10,000	7,600	70	50	-	-	14,000	11,000

# 4-6. 人的被害まとめ（市町村別におけるROI調査との比較）

○市町村別要救助者数～南海トラフ（冬深夜）～

市町村	人口		揺れによる建物倒壊に伴う要救助者(人)		津波による要救助者(人)	
	R01	R07	R01	R07	R01	R07
宮崎市	401,000	391,000	4,400	4,100	7,100	13,000
都城市	165,000	157,000	150	200		
延岡市	125,000	109,000	1,400	1,100	3,700	6,300
日南市	54,000	46,000	150	150	420	680
小林市	47,000	40,000	20	30		
日向市	62,000	56,000	930	810	2,200	3,600
串間市	19,000	15,000	10	10	-	-
西都市	31,000	27,000	640	570		
えびの市	20,000	16,000	40	40		
三股町	26,000	27,000	30	40		
高原町	9,300	7,800	-	-		
国富町	20,000	17,000	190	220		
綾町	7,300	6,500	50	50		
高鍋町	21,000	19,000	580	500	460	740
新富町	17,000	16,000	490	440	-	-
西米良村	1,100	890	-	-		
木城町	5,100	4,500	160	180		
川南町	16,000	14,000	420	440	-	-
都農町	10,000	9,400	190	170	-	-
門川町	18,000	17,000	220	190	320	610
諸塚村	1,700	1,300	-	-		
椎葉村	2,800	2,200	-	-		
美郷町	5,500	4,100	10	10		
高千穂町	13,000	10,000	-	-		
日之影町	3,900	3,100	-	-		
五ヶ瀬町	3,900	3,000	-	-		
合計	1,104,000	1,019,000	10,000	9,300	14,000	25,000

○市町村別要救助者数～宮崎県独自（冬深夜）～

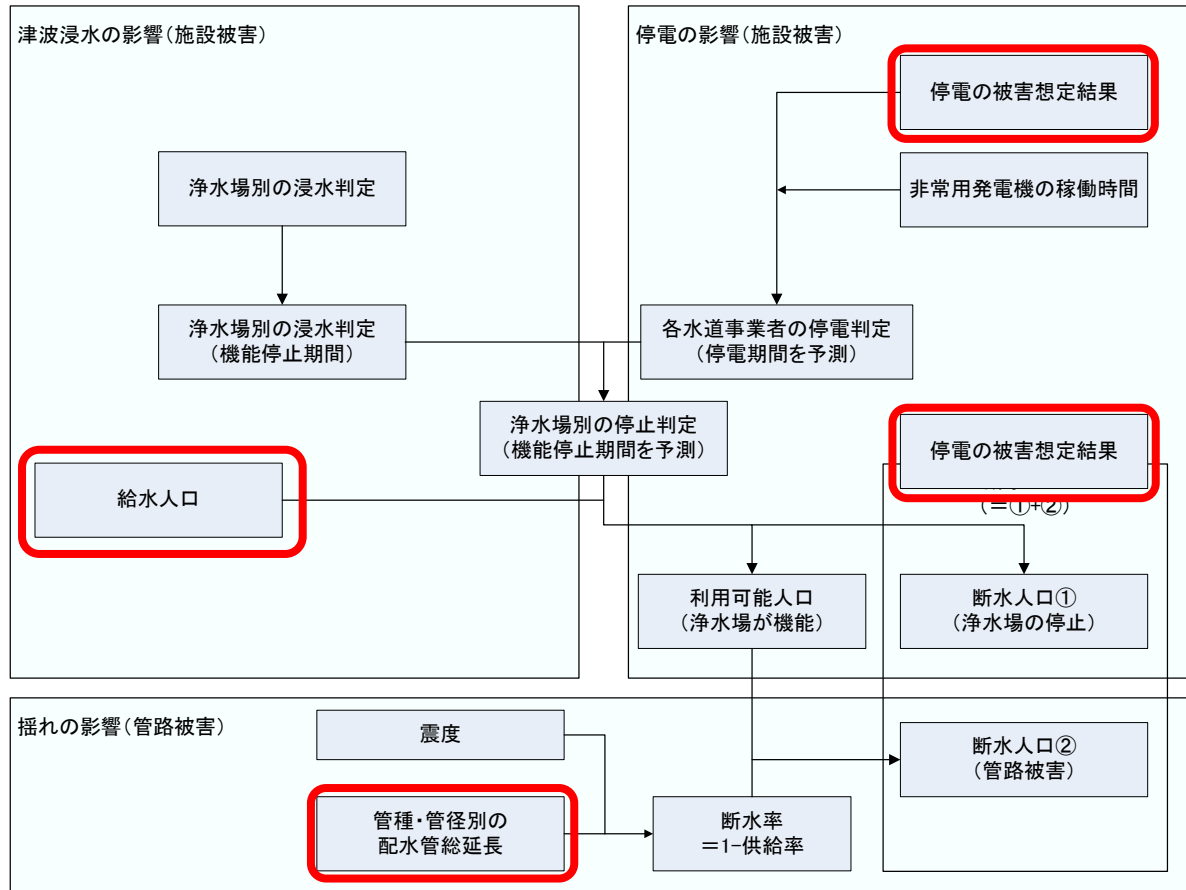
市町村	人口		揺れによる建物倒壊に伴う要救助者(人)		津波による要救助者(人)	
	R01	R07	R01	R07	R01	R07
宮崎市	401,000	391,000	4,100	3,900	6,200	12,000
都城市	165,000	157,000	150	200		
延岡市	125,000	109,000	1,300	1,100	2,500	3,900
日南市	54,000	46,000	1,300	1,100	540	840
小林市	47,000	40,000	20	30		
日向市	62,000	56,000	940	810	1,500	2,400
串間市	19,000	15,000	280	220	-	20
西都市	31,000	27,000	620	550		
えびの市	20,000	16,000	30	40		
三股町	26,000	27,000	20	30		
高原町	9,300	7,800	-	-		
国富町	20,000	17,000	180	210		
綾町	7,300	6,500	60	50		
高鍋町	21,000	19,000	580	500	230	460
新富町	17,000	16,000	510	450	-	-
西米良村	1,100	890	-	-		
木城町	5,100	4,500	170	190		
川南町	16,000	14,000	410	430	-	-
都農町	10,000	9,400	190	160	-	-
門川町	18,000	17,000	240	200	230	420
諸塚村	1,700	1,300	-	-		
椎葉村	2,800	2,200	-	-		
美郷町	5,500	4,100	10	10		
高千穂町	13,000	10,000	-	-		
日之影町	3,900	3,100	-	-		
五ヶ瀬町	3,900	3,000	-	-		
合計	1,104,000	1,019,000	11,000	10,000	11,000	20,000

## 5. ライフライン被害の想定概要

## 4. ライフライン被害の想定概要

項目	予測手法	必要データ
上水道	統計資料より給水人口を把握し、以下の2要因による断水人口を想定する。 ① 浄水場の停止による断水 ② 管路被害による供給停止による断水人口	水道管路の耐震化状況、給水人口
下水道	統計資料より処理人口を把握し、以下の2要因による機能支障人口を想定する。 ① 処理場の停止による支障人口 ② 管路被害による供給停止による支障人口	下水道普及状況(汚水処理人口普及状況)
電力	統計資料より電灯軒数を把握し、以下の3要因による停電軒数を想定する。 ① 津波による地中線被害による停電軒数 ② 津波による架空線被害による停電軒数 ③ 火災・揺れなど(需給バランスに起因するものを含む)による停電軒数	電灯需要軒数
通信	NTT西日本宮崎支店提供資料より回線数を把握し、以下の3要因による不通回線数を想定する。 ① 津波による電線被害による不通回線数 ② 火災・揺れなどによる不通回線数 ③ 停電による不通回線数 さらに、想定した不通回線数と停電割合から、携帯電話の不通ランクなどを想定する。	回線数の変化
ガス(都市ガス)	宮崎ガス提供資料より、需要家数を想定し、以下の2つの要因による供給停止戸数を想定する。 ① 製造設備の停止による供給停止戸数 ② 安全措置としての供給停止戸数	需要家数の変化 耐震化率の向上

# 5-1.上水道(断水人口)



南海トラフ(宮崎県想定)

宮崎県	給水人口(人)	支障人口(人)			
		被災直後	被災1日後	被災1週間後	被災1ヶ月後
H25調査	約1,094,000	約1,051,000	約928,000	約693,000	約249,000
R01調査	約1,068,000	約1,027,000	約909,000	約680,000	約244,000
R07調査	約987,000	約948,000	約842,000	約629,000	約224,000
差(増減)	約81,000	約79,000	約67,000	約51,000	約20,000

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

<参考>

内閣府	給水人口(人)	支障人口(人)			
		被災直後	被災1日後	被災1週間後	被災1ヶ月後
2012	約1,000,000	約950,000	約940,000	約670,000	約190,000
2019	約1,000,000	約970,000	約950,000	約670,000	約190,000
2025	約1,000,000	約950,000	約930,000	約640,000	約170,000
差(増減)	約0	約20,000	約20,000	約30,000	約20,000

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

宮崎県独自(宮崎県想定)

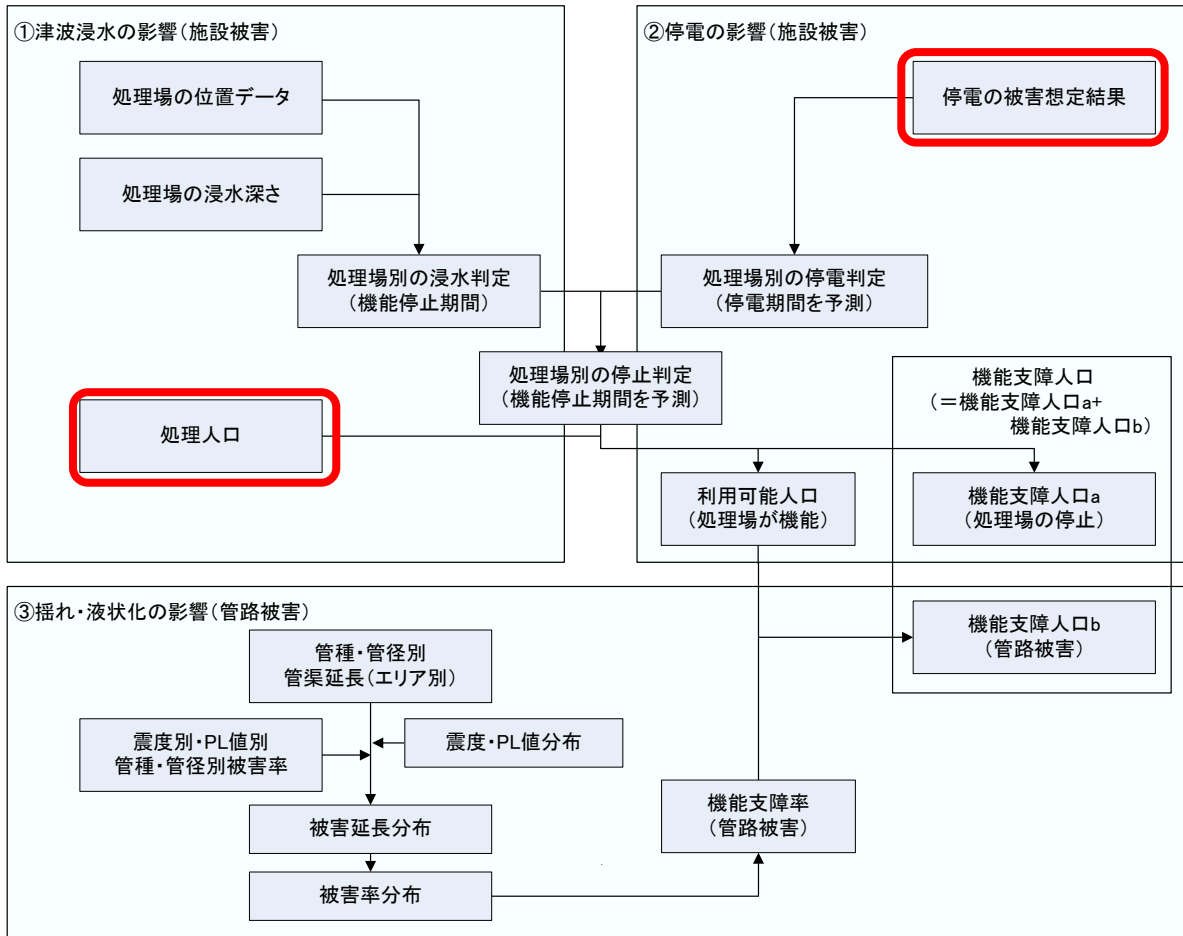
宮崎県	給水人口(人)	支障人口(人)			
		被災直後	被災1日後	被災1週間後	被災1ヶ月後
H25調査	約1,094,000	約1,058,000	約948,000	約706,000	約240,000
R01調査	約1,068,000	約1,034,000	約927,000	約691,000	約234,000
R07調査	約987,000	約954,000	約857,000	約639,000	約215,000
差(増減)	約81,000	約80,000	約70,000	約52,000	約19,000

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

<要因>

- ① 給水人口の減少
- ② 停電軒数の減少

# 5-2. 下水道（機能支障人口）



南海トラフ(宮崎県想定)

宮崎県	処理人口(人)	支障人口(人)			
		被災直後	被災1日後	被災1週間後	被災1ヶ月後
H25調査	約677,000	約644,000	約512,000	約332,000	約299,000
R01調査	約706,000	約672,000	約535,000	約348,000	約315,000
R07調査	約699,000	約662,000	約500,000	約254,000	約211,000
差(増減)	約7,000	約10,000	約35,000	約94,000	約104,000

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

<参考>

内閣府	処理人口(人)	支障人口(人)			
		被災直後	被災1日後	被災1週間後	被災1ヶ月後
2012	約600,000	約590,000	約570,000	約390,000	約58,000
2019	約650,000	約640,000	約620,000	約430,000	約64,000
2025	約660,000	約640,000	約630,000	約420,000	約63,000
差(増減)	約10,000	約0	約10,000	約10,000	約1,000

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

宮崎県独自(宮崎県想定)

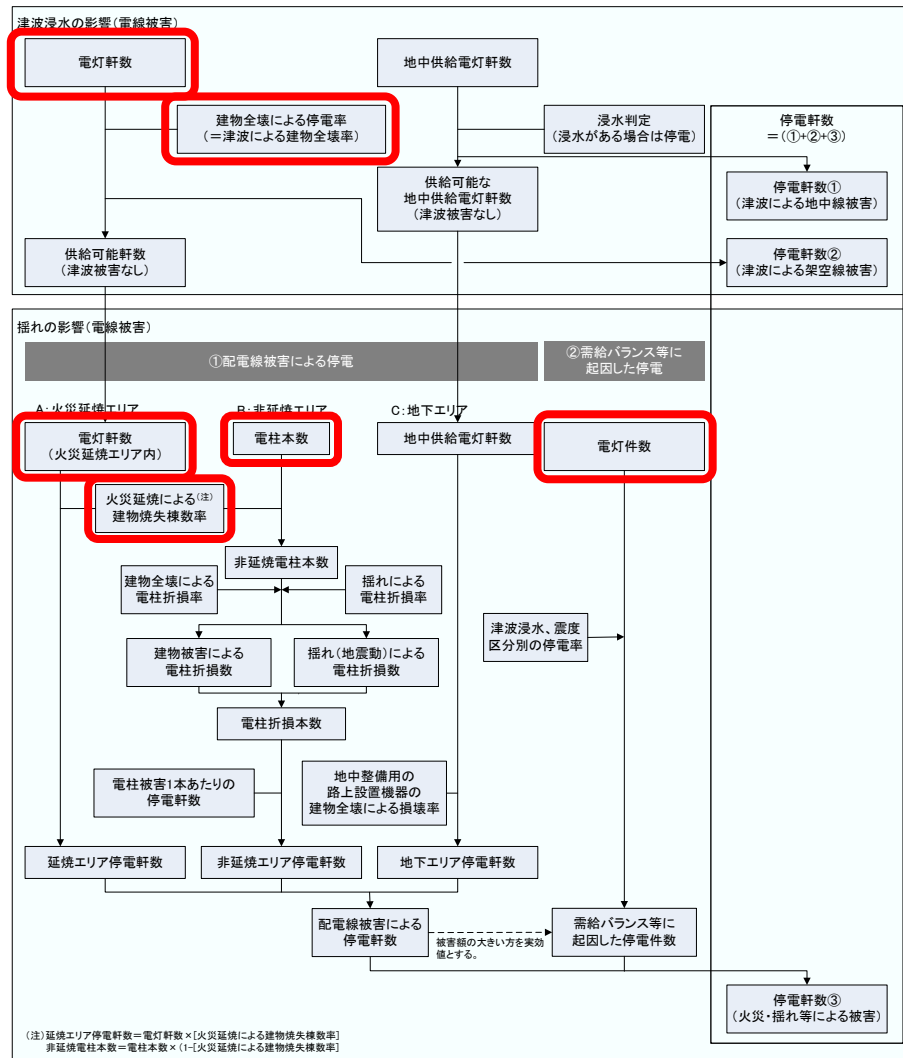
宮崎県	処理人口(人)	支障人口(人)			
		被災直後	被災1日後	被災1週間後	被災1ヶ月後
H25調査	約677,000	約644,000	約489,000	約241,000	約201,000
R01調査	約706,000	約672,000	約509,000	約249,000	約208,000
R07調査	約699,000	約665,000	約505,000	約245,000	約204,000
差(増減)	約7,000	約7,000	約4,000	約4,000	約4,000

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

<要因>

- ① 処理人口の減少
- ② 停電軒数の減少

# 5-3.電力(停電軒数)



南海トラフ(宮崎県想定)

宮崎県	電灯軒数(軒)	停電軒数(軒)			
		被災直後	被災1日後	被災1週間後	被災1ヶ月後
H25調査	約590,000	約534,000	約328,000	約54,000	
R01調査	約644,000	約584,000	約359,000	約59,000	
R07調査	約627,000	約567,000	約349,000	約52,000	
差(増減)	約17,000	約17,000	約10,000	約7,000	

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

<参考>

内閣府	電灯軒数(軒)	停電軒数(軒)			
		被災直後	被災1日後	被災1週間後	被災1ヶ月後
2012	約590,000	約530,000	約480,000	約29,000	
2019	約700,000	約620,000	約570,000	約37,000	
2025	約620,000	約560,000	約510,000	約33,000	
差(増減)	約80,000	約60,000	約60,000	約4,000	

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

宮崎県独自(宮崎県想定)

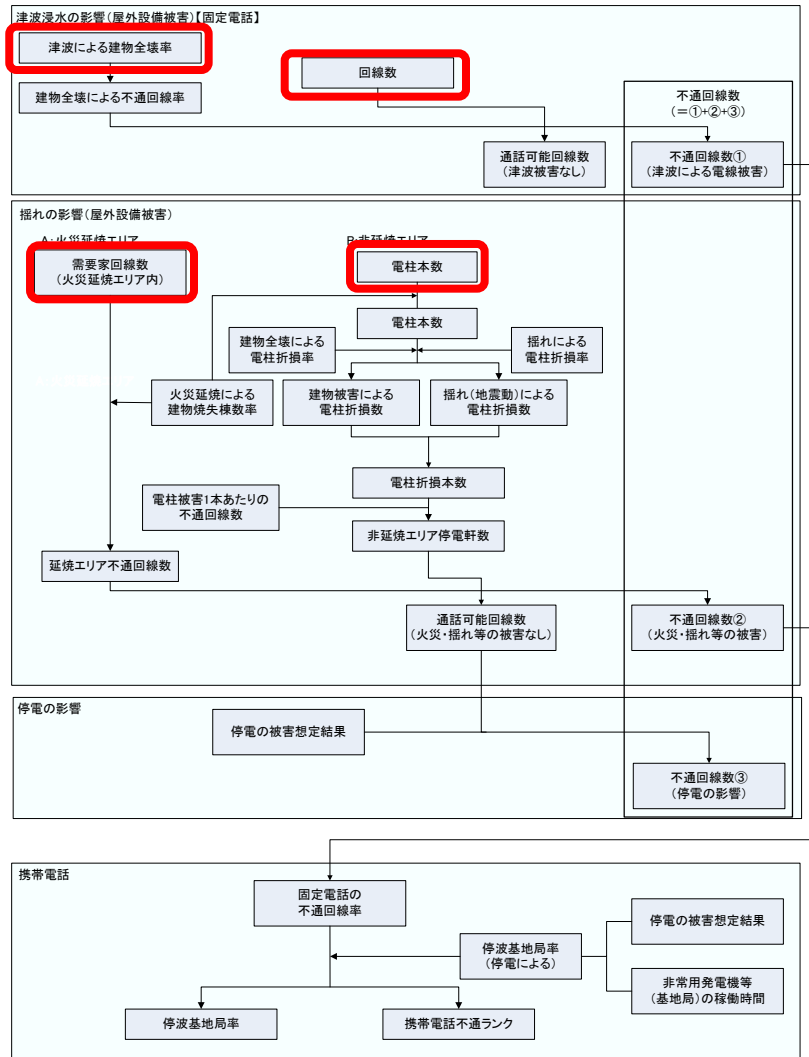
宮崎県	電灯軒数(軒)	停電軒数(軒)			
		被災直後	被災1日後	被災1週間後	被災1ヶ月後
H25調査	約590,000	約541,000	約341,000	約43,000	
R01調査	約644,000	約591,000	約372,000	約47,000	
R07調査	約627,000	約574,000	約361,000	約42,000	
差(増減)	約17,000	約17,000	約11,000	約5,000	

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

<要因>

- ① 電灯軒数の減少
- ② 揺れによる建物被害棟数の減少

# 5-4. 通信(不通回線数)



南海トラフ(宮崎県想定)

宮崎県	回線数(回線)	不通回線数(回線)			
		被災直後	被災1日後	被災1週間後	被災1ヶ月後
H25調査	約372,000	約338,000	約213,000	約52,000	約25,000
R01調査	約337,000	約307,000	約193,000	約47,000	約23,000
R07調査	約256,000	約233,000	約149,000	約35,000	約14,000
差(増減)	約81,000	約74,000	約44,000	約12,000	約9,000

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

<参考>

内閣府	回線数(回線)	不通回線数(回線)			
		被災直後	被災1日後	被災1週間後	被災1ヶ月後
2012	約280,000	約240,000	約220,000	約26,000	約20,000
2019	約180,000	約150,000	約140,000	約16,000	約12,000
2025	約250,000	約230,000	約210,000	約21,000	約15,000
差(増減)	約70,000	約80,000	約70,000	約5,000	約3,000

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

宮崎県独自(宮崎県想定)

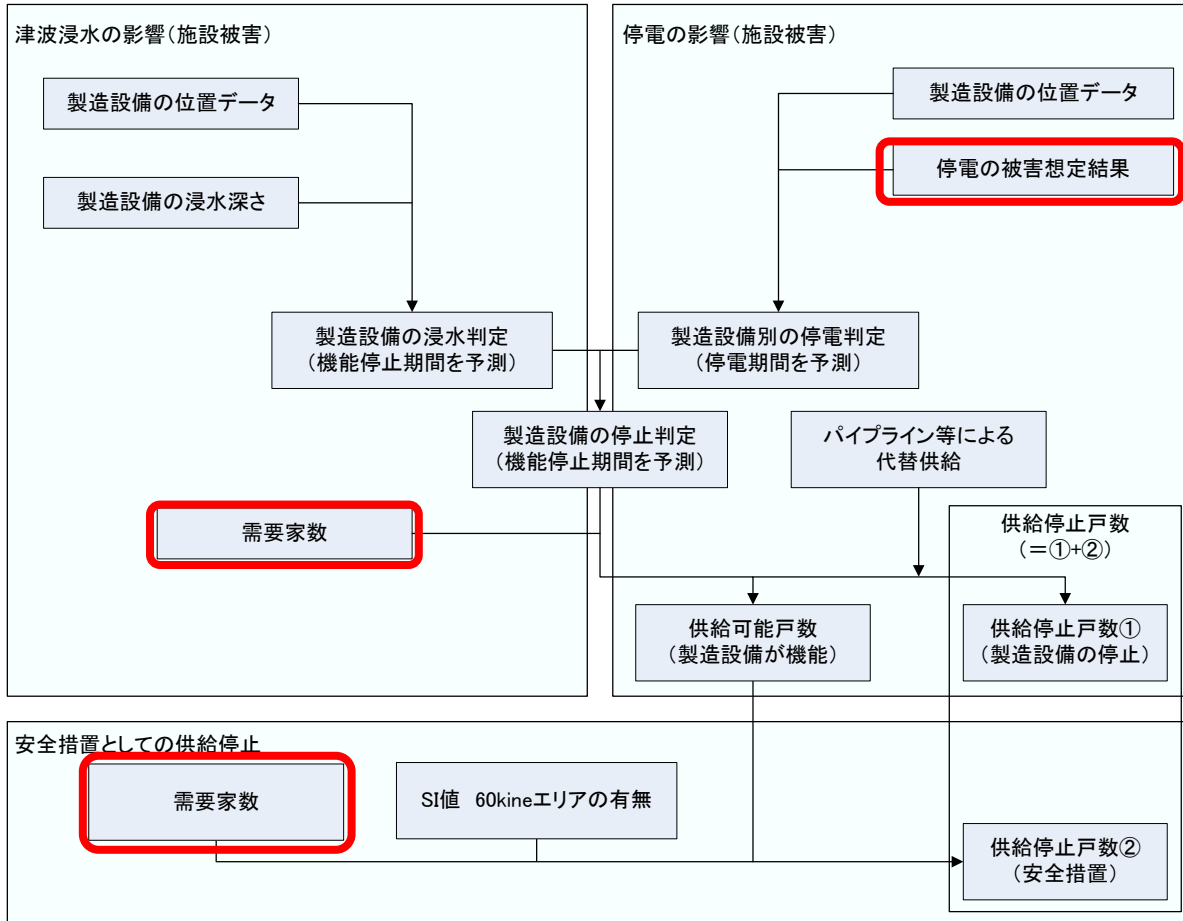
宮崎県	回線数(回線)	不通回線数(回線)			
		被災直後	被災1日後	被災1週間後	被災1ヶ月後
H25調査	約372,000	約343,000	約221,000	約42,000	約18,000
R01調査	約337,000	約311,000	約200,000	約38,000	約18,000
R07調査	約256,000	約235,000	約152,000	約27,000	約10,000
差(増減)	約81,000	約76,000	約48,000	約11,000	約8,000

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

<要因>

- ① 回線数の減少
- ② 電柱折損数の減少

# 5-6. 都市ガス(供給停止戸数)



南海トラフ(宮崎県想定)

宮崎県	需要家数 (戸)	復旧対象 需要家数	供給停止戸数(戸)			
			被災直後	被災1日後	被災1週間後	被災1ヶ月後
H25調査	約82,000	約39,000	約31,000	約29,000	約20,000	-
R01調査	約81,000	約43,000	約34,000	約32,000	約22,000	-
R07調査	約71,000	約38,000	約30,000	約29,000	約20,000	-
差(増減)	約10,000	約5,000	約4,000	約3,000	約2,000	-

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

<参考>

内閣府	需要家数 (戸)	復旧対象 需要家数	供給停止戸数(戸)			
			被災直後	被災1日後	被災1週間後	被災1ヶ月後
2012	-	約41,000	約32,000	約31,000	約22,000	-
2019	-	約41,000	約32,000	約31,000	約22,000	-
2025	-	約44,000	約43,000	約40,000	約24,000	-
差(増減)	-	約3,000	約11,000	約9,000	約2,000	-

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

宮崎県独自(宮崎県想定)

宮崎県	需要家数 (戸)	復旧対象 需要家数	供給停止戸数(戸)			
			被災直後	被災1日後	被災1週間後	被災1ヶ月後
H25調査	約82,000	約42,000	約33,000	約31,000	約22,000	-
R01調査	約81,000	約50,000	約39,000	約37,000	約26,000	-
R07調査	約71,000	約41,000	約32,000	約30,000	約21,000	-
差(増減)	約10,000	約9,000	約7,000	約7,000	約5,000	-

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

<要因>

- ① 建物被害減少による復旧対象需要家数の減少
- ② 需要家数の減少

## 6.生活への影響の想定概要

## 6.生活への影響の想定概要

項目	予測手法	必要データ
避難者	内閣府(2013)同様に、津波浸水域と津波浸水の影響を受けない地域を区分し、全壊・半壊棟数、断水人口等から各地域の発災日から当日・1日後、1週間後、1ヶ月後の避難者数を算出する。	耐震化率による避難者の減少、人口の減少、 <b>半壊棟数に乗じる係数</b>
<b>災害関連死</b> (新規項目)	災害関連死者数と最大避難者数の関係から予測	<b>避難者数</b>

# 6-1.避難者

- これまでは、内閣府(2012)に基づき発災直後の全避難者数を算定
  - 全避難者数=(全壊棟数+ 0.13×半壊棟数)×1棟当たり平均人員
  - 半壊棟数に係る係数は、0.5であったものが東北地方太平洋沖地震後の内閣府によるWGの中で0.13に変更されたものである。
- 南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ報告書(令和7年3月公表)では、発災直後の避難者数として、下記が示された。
  - 全避難者数=(全壊棟数+ 0.50×半壊棟数)×1棟当たり平均人員
  - 半壊棟数にかかる係数0.50は室崎ら(1996)による「神戸市内震度7地域の住民へのアンケート調査」結果(下表)に基づき、中部圏・近畿圏の被害想定(中央防災会議(2007))で採用された

		避難した		避難しなかつた	合計
		避難所	親戚等疎開		
全壊	712 (100.0%)	443 (62.2%)	269 (37.8%)	0 (0.0%)	712 (100%)
半壊	362 ( 50.3%)	237 (33.0%)	125 (17.4%)	357 (49.7%)	719 (100%)
軽微, 被害なし	269 ( 36.2%)	183 (24.6%)	86 (11.6%)	475 (63.8%)	744 (100%)

# 6-1.避難者

■ 津波浸水域と津波浸水の影響を受けない地域を区分し、全壊・半壊棟数、断水人口等から各地域の発災日から当日・1日後、1週間後、1ヶ月後の避難者数を算出する。

南海トラフ(宮崎県想定)

被害量(人)、赤:減少、青:増加

宮崎県	被災1日後			被災1週間後			被災1ヶ月後		
	避難者 (人)	避難者		避難者 (人)	避難者		避難者 (人)	避難者	
		避難所	避難所外		避難所	避難所外		避難所	避難所外
H25調査	約333,000	約211,000	約122,000	約393,000	約246,000	約147,000	約383,000	約115,000	約268,000
R01調査	約307,000	約196,000	約112,000	約370,000	約234,000	約135,000	約361,000	約108,000	約253,000
R07調査	約362,000	約228,000	約134,000	約433,000	約275,000	約158,000	約426,000	約128,000	約298,000
差(増減)	約55,000	約32,000	約22,000	約63,000	約41,000	約23,000	約65,000	約20,000	約45,000

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

<参考>

内閣府	被災1日後			被災1週間後			被災1ヶ月後		
	避難者 (人)	避難者		避難者 (人)	避難者		避難者 (人)	避難者	
		避難所	避難所外		避難所	避難所外		避難所	避難所外
2012	約310,000	約200,000	約110,000	約350,000	約200,000	約150,000	約340,000	約100,000	約240,000
2019	約290,000	約190,000	約110,000	約330,000	約190,000	約140,000	約320,000	約95,000	約220,000
2025	約369,000	約231,000	約138,000	約404,000	約232,000	約172,000	約400,000	約120,000	約280,000
差(増減)	約79,000	約41,000	約28,000	約74,000	約42,000	約32,000	約80,000	約25,000	約60,000

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

宮崎県独自(宮崎県想定)

宮崎県	被災1日後			被災1週間後			被災1ヶ月後		
	避難者 (人)	避難者		避難者 (人)	避難者		避難者 (人)	避難者	
		避難所	避難所外		避難所	避難所外		避難所	避難所外
H25調査	約332,000	約209,000	約123,000	約399,000	約242,000	約157,000	約393,000	約118,000	約275,000
R01調査	約301,000	約190,000	約110,000	約368,000	約225,000	約143,000	約364,000	約109,000	約254,000
R07調査	約359,000	約225,000	約134,000	約434,000	約267,000	約167,000	約429,000	約129,000	約300,000
差(増減)	約58,000	約35,000	約24,000	約66,000	約42,000	約24,000	約65,000	約20,000	約46,000

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

<要因>

- ① 半壊棟数にかける係数が安全側に評価されるように変更となった  
(熊本地震や能登半島地震では、多くの避難者が発生したため、半壊棟数にかける係数を見直し)

# 6-1.市町村別避難者一覽

## 南海トラフ

市町村	被災1日後			被災1週間後			被災1ヶ月後		
	避難者 (人)	避難所 内	避難所 外	避難者 (人)	避難所 内	避難所 外	避難者 (人)	避難所 内	避難所 外
宮崎市	154,000	96,000	58,000	190,000	112,000	77,000	192,000	58,000	134,000
都城市	11,000	6,800	4,500	24,000	12,000	12,000	18,000	5,400	13,000
延岡市	69,000	45,000	24,000	71,000	54,000	17,000	70,000	21,000	49,000
日南市	17,000	11,000	6,100	18,000	12,000	5,900	16,000	4,900	12,000
小林市	2,300	1,400	940	4,600	2,300	2,300	3,400	1,000	2,400
日向市	38,000	25,000	13,000	39,000	32,000	7,500	39,000	12,000	28,000
串間市	2,000	1,300	700	1,800	1,200	610	1,400	420	990
西都市	12,000	7,200	4,800	15,000	7,500	7,500	16,000	4,700	11,000
えびの市	2,600	1,600	1,000	3,800	1,900	1,900	3,300	990	2,300
三股町	2,200	1,300	900	4,900	2,500	2,500	3,700	1,100	2,600
高原町	280	170	110	530	260	260	350	100	240
国富町	5,300	3,200	2,100	7,200	3,600	3,600	7,100	2,100	5,000
綾町	1,400	810	540	2,100	1,000	1,000	2,000	600	1,400
高鍋町	12,000	7,900	4,500	13,000	9,000	4,100	14,000	4,100	9,700
新富町	7,900	4,800	3,100	9,300	5,000	4,200	10,000	3,100	7,200
西米良村	60	40	30	120	60	60	90	30	60
木城町	2,900	1,800	1,200	3,200	1,600	1,600	3,400	1,000	2,400
川南町	7,300	4,400	2,900	8,700	4,600	4,100	9,200	2,800	6,400
都農町	3,400	2,000	1,300	4,400	2,400	2,100	4,600	1,400	3,200
門川町	11,000	7,300	3,800	11,000	9,300	2,000	11,000	3,400	7,800
諸塚村	70	40	30	150	70	70	110	30	80
椎葉村	30	20	10	70	30	30	40	10	30
美郷町	490	290	200	850	420	420	680	210	480
高千穂町	10	0	0	30	20	20	10	0	0
日之影町	40	30	20	90	40	40	60	20	40
五ヶ瀬町	10	0	0	30	10	10	10	0	0
合計	362,000	228,000	134,000	433,000	275,000	158,000	426,000	128,000	298,000

## 宮崎県独自

市町村	被災1日後			被災1週間後			被災1ヶ月後		
	避難者 (人)	避難所 内	避難所 外	避難者 (人)	避難所 内	避難所 外	避難者 (人)	避難所 内	避難所 外
宮崎市	148,000	92,000	56,000	184,000	108,000	76,000	186,000	56,000	130,000
都城市	12,000	7,000	4,600	25,000	12,000	12,000	19,000	5,600	13,000
延岡市	62,000	40,000	22,000	64,000	45,000	19,000	63,000	19,000	44,000
日南市	26,000	16,000	9,700	30,000	19,000	11,000	31,000	9,200	21,000
小林市	2,400	1,400	960	4,700	2,400	2,400	3,400	1,000	2,400
日向市	36,000	23,000	12,000	37,000	29,000	7,900	37,000	11,000	26,000
串間市	6,000	3,800	2,300	7,000	4,300	2,700	7,000	2,100	4,900
西都市	12,000	7,100	4,800	15,000	7,400	7,400	15,000	4,600	11,000
えびの市	2,500	1,500	1,000	3,700	1,900	1,900	3,200	950	2,200
三股町	2,100	1,200	820	4,500	2,300	2,300	3,400	1,000	2,400
高原町	340	200	130	670	330	330	460	140	320
国富町	5,200	3,100	2,100	7,100	3,600	3,600	7,000	2,100	4,900
綾町	1,400	810	540	2,100	1,000	1,000	2,000	590	1,400
高鍋町	11,000	7,200	4,300	12,000	7,700	4,700	13,000	4,000	9,300
新富町	7,800	4,700	3,100	9,300	4,900	4,400	10,000	3,100	7,300
西米良村	60	40	20	110	50	50	80	20	50
木城町	3,000	1,800	1,200	3,300	1,600	1,600	3,500	1,000	2,400
川南町	7,200	4,300	2,800	8,600	4,600	4,000	9,000	2,700	6,300
都農町	3,300	2,000	1,300	4,400	2,300	2,000	4,500	1,400	3,200
門川町	11,000	7,000	3,700	11,000	8,700	2,100	11,000	3,200	7,500
諸塚村	70	40	30	140	70	70	100	30	70
椎葉村	30	20	10	60	30	30	30	10	20
美郷町	480	290	190	830	410	410	670	200	470
高千穂町	10	0	0	40	20	20	10	0	10
日之影町	40	20	20	80	40	40	50	20	40
五ヶ瀬町	10	0	0	30	10	10	10	0	0
合計	359,000	225,000	134,000	434,000	267,000	167,000	429,000	129,000	300,000

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

# 6-1.南海トラフの市町村別避難者一覧（R01調査との比較）

## R01調査

## R07調査

赤:減少、青:増加

市町村	被災1日後			被災1週間後			被災1ヶ月後			市町村	被災1日後			被災1週間後			被災1ヶ月後		
	避難者 (人)	避難所 内	避難所 外	避難者 (人)	避難所 内	避難所 外	避難者 (人)	避難所 内	避難所 外		避難者 (人)	避難所 内	避難所 外	避難者 (人)	避難所 内	避難所 外	避難者 (人)	避難所 内	避難所 外
宮崎市	122,000	77,000	46,000	155,000	90,000	65,000	157,000	47,000	110,000	宮崎市	154,000	96,000	58,000	190,000	112,000	77,000	192,000	58,000	134,000
都城市	4,900	3,000	2,000	19,000	9,500	9,500	12,000	3,700	8,600	都城市	11,000	6,800	4,500	24,000	12,000	12,000	18,000	5,400	13,000
延岡市	66,000	43,000	23,000	61,000	46,000	15,000	59,000	18,000	41,000	延岡市	69,000	45,000	24,000	71,000	54,000	17,000	70,000	21,000	49,000
日南市	16,000	10,000	5,400	15,000	11,000	4,700	13,000	3,900	9,200	日南市	17,000	11,000	6,100	18,000	12,000	5,900	16,000	4,900	12,000
小林市	1,000	620	410	3,800	1,900	1,900	2,300	680	1,600	小林市	2,300	1,400	940	4,600	2,300	2,300	3,400	1,000	2,400
日向市	37,000	25,000	13,000	36,000	29,000	6,500	36,000	11,000	25,000	日向市	38,000	25,000	13,000	39,000	32,000	7,500	39,000	12,000	28,000
串間市	1,400	890	480	1,300	720	550	780	230	550	串間市	2,000	1,300	700	1,800	1,200	610	1,400	420	990
西都市	9,200	5,500	3,700	13,000	6,700	6,700	14,000	4,300	10,000	西都市	12,000	7,200	4,800	15,000	7,500	7,500	16,000	4,700	11,000
えびの市	1,100	690	460	2,900	1,400	1,400	2,100	630	1,500	えびの市	2,600	1,600	1,000	3,800	1,900	1,900	3,300	990	2,300
三股町	880	530	350	3,600	1,800	1,800	2,400	710	1,700	三股町	2,200	1,300	900	4,900	2,500	2,500	3,700	1,100	2,600
高原町	100	60	40	420	210	210	190	60	130	高原町	280	170	110	530	260	260	350	100	240
国富町	3,000	1,800	1,200	5,700	2,900	2,900	5,600	1,700	3,900	国富町	5,300	3,200	2,100	7,200	3,600	3,600	7,100	2,100	5,000
綾町	750	450	300	1,800	880	880	1,600	490	1,100	綾町	1,400	810	540	2,100	1,000	1,000	2,000	600	1,400
高鍋町	12,000	7,700	4,400	12,000	7,500	4,200	13,000	3,900	9,200	高鍋町	12,000	7,900	4,500	13,000	9,000	4,100	14,000	4,100	9,700
新富町	7,300	4,500	2,800	8,900	4,800	4,000	10,000	3,100	7,300	新富町	7,900	4,800	3,100	9,300	5,000	4,200	10,000	3,100	7,200
西米良村	20	10	10	80	40	40	50	10	30	西米良村	60	40	30	120	60	60	90	30	60
木城町	2,100	1,300	850	2,800	1,400	1,400	3,300	1,000	2,300	木城町	2,900	1,800	1,200	3,200	1,600	1,600	3,400	1,000	2,400
川南町	5,900	3,600	2,300	7,900	4,300	3,600	8,700	2,600	6,100	川南町	7,300	4,400	2,900	8,700	4,600	4,100	9,200	2,800	6,400
都農町	3,200	2,000	1,300	4,500	2,400	2,000	4,700	1,400	3,300	都農町	3,400	2,000	1,300	4,400	2,400	2,100	4,600	1,400	3,200
門川町	13,000	8,300	4,200	12,000	10,000	2,000	12,000	3,600	8,500	門川町	11,000	7,300	3,800	11,000	9,300	2,000	11,000	3,400	7,800
諸塚村	40	20	20	140	70	70	90	30	60	諸塚村	70	40	30	150	70	70	110	30	80
椎葉村	50	30	20	220	110	110	120	40	90	椎葉村	30	20	10	70	30	30	40	10	30
美郷町	270	160	110	790	390	390	550	160	380	美郷町	490	290	200	850	420	420	680	210	480
高千穂町	0	0	0	70	40	40	10	0	0	高千穂町	10	0	0	30	20	20	10	0	0
日之影町	10	10	0	50	30	30	10	0	10	日之影町	40	30	20	90	40	40	60	20	40
五ヶ瀬町	10	10	0	80	40	40	20	10	10	五ヶ瀬町	10	0	0	30	10	10	10	0	0
合計	307,000	196,000	112,000	370,000	234,000	135,000	361,000	108,000	253,000	合計	362,000	228,000	134,000	433,000	275,000	158,000	426,000	128,000	298,000

※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

# 6-1.宮崎県独自の市町村別避難者一覧（R01調査との比較）

## R01調査

## R07調査

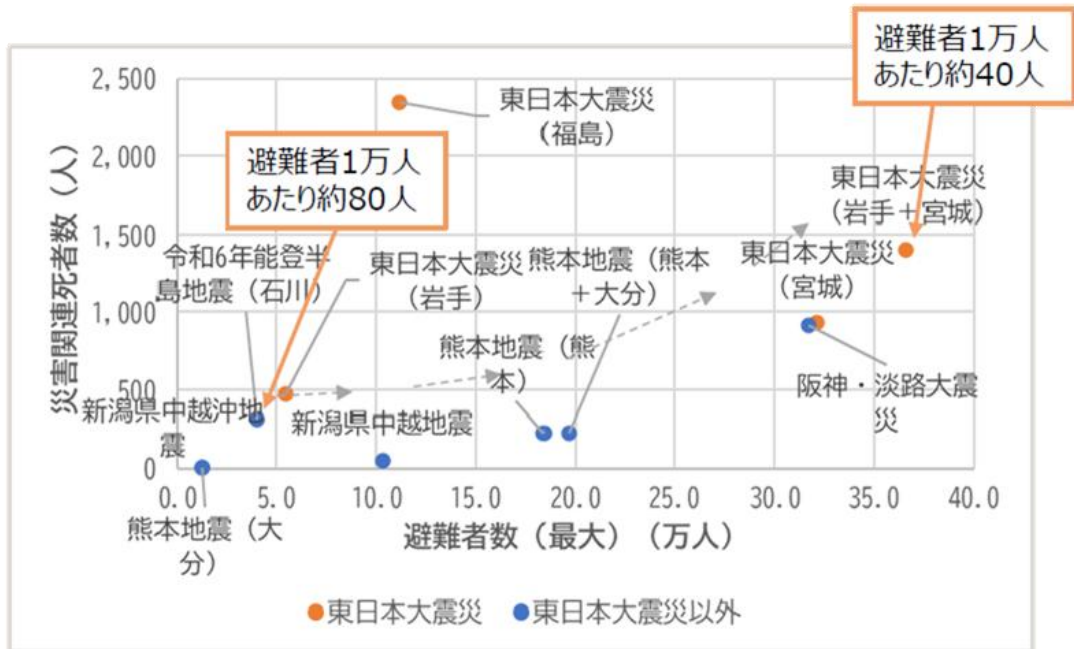
赤:減少、青:増加

市町村	被災1日後			被災1週間後			被災1ヶ月後			市町村	被災1日後			被災1週間後			被災1ヶ月後		
	避難者 (人)	避難所 内	避難所 外	避難者 (人)	避難所 内	避難所 外	避難者 (人)	避難所 内	避難所 外		避難者 (人)	避難所 内	避難所 外	避難者 (人)	避難所 内	避難所 外	避難者 (人)	避難所 内	避難所 外
宮崎市	116,000	72,000	43,000	149,000	85,000	64,000	150,000	45,000	105,000	宮崎市	148,000	92,000	56,000	184,000	108,000	76,000	186,000	56,000	130,000
都城市	5,200	3,100	2,100	20,000	9,800	9,800	13,000	3,800	8,900	都城市	12,000	7,000	4,600	25,000	12,000	12,000	19,000	5,600	13,000
延岡市	56,000	37,000	20,000	53,000	38,000	16,000	51,000	15,000	36,000	延岡市	62,000	40,000	22,000	64,000	45,000	19,000	63,000	19,000	44,000
日南市	26,000	16,000	9,300	30,000	19,000	10,000	31,000	9,400	22,000	日南市	26,000	16,000	9,700	30,000	19,000	11,000	31,000	9,200	21,000
小林市	1,000	600	400	3,800	1,900	1,900	2,300	680	1,600	小林市	2,400	1,400	960	4,700	2,400	2,400	3,400	1,000	2,400
日向市	35,000	23,000	12,000	32,000	25,000	6,600	32,000	9,700	23,000	日向市	36,000	23,000	12,000	37,000	29,000	7,900	37,000	11,000	26,000
串間市	6,800	4,300	2,500	7,600	4,500	3,100	7,600	2,300	5,300	串間市	6,000	3,800	2,300	7,000	4,300	2,700	7,000	2,100	4,900
西都市	8,900	5,400	3,600	13,000	6,600	6,600	14,000	4,200	9,900	西都市	12,000	7,100	4,800	15,000	7,400	7,400	15,000	4,600	11,000
えびの市	1,100	640	430	2,800	1,400	1,400	2,000	610	1,400	えびの市	2,500	1,500	1,000	3,700	1,900	1,900	3,200	950	2,200
三股町	790	480	320	3,300	1,700	1,700	2,200	650	1,500	三股町	2,100	1,200	820	4,500	2,300	2,300	3,400	1,000	2,400
高原町	130	80	50	550	280	280	280	80	200	高原町	340	200	130	670	330	330	460	140	320
国富町	2,900	1,800	1,200	5,700	2,800	2,800	5,500	1,600	3,800	国富町	5,200	3,100	2,100	7,100	3,600	3,600	7,000	2,100	4,900
綾町	740	440	300	1,700	860	860	1,600	470	1,100	綾町	1,400	810	540	2,100	1,000	1,000	2,000	590	1,400
高鍋町	11,000	6,600	4,000	11,000	6,500	4,800	13,000	3,900	9,000	高鍋町	11,000	7,200	4,300	12,000	7,700	4,700	13,000	4,000	9,300
新富町	7,000	4,200	2,700	8,900	4,700	4,200	11,000	3,200	7,400	新富町	7,800	4,700	3,100	9,300	4,900	4,400	10,000	3,100	7,300
西米良村	20	10	10	70	40	40	40	10	30	西米良村	60	40	20	110	50	50	80	20	50
木城町	2,200	1,300	870	2,800	1,400	1,400	3,400	1,000	2,400	木城町	3,000	1,800	1,200	3,300	1,600	1,600	3,500	1,000	2,400
川南町	5,800	3,600	2,300	7,800	4,300	3,500	8,500	2,600	6,000	川南町	7,200	4,300	2,800	8,600	4,600	4,000	9,000	2,700	6,300
都農町	3,200	1,900	1,200	4,500	2,400	2,000	4,700	1,400	3,300	都農町	3,300	2,000	1,300	4,400	2,300	2,000	4,500	1,400	3,200
門川町	12,000	7,700	4,000	10,000	8,400	2,000	10,000	3,000	7,100	門川町	11,000	7,000	3,700	11,000	8,700	2,100	11,000	3,200	7,500
諸塚村	40	20	20	130	70	70	80	20	60	諸塚村	70	40	30	140	70	70	100	30	70
椎葉村	50	30	20	200	100	100	110	30	80	椎葉村	30	20	10	60	30	30	30	10	20
美郷町	260	150	100	760	380	380	530	160	370	美郷町	480	290	190	830	410	410	670	200	470
高千穂町	0	0	0	90	40	40	10	0	10	高千穂町	10	0	0	40	20	20	10	0	10
日之影町	10	10	0	50	30	30	10	0	10	日之影町	40	20	20	80	40	40	50	20	40
五ヶ瀬町	10	10	0	70	40	40	20	0	10	五ヶ瀬町	10	0	0	30	10	10	10	0	0
合計	301,000	190,000	110,000	368,000	225,000	143,000	364,000	109,000	254,000	合計	359,000	225,000	134,000	434,000	267,000	167,000	429,000	129,000	300,000

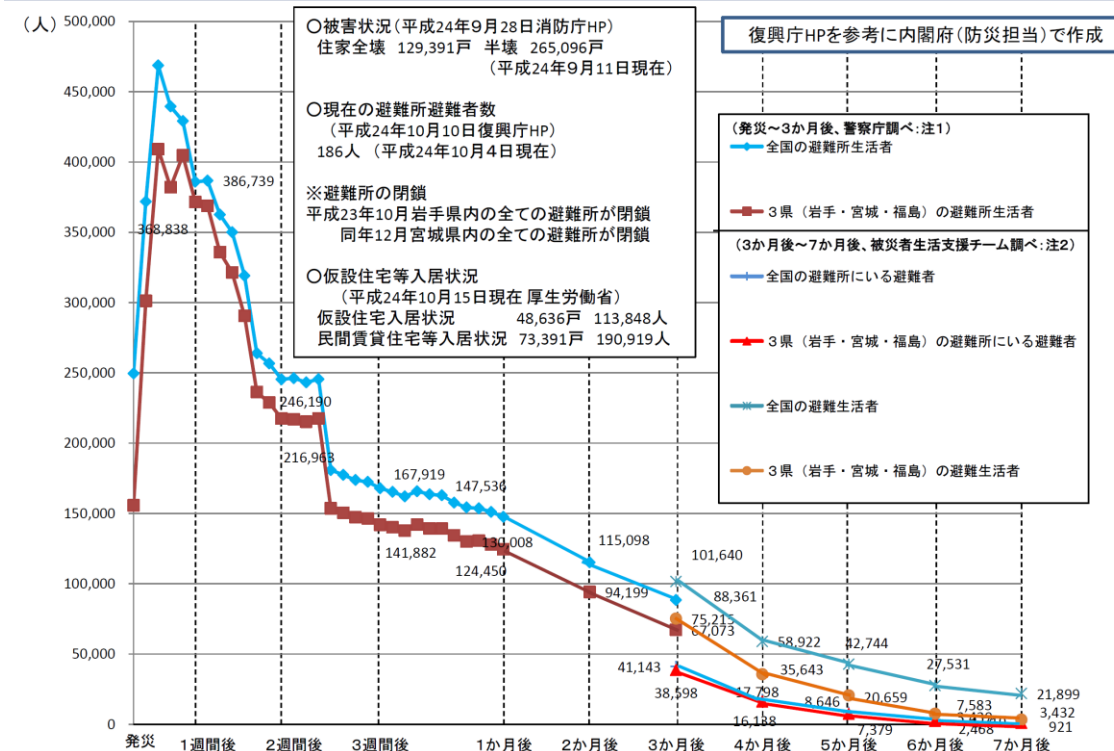
※四捨五入の関係で合計が一致しない場合がある

# 6-2. 災害関連死

- 内閣府想定と同様に、東日本大震災の岩手県・宮城県や、令和6年能登半島地震の石川県における災害関連死者数と最大避難者数の関係に基づいて予測する。
- 倒壊後に発生した家屋内の救出困難者（生き埋め等）災害関連死の認定に関する基準等が自治体によって異なる点が災害関連死者数の統計データに影響している可能性があるため、避難者1万人あたり40人とした場合と80人とした場合で幅を持たせて予測する。



東日本大震災の避難所生活者数の推移について 資料8



注1 警察庁調べ:「公民館・学校等の公共施設」及び「旅館・ホテル」への避難者を中心に集計。  
 注2 被災者生活者チーム(復興庁)調べ:①避難所(公民館・学校等)、②旅館・ホテル及び③その他(親族・知人宅等)を集計。

被害量(人)

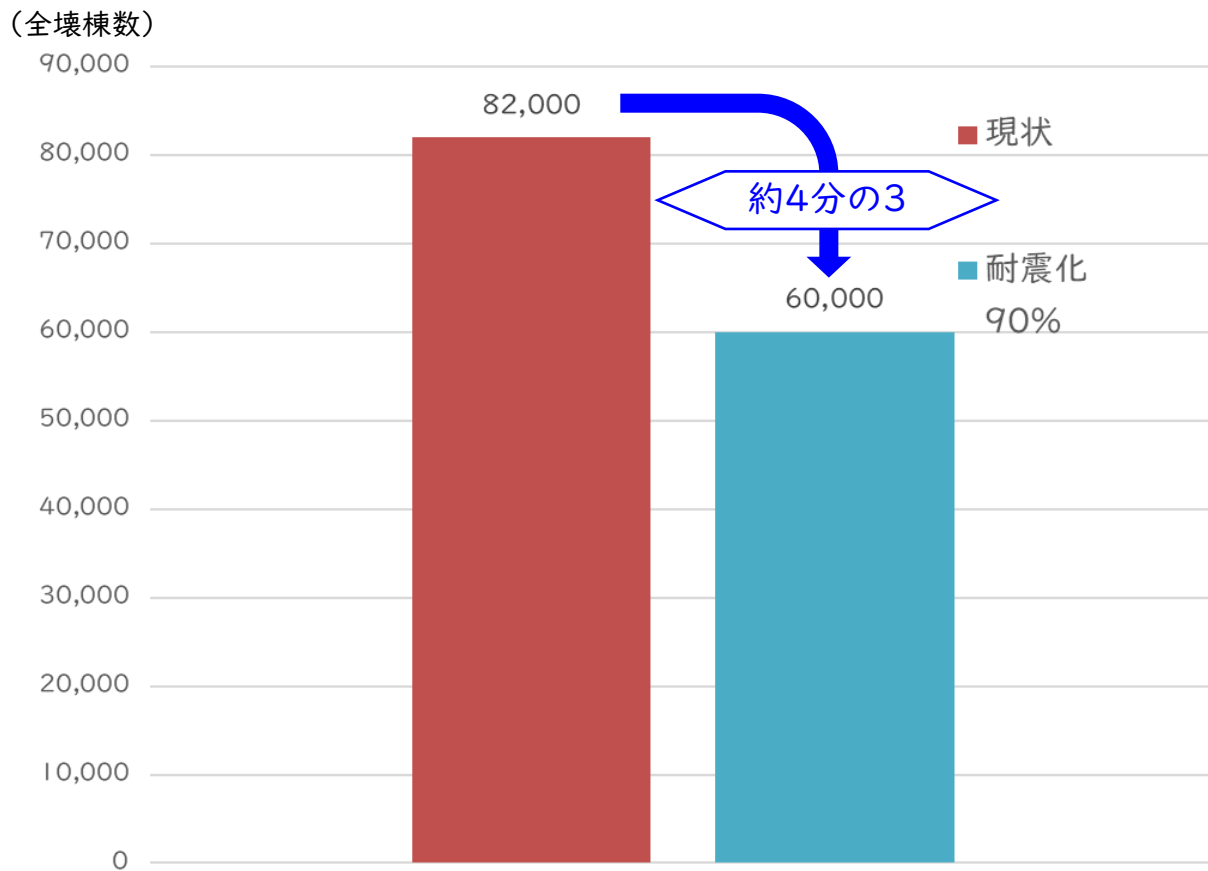
	南海トラフ	宮崎県独自
R07調査	1,700~3,500	1,700~3,500

# 7.減災効果

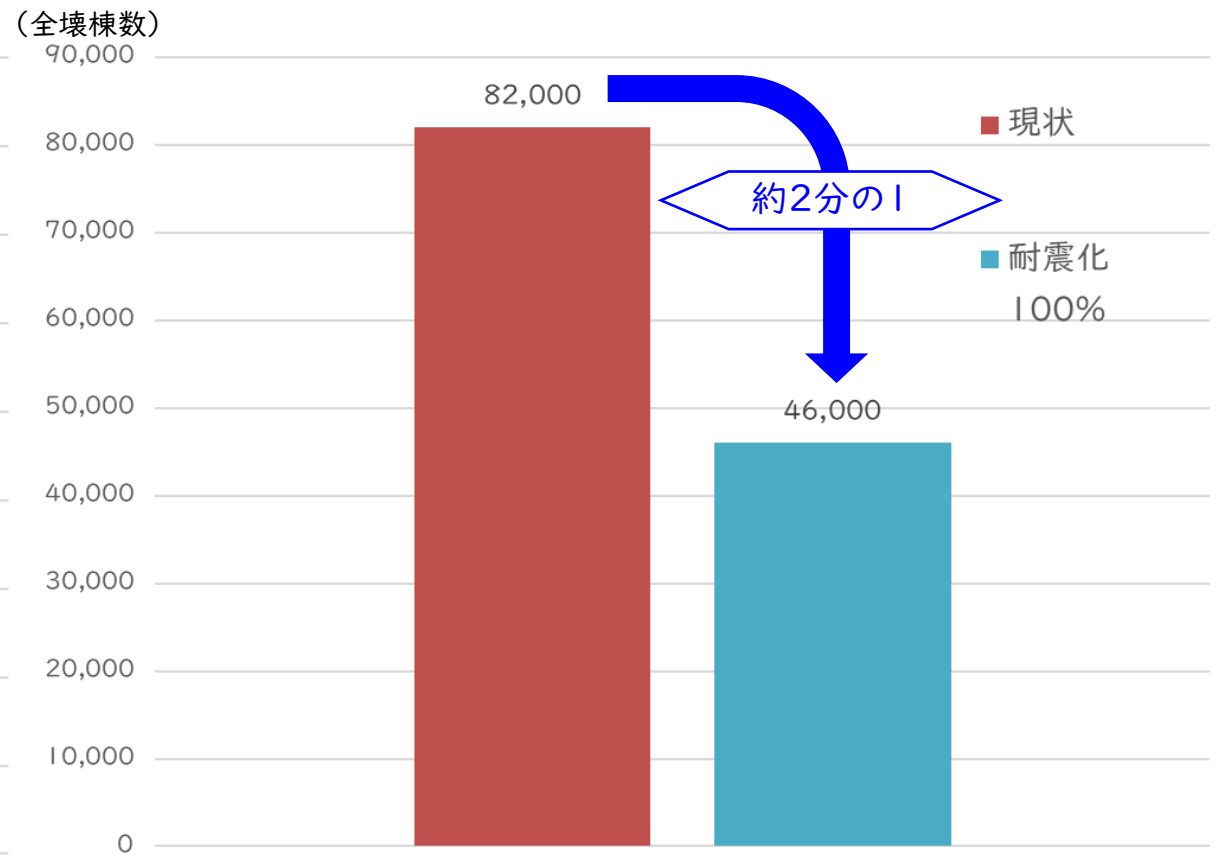
# 7-1.建物被害の減災効果（南海トラフ）

- 建物の耐震化率（現在約84%）を向上させた場合の建物被害を算定

耐震化率を90%まで向上させた場合



耐震化率を100%まで向上させた場合



## 7-2. 人的被害の減災効果（南海トラフ）

- 早期避難率（現在59.3%）を70%に向上させつつ、建物の耐震化率（現在約84%）を向上させた場合の人的被害を算定

(直接避難、用事後避難、切迫避難)

A: 県民避難意識	(59.3、11.8、28.9)
B: 早期避難率低	(20.0、50.0、30.0)
C: 避難迅速化+耐震化	(70.0、30.0、0.0)

